

物をも恐れざる氣魄あつて始めて一身一國の名譽は永久に朽ちざるべきを信ず。

五五四

抑も國際關係は實に變轉極りなく、今日の友邦は明日の敵國にして其離合集散は旦夕を測り知るべからざるものあり。見ずや二十年前干戈の間に相見えたる日獨伊の三國は、今は吳越同舟の盟邦たり。又伊國の「エチオピア」征服に對して敵意を表したる英佛兩國は率先、以て伊國の「エチオピア」征服を承認したるを想ふときは、國際關係の變轉常なきを雄辯に物語るものとす。今や我皇國は英佛米露の諸國と殆んど氷炭相容れざる關係にあるも、是 支那事變に就て意見を異にする爲め已むを得ざる一時の現象なるも、一朝我皇國が聖戰の目的を達成し、東洋に其覇を唱ふるに至れば此等諸國の向背は略察知するに難からず。況や實利主義の英佛兩國に於てをや。故に一時の國際的離合集散は之を意に介するを要せざるなり。

今や字垣「クレイギー」會談を繞りて世論の一部は大に軟化し、列國との協調主義を強調して同會談に頌徳表を捧げて得々たるものあるは、吾人の頗る遺憾とする所なり。吾人と雖も徒に大言壯語、以て快とするものにあらず。列國との協調に一縷の望みありとすれば、敢て協調を非とする者にあらざるも、現下の國際情勢より觀れば、所謂協調とは皇國の列國に對する叩頭屈從以外の何物にもあらざるは國際情勢に通曉する者の信じて疑はざる所なり。即英國に就て之を顧れば、事變勃發以來、同國に於ては現内閣を先驅として前首相「ロイドジョージ」前外相「イーデン」前陸相「チャーチル」

前國際聯盟首席代表「セシル」及び下院労働黨首領「アトレー」等の如き有力なる政治家が中堅となつて排日空氣を鼓吹しあるのみならず、議會に於ては殆んど連日の如く政府當局と野黨議員との間に支那問題に關し八百長的質問應答が繰り返へされ、援蔣排日の氣勢を煽りつゝある其奇觀は、二十年前の同盟國の光景として實に想像にも及ばざる程なりと傳へらるるに依て觀るも、日英協調の可能性なきは明かなりとす。然るに巷間傳ふる所に依れば英國政府は「クレイギー」大使をして北支英國權益に關し我外務省に抗議的提案をなさしめ、其件數は驚く勿れ百五十に達し、其關連事項を加ふるときは、二百七十件を算すと云ふ。斯の如きは實に思はざるの甚しきものと評せざるを得ざるなり。何となれば一方に於て皇國の公敵たる蔣政權を公然援助しながら、他方に於て皇國政府に迫りて其在支權益の擁護を提案するが如きは、是れ吾人より觀れば全然國際道徳を無視して我皇國を愚弄する不信行爲に外ならざればなり。英國政府當局よ考一考せよ。蔣政權が今日迄戰爭を繼續し得たるは、全く英佛及露國が國際道徳を無視し、蔣政權援助の神人共に許すべからざる不信行爲を敢てしつゝあるの結果に外ならざること。之が爲め我皇國は多數の生靈を犠牲に供し、巨額の國帑を消耗し來れり。將來彼等の援蔣政策繼續する限り我生靈の犠牲と國帑の消費とは益増加するは明瞭なりとす。是れ我國民の憤怒が英佛露の三國に向つて期せずして爆發せる所以なることを銘記するを要す。斯の如く觀察するときは英佛露の三國は直接干戈相見えざるも間接的には皇國の敵國以外の何物にもあらざるな

五五五

り。然るに何事を今頃字垣「クレーギー」會談の聲を耳にせんとは。若し外相にして會談開始に先ちて須らく英國大使に向つて斷乎として援蔣政策の放棄を迫るべし。是れ忠良なる我國民の總意なることを忘るべからざるなり。若し大使にして外相の正當なる忠告提言に應ぜざるときは國民の總意に反するものとして會談は斷乎として打ち切るを要す。若し假りに一步を譲り、英國の提案たる在支權益の擁護に應ずるものとせば大陸に於ける皇軍の作戰行動は多大なる制肘を受け、聖戰は中途にして、挫折するの運命に直面するやも計り難しとす。是れ我皇國の興亡浮沈に關する重大問題とす。外相たる者大に鑑むる所なかるべからざるなり。

最後に廣東及海南島問題に關し一言觸るゝ所あらんとするは他にあらず。蔣政權の最後の死命を制するが爲めには、其香港及海口との唯一の連絡據點たる廣東を攻略するの要あるは政略及戰略上極めて重大の意義を有す。而して廣東一帯地域の攻略は排日分子の巢窟をも併せて顛覆し得るの利ありとす。又禍根の伏在地たる海南島も廣東攻略と相前後して占領せざるべからざるは多言を費する要なしとす。而して廣東及海南島攻略に就ては英佛の妨害を豫期し置くの必要あるも、如何なる妨害も斷乎として之を一蹴するの覺悟ありて始めて其目的を達成し得べし。(昭和十三、八、二十七)

「チエツコ」問題の觀察

抑も「チエツコ・スロバキヤ」國と稱するは、往年の歐洲大戰後の「ヴェルサイユ」會議に於て戰敗國たる獨逸洪國の勢力を減殺し、將來其再興を不能ならしむる目的を以て「ウイルソン」大統領の主唱せる民族自決主義に基き、戰敗國より其領土の一部を割讓せしめ、之を併合して造り上げたる「ヴェルサイユ」會議の不自然なる副産物にして、其誕生の動機の不純性は、他日に於ける歐洲大戰の禍根を胚胎するものとして、其當時夙に識者の認めたる所なりしが、果せる哉爾來僅に二十有餘年に過ぎざる今日、「ズデーテン」問題突發し、歐洲の天地は今や雨か將又嵐か暗雲低迷の薄氣味惡き光景を呈して二十有餘年前の豫想の適中せるを雄辯に物語ると同時に、「ズデーテン」問題に次で起れる波瀾兩民族の自決問題は、現實に「ヴェルサイユ」條約の不純性を忌憚なく暴露し、同條約の一大清算を斷行せざる限りは、永遠に歐洲平和は期待すべからざるを痛感せざるを得ざるなり。此に由て之を觀れば今回の「ズデーテン」問題の責任は「チエツコ」國の創造者たる英佛米の諸國が當然負擔すべき義務を有するに拘らず、其責任と罪惡とは之を高閣に束ね、反て失權回復の正義の爲め動きつゝある同情すべき獨逸に向つて平和攪亂の全責任を轉嫁せんとする實に想はざるの甚しきも

のと評せざるを得ざるなり。

蘇て佛英露「チエツコ」及獨等の動靜を一瞥するに、佛國は獨逸の「チエツク」進入を以て直に其の獨立を危ふするものと速断し、「チエツコ」國との相互援助條約履行を口實として、獨逸に對し挑戰的態度を表明しながらも、英國の援助なくては單獨蹶起の勇を缺き、英國の前に膝を屈して其援助を百方哀願して漸く之を納得せしめ、蘇聯も亦佛國蹶起せば我にも追隨の用意ありと揚言し、當面の「チエツコ」も亦英佛露の援助を心秘に期待して自己の力量を顧みるの遑なく、意氣頗る軒昂たるものあるは所謂虎の威を借る狐の類に異ならざるなり。獨り我盟邦獨逸は前掲四國を向ふに廻しても毫も畏怖する所なく、毅然として其所信に向つて邁進せんとする衝天の意氣は、二十有餘年來鬱勃たる復讐心に燃へつゝある戰敗國民としては蓋し當然の行爲にして、毫も怪むに足らざるなり。斯の如くして僅に四百萬に満たざる瑣々たる獨逸少數民族歸屬問題を繞りて、歐洲諸國は相互に反目睥睨して蝸牛角上の鬭争に耽り、若し一步を誤まれば歐洲の天地は一大修羅化せんとするの悽愴たる光景を描出せんとするは、吾人より觀れば實に常軌を逸したる狂態以外の何物にもあらざるなり。今少しく沈着冷靜なる態度を以て對策を講せば平和裡に之を解決し得るは決して難事にあらずと信す。偶々此秋に當り、歐洲大戰の苦き經驗を清喫せる英の「チエムバーレン」首相は、其積年の平和宿望達成の爲め世の毀譽褒貶を度外視し、老軀を提げて蹶起空路獨逸に渡り、「ペルヒテスガーデン」に於て獨

總統と第一次會見を遂げ、解決の見透を得て倫敦に歸還し、佛國首相外相と密議し、英佛間の意見を纏めて所謂英佛提案なるものを作成して之を「チエツコ」政府當局に提示したるに同當局間に大に難色ありしも英佛の援助なくては獨力を以て獨逸と抗争するの實力なきを以て、「ホツザ」内閣は其運命を賭して全面的に英佛提案を受諾することとなり、英首相は九月二十二日再び獨領「ゴードスベルグ」に於て、獨總統と第二次會見を遂げたるも、獨總統の態度強硬なりし爲め、兩者の意見對立し、翌廿三日午前英首相は一書を總統に送つて會見中止を通告し、茲に形勢は急轉直下危機一髪に瀕するに到りしが、同日夜間英首相と獨總統との最後の訣別會見に於て、兩者の間に略意見の疏通を觀、英首相は獨總統の十月一日期限付の「チエツコ」政府當局宛最後通牒の傳達方を受諾して、廿四日倫敦に歸還せり。此最後通牒の骨子なるものは外電の報する所に依れば「ズーデテイン」地方に於ける獨逸民族七割五分以上を含む地域を即時獨逸に割讓し、「チエツコ」軍隊官憲は悉く該地方より撤退し、獨逸軍は之に代つて同地域の秩序維持に任ぜんとするにあるが如し。「ホツザ」内閣の後繼内閣は親露反獨の色彩頗る濃厚なる軍國主義の稱ある「イログイ」將軍を以て首班とする關係上、其態度急に硬化し既に全軍に動員令を下したる今日果して獨逸の最後通牒を受諾するや否やは大に疑問視せられあり。況や新首相は英國内には前外相「イーデン」、前陸相「チャーチル」、自由黨首領「シンクレアー」等の如き有力政治家が英佛案に對して反對を表し、又佛國に於ても數名の内閣員中に反對

者あるのみならず、前「ブルム」首相の如きは社會黨を提げて反對の旗幟を翻しつゝあることを窺知せるに於てをや。雖然最後の解決の鍵を握るものは「チエツコ」政府にあらずして反て「チエツコ」政府を支援しある英佛側にあるを以て英佛兩國にして「チエツコ」政府が其要求を容れざる場合には「ズーデーテン」問題より手を引くの決意を表明せば頼の綱の切れたる「チエツコ」政府は遂に獨逸に屈服するの已むを得ざるに至るべきは豫想に難らざるなり。故に英佛兩國は「ズーデーテン」問題の解決に就ては、獨逸より「チエツコ」國全部を占領するの意思なき言質の下に、嚴正中立を守るを最も賢明の策なりとす。歐洲平和を維持するの途は此際「チエツコ」の妄動を彈壓するより他に策なしとす。徒に僅に七百萬に満たざる赤色「チエツコ」民族を生かさんが爲め歐洲の平和を犠牲に供するは實に愚の骨頂とす。吾人は此際赤色「チエツコ」民族に同情する英佛國民の猛省を促して已まざるなり。

英首相の渾身の努力にも拘らず彌歐洲大戦勃發し獨伊が共同戦線を張り蘇聯が之に参加する場合には、我皇國は獨伊兩國と共同作戦の目的を以て蘇聯に向つて　せざるべからず。元來我皇國と蘇聯とは國體に霄壤の相違あるのみならず、從來の歴史的關係より觀るも、兩國の正面衝突は到底免れ難き運命に置かれ、單に時日の問題に過ぎざるを以て、我盟邦獨伊に向つて彼が挑戦し來る時は即我皇國が蹶起すべき千歳一遇の好機とす。

今や世界は共產及民主主義國家と反共產、民主主義國家との對立にて、前者は主として現状維持派に屬し、後者は主として現状打開派に屬す。若し歐洲大戦勃發の場合不幸にして反共產主義國家たる獨伊の敗戦ともなれば、我皇國も之と運命を共にするの已むを得ざるを以て吾人は如何なる犠牲を拂ふとも死力を盡して反共產民主陣營の勝利に向つて邁進するの義務ありとす。

支那事變及「ズーデーテン」問題に直面して痛切に感ずるは凡そ獨立國たるものは他力に依らず自力を以て飽く迄其獨立を維持するの精神を以て終始せざるべからざるの事とす。夫の支那の如く將又「チエツコ」の如く自國の獨立を外國に依存して維持せんとする卑屈なる精神に捕はるゝときは遂に自滅の斷末魔に逢着するに至るべきは眼前の事實に觀て炳乎たり。殷鑑遠からず豈に警戒する所なかるべけんや。(昭和十三、九、二十六)

歐洲の政情安定と東亞

曩に英國「チエムバーレン」首相の熱誠なる活動飛躍に由つて成立せる獨伊英佛四國巨頭の所謂「ミュンヘン」會議の結果久敷暗礁に乗り上げ、殆んど危機一髪に頻せる「ズーデーテン」問題も一瀆千里の勢を以て僅に數刻の間に無事解決を告げ、茲に始めて戰雲漠々たる歐洲の天地に平和の曙

光を認むるに至れり。是に於て從來多年相互に反目睥睨して蝸牛角上の鬭争に耽りたる獨伊と英佛との犬猿關係も稍融和し、早くも伊國義勇軍約一萬の西班牙撤退實施に依て英國の伊國「エチオピア」征服承認問題も、又今年四月締結の英伊協定も同時に來る十一月一日開會の英國議會に提出して之を可決する豫定なりと報ぜられ、又「エチオピア」問題を繞りて、伊佛兩國間に久しく結んで解けざりし大使交換問題も、一朝にして解決し、佛國は前駐獨大使「ボンセー」氏を伊國大使に任命せり。加之近く英佛伊三國巨頭の地中海會見説さへ流布せらるゝに至れり。又十月十九日巴里電報に依れば、獨總統は離任挨拶の爲め、「ベルヒテスガートン」を訪問せる前佛大使「ボンセー」氏に左記條件を提案し、又駐佛獨逸大使「ウエルチエック」伯は既に右條件に基き佛國政府に交渉を開始せりと傳へらる。

- 一、佛國は獨逸と空軍制限協定を締結し、獨逸空軍の優越權を認むる事。
- 二、佛國は蘇聯との相互援助條約を廢棄する事。
- 三、佛國は「トローランド」及「カルメン」の舊獨植民地を返還する事。
- 四、獨逸は佛國國境の不可侵を保障する事。

十二月二十日伯林及同二十一日巴里電報は、何れも右獨逸の提案、並駐獨佛大使「ウエルチエック」伯の佛國政府との交渉は事實無根なりとして否定するに依て觀れば、今や獨佛は外交交渉の本戦

に入るに先ち、其前衝戦を展開し彼我の狀況偵察中なるやに察せらる。

又獨逸は、英國に向つて某提案をなし、其内には獨空軍の優越權を認むる英獨空軍協定及舊獨植民地返還問題を含むと傳へらるゝも是亦其眞否不明なり。而も「ミュンヘン」會議後に於ける英國政界に於ける一般の空氣は同會議を以て一時的平和保障に過ぎずとの見解に包まれ、大戰勃發の禍根は今尙潜伏するを以て、戰爭豫防の唯一の手段方法は自國々防の充實にありとの理由の下に目下進行中の海空軍擴張計畫を繼續するに如かずとの意見多數を占むるを以て、夫の世間に傳へらるゝが如き英獨空軍協定に於て、獨空軍の優越權を認めんとする提案は其成立困難なるを想はしむるものあり。又英國政治家中には、獨植民地の返還は獨國に海軍擴張の口實を與ふるものとして之に反對する者尠からざるが如きも、獨海軍擴張の口實は、空軍協定の裏面にも之を窺はるゝを以て、海軍擴張の口實を理由として植民地返還に反對するは其根據頗る薄弱なりとす。

過般獨總統の「ザールブルケン」に於ける演説中の「英國現首相桂冠の曉に「イーデン」前外相、「チャーチル」前陸相、「ダップ・クーパー」前海相、の如き對獨戰論者政權を掌握するに至れば、英獨開戦の危険あり」との言明は大に英國政治家を刺激し、「ホアー」内相は十月二十日獨總統の演説に反駁を加へたる等、英國政治家中には獨總統の態度に慊焉たらざるもの尠からざるが如し。

以上の如く「ミュンヘン」會議後に於ける歐洲の政情を觀察するときは、獨伊英佛の四國が、渾然

として一體となり、相融和するには其中間に幾多の障碍難關横はるを以て、將來大に胸襟を開いて互讓妥協の途を開くにあらざれば、永久的平和は到底期待し難きも、大戦勃發の一大原因として算へられたる「ゾーデーテーン」問題解決せられたる今日、今後數年間は歐洲の天地は小康を保ち得べし。翻つて「ミュンヘン」會議を顧みるに、同會議の傑作とも稱すべきは、從來歐洲の一大勢力として跋扈跳梁を逞ふし、而も佛及「チエッコ」國と同盟關係にありし蘇聯を同會議より除外したる一大英斷にして、此事たる恐らく獨伊兩巨頭の強硬なる主張の容れられたるものにして、同會議の成功も亦蘇聯除外が與つて大に力ありしものと認めらるゝと同時に、「ミュンヘン」會議開催前に於ける蘇聯外交の一大失敗は、掩はんと欲するも掩ふこと能はざるなり。十月二十日「ワルシャウ」電報に依れば、在莫斯科「チエッコ」國公使は蘇聯政府に對し、歐洲の現状は相互不可侵條約繼續の不可能なるを通告せるに對し蘇聯當局は在「ブラーグ」蘇聯使臣の召還に決せりと謂ふ。又佛國と蘇聯との不可侵協定も、將來佛國四圍の狀勢は其存續を不可能ならしむるに至るべし。斯の如く蘇聯は將來歐洲の外交舞臺より驅逐せられ、歐洲方面に於て其暴威を逞ふするの餘地を封ぜらるゝに至れば、已むを得ず東亞方面に其鋒鏑を轉向するを餘儀なくせられて、西伯利方面に於ける國防の強化と支那の赤化工作に向つて一段の努力を傾注するに至るべきは之を豫期せざるべからざるなり。雖然目下蘇聯の混沌たる國內狀勢は、當局をして國內の反對分子の鎮壓に餘念なからしめ、到底外難を構ふるの餘裕なき

は炳乎として明かなるのみならず、過般の張鼓峯事件に於て赤軍の能力は既に試験済みにして、強敵として深く意に介するの價値なきも、支那に於ける赤化工作に於ては、大いに警戒を要するものありと爲す。

又從來久しく歐洲方面に於て一觸即發の危機に直面し來りし英佛兩國は、歐洲政情の安定に伴ひ、漸次其餘力を極東に轉向し、或は海空兩軍の増派となつて實現し、支那事變に全力を傾注しある我國に向つて示威運動を試むるに至るやも計り難きも、支那事變に對する武力干涉は世界戰爭の導火線たる事を充分に認識せる英佛當局は、世界戰爭を賭して迄も武力干涉を敢てするの勇氣なきは過般の「ゾーデーテーン」問題に關する英首相の熱烈なる平和運動に依て觀るも明瞭なるを以て、假令兩國が皇國に向つて外交干涉を試むるも、我は耳を傾くることなく、斷乎として之を一蹴し、銳意聖戰の目的貫徹に向つて邁進するを要す。

吾人の常に熱烈に主張し來れる南支上陸作戰が霹靂一聲敵の意表に出で其大成功を告げたるは實に皇國の爲め慶賀措く所を知らざるなり。而て本作戦が蔣政權の最後の死命を制するに如何なる効果を奏しつゝあるかは皇軍上陸後に於ける蔣政權首腦者間の反目軋轢と、其周章狼狽との爲め一戦をも交へずして廣東を放擲せる眼前の事實が雄辯に物語つて餘りあるのみならず、無敵皇軍の向ふ所敵なき破竹の猛進振りに只管一驚を喫せる外字新聞が、事實の前には真相を曲筆すること能はずして、其實

況を報道し、蔣政權の没落目睫の間に迫れるを自覺して悲鳴を揚げつゝ、嗚然として爲す所を知らざるに依て觀るも明瞭なりとす。

今や皇軍の廣東攻略に依て蔣政權の最後の海上交通連絡線は全然遮断せられ且其副産物として排日派の巢窟顛覆の一大收穫あり、次で近く武漢三鎮の要害皇軍の手中に歸するに至れば蔣政權は彌没落か或は微々たる一地方政權に墮するかの一途を辿るの外なきは疑を容るゝの餘地なきも、彼が更に奥地に逃走し一地方政權に墮したる場合に於て、依然として佛領印度支那との交通連絡を保持し、佛國當局亦從來の不公平なる援蔣政策を放擲せざる限りは印度支那徑路は蔣政權殘骸の餘命を保つ主要連絡線たるを以て、我皇軍は一日も速に海南島を占領して佛領印度支那の海口を扼し、以て彼の最後の死命を制するは政略及戰略上の緊急事に屬す。吾人は暫時我軍部當局に信賴し、其日の到來を翹望せんとす。

武漢三鎮陷落の曉には、假令蔣政權の殘骸其餘命を保つも、極めて微力なる一地方政權に過ぎざる事は前述の如くなるを以て、我政府當局は、皇軍の勢力範圍に屬する占領地域内に於て、蔣政權に代はるべき有力なる支那中央政權の樹立に向つて最善の努力を拂ふを要す。我聖戰の最後の使命の達成と否とは、一に懸つて占領地統治の大任に耐ゆる有力鞏固なる中央政權の樹立に成功するや否やにあることを記憶せざるべからざるなり。然り而して此信賴すべき中央政權成立の曉には、皇國は自ら進

んで外交的に同政權を承認し、且我盟邦たる獨伊及西國革命政府並波國等をして皇國と同一歩調に出でしむるは我外交工作の重大懸案たることを忘るべからざるなり。(昭和十三、十、二十三)

更生支那の長期建設と九ヶ國條約との關係

今や廣東及武漢三鎮の要衝は無敵皇軍の蹂躪する所となりて、其手中に歸し、彌蔣政權は今後没落か、或は微弱なる一地方政權にするか、兩者其一途を辿るの外なきは之を豫想するに難からざるを以て、支那事變は廣東及武漢三鎮の攻略を以て彌最後の段階に突進せるものと斷定して可なり。今後如何に蔣政權の殘骸が、聲を大にして長期抗戰を絶叫し、最後の勝利を豪語するも、毫も一顧の價値なき一種の讒語に過ぎずして、到底實現の可能性なきは天下萬人の齊しく首肯する所なり。是に於て、今後皇國に課せらるべき重大使命は、蔣政權の殘骸に對して益皇軍追究の歩武を進むると同時に、皇軍の占領地域内に於ける更生支那の建設の達成にありとす。之が爲には蔣政權に代るべき有力鞏固なる中央政權の出現を先決問題とす。嗣て支那四千年の歴史を検討するに、支那全土に君臨せる周朝以來清朝に至る幾多歴代帝朝の命數が、各數百年を出でずして盡きたるは、畢竟するに其邦土餘りに廣大にして内には言語、宗教、風俗等を全然異にする民族混淆蟠居せる爲め渾然一體となつて相融合

するの困難に基くものと思はるゝを以て、將來新中央政權の建設に於ては、此貴重な歴史の教訓に鑑み、深甚なる工夫を凝らすを要す。余の觀る所に依れば、北米合衆國の聯邦制度の精神は共和制を模倣せざる限り更生支那中央政權の建設上大に參考に資するに足るものありと信す。即ち該制度は歐洲各國より合衆國に殺到し來る人種、言語、宗教、風俗等を全然異にする多數移民を其移住地區毎に分類して、自治政權を組織せしめ、此各政權を聯邦と稱し、此聯邦に委任するに中央政權の統轄する外交、國防及國家の年度豫算（議會と分掌す）以外の凡ての國政を以てして中央政權と聯邦との磨擦軋轢を成るべく緩和せんとするものにして、比較的圓滑に國政を執行し得るの利益ありとす。故に更生支那の行政制度も、此聯邦制度に模倣し、蒙疆、北支中支及南支等の各地方自治政權をして中央政權の管掌する制度、國防及國家豫算以外の凡ての國政を擔當せしめ、之を統轄するに有力鞏固なる一中央政權を以てするを有利なりと信す。此制度は中央政權と地方政權との軋轢磨擦を消磨して、比較的圓滑に國政を處理し得るの利益あるは疑を容れざるなり。此場合に尤も困難を感ずるは、中央政權の人的要素の選擇構成にありとす。余は之に關し自ら腹案を有するも未だ公表の時機にあらずと信するを以て之を省略することとせり。

熟々之を惟ふに我皇國が聖戰の重大使命を達成し得ると否とは、一に懸つて全占領地域の統治に能く任じ得る有力鞏固なる中央政權の建設に成功するや否やにありとす。而て同政權の建設に於ては、

占領地域内の秩序の維持と、治安の回復を先決問題とす。之が爲めには、各地に出没する多數の敗殘兵匪賊及不良分子の掃蕩鎮壓に任する有力なる兵力を必要とし、而も今後數年間専ら皇軍自ら之に當らざるべからざるを以て目下出征中の皇軍の大部は直に之を内地に撤退する得ず、加之北滿地方に於ては虎視眈々たる兇露に備ふる爲め、今後駐滿兵力を益強化するの必要なるに想到するときは、皇國は將來多數の常備兵力を準備せざるべからざるのみならず、今後出征軍の兵器、裝具被服及彈藥等の復舊を必要とし、尙且占領地域内に於ける資源の開発、産業の擴充、交通網の建設、河川港灣の改修及其他の文化事業、並罹災民の救恤等、數へ來れば我皇國の負擔すべき事業は實に枚舉に遑あらざるを以て、將來之に要する我國民の負擔は、益増加するも、輕減の望少なきを想へば、吾人國民は萬難を排して如何なる犠牲も之を拂ふの覺悟を必要とす。今や皇國の國勢は旭日昇天の勢を以て發展し、北は西伯利の寒帯地方より黃海支那海に沿ひ、南は熱帶圈たる支那大陸の南端に至る蜿蜒數千哩の地帯は皇國の勢力範圍と化し、皇國臣民積年の宿望たりし東亞の覇を掌握するの端緒を開きたるは、苟も昭和の聖代に生を受けつゝある吾人國民に取つては最高の名譽、至大の幸福たるを想へば如何なる犠牲も自ら進んで喜んで之を負擔するの覺悟なかるべからざるなり。

右の如く更生支那の建設の爲めに、實に莫大の經費を要するを以て、我國民の一部には英米等諸外國資本の投資を歓迎せんとするの聲を往々耳にすることあり。又英の「チニムバーレン」首相は嘗て

議會に於て議員の質問に答ふるに、更生支那の建設には日本は獨力にては到底其莫大なる資金の負擔に耐へ難きを以て、早晚英國資本の供給を仰ぐの時機到來すべしと放言して樂觀的態度を裝へるは、更生支那の建設に如何に莫大の資金を要するかを吾人に警告せるものにして、他山の石として大に研究の餘地ありとす。

更生新支那の建設に方り、我皇國の對支政策遂行上、國際的に一大障礙を呈するは往年の華府會議に於て締結調印せられたる九ヶ國條約の現存すること是れなり。本年十月六日米國が我外務省に對し、長文の抗議書を提出し、滿洲及支那に於ける皇國の行動が九ヶ國條約の主義に背反するものとして幾多の事例を擧げて、皇國の非行を訴へたる事實が之を雄辯に物語つて餘りありとす。

抑も九ヶ國條約と稱するは、往年の華府會議に於て米國全權の一員たりし米國初代ルーズヴェルト大統領時代の國務卿「ルット」氏の提案を骨子として作成せるものを、日、英、米、伊、佛、白、和、葡、支及の九ヶ國が締結調印せるものにして、今日より之を觀れば、時代錯誤の色彩濃厚に織り込まれたる一種の骨董品に過ぎざるなり。曩に機に投じ歐洲大戰に参加し、僥倖にも奇功を奏せる米國は聯合國の勝利を以て自國の參戰に由るものと自任自負し、其餘勢を驅つて華府會議を召集し、之に参加せる米國全權は、傲然として會議に臨み、其專恣橫暴の態度は事毎に表面化し、當時親しく會議に参加せる吾人をして轉た聲響痛憤せしめたるは今尙余の記憶に新たなる所なり。故に夫の九ヶ國

條約なるものは、余を以て之を觀れば米國全權の橫暴を代表せる所謂華府會議の副産物に過ぎざるなり。故に該條約を一瞥するときは、獨立國たる支那の主權を全然無視して、之を純然たる植民地視せる頗る不純なる見地に立脚して作成せられたるの跡は躍如として紙面に溢れて餘す所なしとす。即該條約の根本方針に於て、獨立國國たる支那を取扱ふに主權、獨立、領土及政治的保全の尊重と機會均等並門戶開放主義の確立及維持とを強調せるに依て觀るも明瞭なりとす。斯る不純極まる條約に我皇國が調印國の一員として其名を留むるは、現代人より觀れば不可解の事に屬するも、悲哉二十有餘年前我國民が歐米崇拜思想に捉はれたる追從退嬰外交時代の遺物として之を觀るときは、深く咎むるに足らざるも、此不純なる條約が我國民の皇道精神に蘇活せる今日、尙何等の訂正を觀ることなく原形の儘存續するは、實に不可解不自然の現象にして、今は一日も之が存續を默視すべきにあらざるなり。雖然、翻て之を考ふるに、本條約は往年の滿洲事變に際し、國際聯盟が我皇國に對して反旗を翻し、滿洲事變を以て國際聯盟規約に違反するものとして我主張に反對したる爲め、我皇國が驟然として同聯盟を脱退せし以來皇國の關する限りは事實に於て該條約は其効力を失し、當時の米國國務卿「スチムソン」氏の熱誠なる反對運動も其効なく、皇國が同條約の羈絆を脱して其所信に向ひ邁進し、遂に聖戰の目的を貫徹し滿洲國の建設に成功したるは事實に於て皇國は同條約履行の義務を有せざる事を世界に宣明したると何等異なる所なしと雖も、今尙皇國が友邦支那を侮辱して之を植民地視

せる該條約の一員たることは、更生支那國民に對しても大に憚る所あるのみならず、米國の如く認識不足にして、時代錯誤の古證文に等しき舊條約を引用し今尙我對支政策に妨害を試みんとする國あるを思ふときは、同條約は一日も速に之を清算するを要す。況や最近我皇國が、支那事變に對する國際聯盟の認識不足を憤慨して聯盟との關係を一切斷絶し、而も同條約の調印國は米伊兩國を除けば悉く皇國に好意を有せざる國際聯盟加入國たるに於てをや。而て昨今の外電は皇國に同條約廢棄の企圖ありとして、米、英、佛等の諸國に於て皇國に對し、示威的言論を弄しつゝあるの情報を頻々として傳ふるも、斯る脅喝的言論に耳を傾ることなく、皇國は國運を賭するも斷乎として正義の主張たる同條約廢棄乃至脱退の貫徹に向つて邁進するの覺悟なかるべからざるなり。(昭和十三、十一、八)

年 頭 の 辭

(昭和十四年の新春を迎へて)

歲月は流るる如く今や早くも多事多端なりし支那事變の第二年を兵馬倥傯の間に送りつゝ、洋々たる希望を抱いて其第三年たる昭和十四年の新春を迎ふるに方り、往事を追懐し、將來を展望するとき、轉た感慨の無量なるを禁じ能はざるものありとす。

回顧すれば昨年は徐州の攻略を端緒に、武漢三鎮の要衝及南門の鎖鑰たる廣東を屠つて、殆んど蔣政權の死命を制し、彼をして微弱なる一地方政權と化して、氣息奄々辛ふじて露英佛の援助の下に其餘命を保つの悲境に呻吟せしむるに至れるは是れ偏に 大元帥陛下の御稜威の下に、我忠勇なる皇軍將兵の獻身奉公的至誠の賜物に外ならざるを想へば、吾人國民は舉つて轉た感激措く能はざるものありとす。

雖然聖戰の目的を達成せんと欲せば、尙百尺竿頭一步を進めて、蔣政權殘骸の殲滅と更生支那の建設との二大使命の貫徹を期せざるべからざるを以て、支那事變は其前途尙遠なるを想はしむるものありとす。而て蔣政權殘骸の殲滅の爲めには、先づ彼の生命線として殘されたる佛領印度支那並蘇聯との連絡を遮斷するを要す。之が爲めには印度支那の咽喉を扼する海南島と、赤色路として知られたる西安蘭州線の發起点たる西安とを攻略するを要す。

更生支那の建設の爲めには余は嘗て明倫紙上を介して支那四千年の貴重なる歴史の教訓に鑑み、支那の如く領土廣大にして四億を算する莫大なる人口を有し、而も地方に依り民族言語宗教及風俗等を異にする邦にあつては、新政權の組織は共和政體を踏襲せざる範圍に於て、米國の聯邦制度に模倣するを可とするの卑見を縷述し置きたり。

抑も米國は千六百〇七年即今を去る約三百三十餘年前に倫敦及び「ブリマウス」の兩會社が米國大

西洋岸「マッサチューセツツ」州の「デエームスタウン」に英國の一植民地を創設せるを建國の嚆矢として爾來英國に於ける宗教迫害運動に憤慨して祖國を脱出せる清教徒一團の「マッサチューセツツ」州「ブリマウス」移住に次で「クエーカー」、羅馬舊教、「プレスビテリアン」、「エビスコーパル」及「コングレゲーション」等の各教派の集團を接して新世界に渡航し來りて新英國植民地五州を建設し、降つて一千七百七十五年の獨立戰爭後は歐洲全土より毎年多數の異民族陸續として移住し來り遂に今日の人口一億三千萬有餘を算し、世界に冠たる富強の一大獨立國の建設に成功せるものにして此一億有餘の移民は民族、言語、宗教の異なる毎に概ね一團となつて聯邦を組織し、現在に於ては其聯邦の數は四十有八の多數を算するに至れり。而して各聯邦は廣汎なる自治權を有し外交及國防以外に關する國務の凡てを管掌し、各聯邦毎に各異の法律を制定し、其長官たる知事は文武の大權を掌握して行政の外州兵の編制訓練及び指揮權を有するを以て各州は宛も我徳川封建時代の各藩の如く半獨立國の觀を呈す。即ち何人と雖も桑港紐育間四晝夜の汽車旅行中禁酒州を通過するときは嗜好の酒の一滴だに口にすること能はざるは各州毎に法律を異にするの適例にして、又大統領就任式の如き公式の儀式の場合には高帽「フロックコート」姿の各州知事が馬上傲然として軍服姿に威儀を整へたる多數の州兵幕僚を隨へ意氣揚々として州兵の先頭に騎行する光景は米國ならでは觀るべからざる一奇觀にして、是れ即文官出身の知事が州兵の統帥權を有する示威行列とす。此の如く米國の行政制度

は我皇國の如き中央集權制にあらずして、極端なる地方集權制なるは、其の建國の歴史の然らしむる所なりとす。

翻つて支那に眼を轉するに、邦土廣大にして、多數の人口を有し、而も各地方に依り民族、言語、宗教及風俗等を異にする點は實に能く米國に髣髴たるものあるを以て、更生の新政權の制度は米國の聯邦制度に模倣して長を採り短を捨て、各自治政權に廣汎なる權限を附與し、各政權毎に地方に適應する法律の制定を許し、且各自治政權の長官に行政の外軍事をも管掌せしめて管區内の壯丁を徵募して保安隊を編成せしめ、其訓練及指揮は主として皇軍の在郷將兵を以て之に當らしめて管區内の治安及秩序の維持を擔任せしむるを要す。斯くするときは目下治安維持に任じある我皇軍は漸次其任務を保安隊に譲りて撤退し得るに至れば皇軍の負擔は大に輕減せらるゝ利あり。加之支那本土は幸に虎視眈々たる隣邦と接壤せざる爲め、滿洲國の如く強力なる國防軍の必要なきを以て、皇國は國防の負擔を免れ、將來蔣政權の殘骸潰滅し、且共產勢力失墜するの曉には、皇軍は治安及秩序維持に必要な兵力を駐屯せしむるを以て足れりとす。

以上の方法に據るときは、地方自治政權は漸次順調の發達を遂げ、其基礎を確立し得るの見込あるも尤も困難を痛感するは此各自治政權を統轄する中央政權の建設是れなり。支那の現状に於ては假令革命時代に驍名を馳せたる吳佩孚の如き人物を以て之に擬するも、一兵の手兵だに有せざる彼が徒手

空拳以て自治政權に向つて號令せんとするも其威信の之に伴はざるは之を如何ともする能はざるなり。彼試に思へ、かの蔣介石が永年能く四百餘州に君臨せるは幾百萬の有力なる軍隊の背景に依るものにして、今や敗戦に敗戦を重ね、落日の悲哀に沈淪しながら尙能く其餘命を保ち長期抗戦を豪語しあるは、未だ彼が數十萬の殘兵を有するの結果なるに想到せば、支那國民に號令せんとする者は必ず有力なる軍隊の背景を必要とするに拘らず、支那の現状に於ては、斯る人物は得て之を求むべからざるを以て、皇國の爲め殘されたる唯一最善の對策は、支那出征軍を統率すると同時に、各自治政權をも統督指導する權能を有する總司令官を任命して、中央政權の職務をも兼任せしむる以外には他に策の施すべきなしとす。是れ支那の現状に於ては萬已むを得ざる窮通の策にして、支那國民の幸福に寄與する點より考ふるも、之に優るの良策なしとす。然るに徒に領土的野心なしとの皇國政府屢次の聲明の美名に拘泥し、且支那國民や國際關係を懸念して、逡巡以て其實行を躊躇するときは遂に之が實行の好機を逸し、各自治政權が自由放恣の行動を開始するも、之を統一するの機關なくして我國策の遂行上一大障礙を呈し、聖戰の使命達成に一大蹉跌を來し、日滿支三國提携の下に東洋平和の建設に貢献せんとする皇國の熱望も遂に水泡に歸するなきを保し難しとす。語に曰く斷じて行へば鬼神も之を避くと。要は斷の一字にあり。余は我當局の一大決心を促して已まざるなり。而して總司令部内には作戰、外交、行政、教育、財政、産業、交通、通信等に必要なる諸機關を設置し、其要員は日支兩國人を以て之に充つるを要す。

苟も更生支那建設の重任に當る者は、現代支那國民に對する正當なる認識と理解とを誤まらざるに深甚の注意を拂ふを要す。現代支那國民は二十七八年の日清戰役より今日に至る迄約半世紀の間抗日教育の一色を以て全面的に塗り潰ぶされ、爲めに最初より蔣政權の政策に反對し來れる者以外は日本に對する復讐心の鬱勃として禁ずべからざるものあるは之を推知するに難らず。今回の支那事變に於て、敗殘兵及土匪が今尙我占領地内の所々に出沒横行して交通機關等に危害を加へ、且日本軍に歸順せる良民を迫害するも、將又敗北に敗北を重ねたる蔣介石の部下將兵が依然として彼の令下にあつて、抗日戰に従事するも其淵源は半世紀にわたる長期間の徹底せる抗日教育に深く感染せる結果なりとす。抑も愛國心に溢れたる國民が其祖國の國難に臨んで献身報國の念に燃ゆるは寧ろ當然なるを以て余は敢て彼等を誹謗せんとするものにあらざるも、如何せん一旦其主張を異にし、干戈相見へたる以上は小節に拘泥することなく斷乎として武力を以て彼を彈壓し、彼が悔悟の誠意を表して城下の誓をなすに至る迄は決して追窮の銳鋒を緩むべからず。故に吾人は彼等が從來の誤まれる抗日容共政策を放擲し祖國百年の長計の爲め、皇國の長計の爲め皇國と相提携して東洋平和に貢献するの得策なる所以を自覺し、無條件歸順を切望して已まざるなり。

吾人は各自治政權の要人全部に對し、疑を挟むものにあらざるも、最初より大乘的見地に立脚して

蒋介石の抗日容共政策に反対し、抗日戦に加擔することを避け之を傍觀せる者の外は永年の抗日教育に感染して抗日意識に燃へながら、抵抗力を喪失し、萬已むを得ず一時歸順を裝ひ、窃に反旗を翻すの機會を狙ひつゝある者も悉無とは斷言し難きを以て新政權建設の重責に當る者は絶へず深甚の注意を拂ひ、苟も往年の冀察及冀東政權の二の舞を再演するが如き失態を醸さざるの覺悟なかるべからざるなり。故に此の如き反逆心に燃ゆる一味の蹶起を慮り、不慮の事變に備ふる爲め總司令官の隷下に有力なる兵力を永久的に駐屯せしむるにあらざれば枕を高くして眠むこと能はざるなり。

歐米政界最近の動向觀察

一時歐洲大戰再發の導火線として危機一髪に瀕し、世界環視の焦點となりし「ブーデテン」問題も「ミュンヘン」四國會商の結果、宛然大風一過の光景を呈し、忽焉として平和の曙光は歐洲の天地を照らすに至れり。即ち「ミュンヘン」會議直後英獨兩巨頭の會見に於て、左の平和協定を遂げたり。英獨間に關係ある問題は、英獨兩國及歐洲の爲め、尤も重要事件たるを認むるに意見の一致を觀たり。吾々は、昨夜調印したる協定、及英獨海軍協定は、兩國民が再び決して戦争に訴へざる希望の旗印なりと認む。

吾人は兩國に關する如何なる問題も、協調の手段に依つてのみ解決するに決心すると同時に、戦争の起り得る原因を一掃する爲め、吾人は努力を繼續し以て歐洲平和の保障に貢献するに決意せり。右の協定を端緒として英佛兩國の伊國「エチオピア」征服の承認となり其結果は本年四月締結せられたる儘行衛不明となりし英伊兩國間の地中海協定の效力發生となり、或は久しく中絶せられたる佛伊兩國間の大使交換の實現となつて佛伊國交調節の端を發し、次で巴里に於て開催せられたる英佛會談を契機として連續的に英獨、及佛伊會談の開催をも期待せられたるに、豈に圖らん花開けば風雨の害あるの例に洩れず、在巴里一獨大使館員の暗殺事件に端を發せる獨逸の「ユデヤ」民族壓迫問題は、流石に「ユデヤ」勢力の根柢深き英米兩國の輿論を痛く刺激し、反獨氣勢に益々油を注ぎ、英米兩國政府は獨逸政府に對し強硬なる抗議を提出し、感情の激する所米獨兩國は遂に大使を召還し、兩國の國交上に亀裂を生ずるに至れり。

斯の如くして英國首相が苦心慘澹折角努力し來れる平和工作も、權花一朝の夢と化し、英獨會談の如きは當分實現の見込なきに至れり。加之低氣壓は天候を脅かし、次より次へと圖らずも最近伊國議會に於ける伊外相の外交演説を繞りて、代議士連の「チユニス」、「コルシカ」、「サヴオイ」及「ニス」等の佛領土に對する割讓要求を示唆する行動は大に佛國民を激昂せしめ、佛伊の外交關係は頓に緊張を來し、在伊、佛國大使の抗議に對する伊外相の反駁となり、形勢は益々惡化の傾向を辿り、

遂に英國は伊の行動を以て英伊協定に依る地中海の現状を破壊するものとして、在伊、英大使をして抗議せしめたるに、之に對し伊外相は議會に於ける代議士連の行動は英伊の地中海協定に何等影響を及ぼすものにあらざるを辯明せる爲め、不安に驅られたる英當局も稍安堵し、既定計畫の來年一月十一日の英首相及外相の羅馬訪問も何等の變更なく實行せらるゝに決せりと傳へらるゝも、其後の情報に依れば「コルシカ」及「チユニス」に於ては反伊の示威運動起り、紛擾を惹起せる爲め伊國の輿論大に沸騰し、伊國新聞は反佛記事を掲載しつゝあるが如くなるを以て、今後の佛伊關係の成行は大に注目に値ひするものありとす。

斯の如く佛伊兩國が反目軋轢しつゝある間に、永年犬猿管ならざる不和の關係に置かれし獨佛間の會談は彌々十一月六日獨外相の巴里訪問に依つて實現し、獨佛外相の間に現在兩國々境の不可侵並第三國との持種關係を保留し、兩國間の紛争を平和的商議に依つて解決するの協定成立し、茲に多年の確執は清算せられて兩國間の善隣關係は彌強化せらるゝに至れり。斯くの如く案外容易に兩國間の外交の調節を觀たるは、這般在佛、獨大使館員の暗殺事件當時佛國外務當局の好意的にして且誠意ある機宜に適したる對應策が獨國民に非常なる好感を以て迎へられたると同時に、最近波國の裏切的行動と、波、羅、洪三國の獨逸包圍策とが東方進出を策する獨國の爲め一大障礙を呈するを自覺せる獨國が、寧ろ小異を棄て大同に就き佛國と握手して後顧の憂を除くに如かずとの見地に立脚せる結果なる

が如し。今回の協定に依つて、獨逸が平生嫉視したる佛蘇不可侵協定も殆んど翻弄せられて、骨抜同様の觀を呈するに至れり。以て蘇聯の佛國に對する反感は想像するに餘りありとす。

過般「ミユンヘン」四國會商より除外せられ、且盟邦「チエツコ」に裏切られて耻を世界に晒したる蘇聯は、遂に波國を説得懐柔して之を藥籠中のものとなして獨國の「ウクライナ」進出に備へ、尙日獨兩國に慊焉たらざる米國を煽動して、日獨兩國に對抗せんとし、頻りに米國內の反「フアツシスト」派に呼び掛け「フアツシスト」派の行動を摘發攻撃しつゝありと傳へらるゝは、歐洲の外交舞臺より驅逐せられたる蘇聯の行動としては、怪しむに足らず。今後は彼は益々東亞に其魔手を伸し、支那の赤化に狂奔するは、吾人の豫期して疑はざる所なりとす。

更に翻つて太平洋の彼岸に眼を轉するときは、米國の外交は英國式の現實外交と異り、飽迄理想を以て終始する傳統を有す。即ち現爲政者の主張する所は、國際條約の遵守、及武力に依る國際狀勢變化の否認、及「ケロッグ」不戰條約の實現等にあるを以て米國大統領は暗に日獨伊の三國を侵略者呼はりして其病菌傳染豫防の爲め侵略者の隔離を主張せる有名なる市俄古演説は、今尙世人の記憶に新たなる所なり。故に米國は飽迄此原則に基き、支那事變に對處し我聖戰の目的及行動を否認して我皇國を侵略者呼ばはりし、米國上院外交委員長「ピットマン」は嘗て其演説中に日本の傀儡とも稱すべき新政權は絶対に承認せず。假令蔣政權が真地に逃竄して微弱なる一地方政權と化するも、米國政府

は之を見放すものにあらずと主張せることあるに依て觀るも、英國式の現實外交とは零壞の差あることを知るに足るものありとす。

過般米國政府が揚子江の航行權及支那の門戶開放及機會均等に關し、我皇國政府に提出したる抗議に對する皇國の回答が、米國の希望に満たざる所ありしを以て、今や米國政界には經濟的に日本を壓迫すべしとの議論朝野に沸騰し、來議會には先づ中立法の改正案を提出し、之が通過を計つて日本に對する軍需品の輸出を禁止するの策に出づるにあらずやと察せらるゝ節なきにあらざるなり。若し英米佛露の四國が相提携して在支權益の擁護門戶開放及び機會均等に對し強硬なる抗議を提出し來るも彼等には武力を行使するの勇氣なきは明瞭なるを以て、一種の案山子の脅威と見做し、皇國は斷乎として之を一蹴し、最後の場合には報復手段に出で銳意聖戰の目的貫徹に向つて邁進するを要す。而して英國は歐洲政界の安定に乘じ、新嘉坡軍港の強化を計り、有力なる軍艦を東亞に増派するの計畫ありと傳へらるゝも、是れ皇國に對する脅威に過ぎざるを以て、毫も意に介するを要せざるなり。

最後に一言を要するは、歐米諸國は口に平和人道及自由を唱へながら、其實は武裝平和を夢み、英國は曩に議會の協賛を経たる五ヶ年計畫の軍備擴張費十五億磅を以て銳意其實行に着手し、米國も軍備擴張費として十五億弗を議會に要求するに決し、海軍航空機を一躍一萬二千機に陸軍機を七十機に増加せんとする外海軍の建設に全力を傾注し、加奈陀を含む全米の覇者として西半球の國防を一手に

引受けんとするの軒昂たる意氣に燃ゆるものゝ如し。果して然れば我皇國は獨り其競争圏外に超然たること能はざるを以て、世界の軍備擴張の落伍者たるの不覺を採らざるに深長の注意を拂ふ所なかるべからざるなり。(昭和十三、十二、七)

支那事變に對する英米佛露の動向觀察

我皇國が國運を賭し死力を盡して奮闘中なる支那事變に對し、我友邦たる英、米、佛、露の四國は陰に陽に妨害運動に狂奔しあるのみならず、反て露骨に援蔣政策を弄して毫も顧る所なき其國際的不信不義の行爲は、吾人國民の頗る遺憾とする所にして、此等四國に對する其の怨聲が國內到る所に鬱然たる所以も亦理なきにあらざるなり。而て舊臘三十一日の米國政府及一月十四日の英國政府並に一月十九日の佛國政府の皇國政府に對する抗議的通牒は事前に三國間に連絡了解ありてなされたるものなるは明瞭にして、孰れも我皇國の崇高なる聖戰の目的を誤解し、我皇國が領土的野心に驅られて九ヶ國條約を一方的に廢棄し、同條約規定の門戶開放及機會均等主義の原則を無視して三國の在支權益を蹂躪しあるが如く誣ゆるは三國共其軌を一にするものにして、吾人より觀れば實に認識不足も亦甚しと評せざるを得ざるなり。

抑も往年の滿洲事變に際し、此等の諸國が皇國の行動を以て九ヶ國條約に牴觸するものとして、屢皇國政府に抗議を提出し又國際聯盟に於ても皇國全權に對し、包圍攻撃を加へて肉迫し、滿洲撤兵を迫れるも、元來皇國の行動は支那側の挑戰に應ぜざる正當なる自衛的行動に過ぎざりしを以て、皇國は斷乎として其不法なる抗議を一蹴して、聖戰の目的貫徹に向つて邁進し、其結果堂々たる滿洲帝國の出現を観るに至れるは彼等が如何に聖戰の目的を曲解せるかの一端を雄辯に物語つて餘りありとす。又今回の支那事變に於ても皇國政府の數次の聲明に依り、皇國に領土的野心の存せざる事は天下周知の事實なりとす。而て今更反復する迄もなく、九ヶ國條約は皇國の關する限り、既に滿洲事變に於て其效力を喪失し、宛も時代遅れの古證文に異ならざる同條約を金科玉條として之が不履行の罪を皇國に課せんとするも、斯る時代錯誤の提案は斷乎として之を一蹴し、銳意聖戰の目的貫徹に向つて邁進せざるべからざるなり。之が爲め一時作戰の必要上彼等の在支權益を侵略する事あるも、是れ聖戰の目的達成上萬已むを得ざるの臨機的措置にして、此見地よりすれば彼等の百の抗議も皇國に取つては毫も一顧の價値をだに有せざるなり。斯の如く彼等の抗議に對する皇國の決意微動だもせざるに於ては、彼等は遂に皇國壓迫と援蔣政策實行の爲め何等かの報復手段を講ずる事あるを豫期せざるべからざるも、元來彼等には武力干渉を試むるの勇氣と決意とに乏しきを以て、結局經濟的壓迫の手段を決定するの餘儀なきに至るも計し難しとす。現に米國に於ては皇國に對し軍需品の輸出を禁止すると同

時に援蔣政策を實行し得る如く現行中立法改正の議あるを以て、其實現は之を胸算し置かざるべからず。又英國に於ても英本國及屬領向け日本商品に對し高率關稅を課して日本商品の輸入を全然杜絶せんとするの論を耳にするを以て其實現の可能性は之を認めざるを得ず。果して彼等兩國が日本に對し經濟封鎖を斷行するに至れば遂に經濟戰の開幕となるを以て、皇國は生存上之を袖手傍觀するを得ず。斷乎として報復手段を決行せざるべからず。其手段方法は一にして足らざるも、尤も捷徑にして且効果的なるは、支那及英領印度支那港灣及香港に出入する第三國船舶を悉く臨檢し、軍需品積載の船舶は残らず之を捕獲するの手段を實行するにありとす。若し我政府當局が其結果の重大なるを怖れて之が實行を躊躇するが如き事あらんか、聖戰の目的は中途に於て全然挫折し、往年の西伯利出兵の二の舞の一大失態を演ずるなきを保し難しとす。故に政府當局は世界戰爭尙且辭せざるの牢固不拔の決心を堅持して聖戰の目的貫徹に向つて邁進せざるべからざるなり。

抑も支那大陸は亞弗利加大陸に次ぐ列國の利害關係の尤も錯綜せる邦土にして、宛然一見列國植民地の觀を呈するを以て、支那との聖戰は直に惹いて列國利害の侵犯を免れざる爲め自然世界戰爭勃發の動機を多量に含有するは事變勃發當初より吾人の豫期したる所なるも、幸にして今日迄其事なくして辛ふじて之を經過したるは實に不幸中の幸なるも彌列國が皇國に對し經濟封鎖を斷行するに至れば皇國は斷乎として之に應戰せざるべからず。事茲に至れば彼我の好むと好まざるとに不拘支那事變は

世界戦争化するなきを保し難しとす。故に成るべく斯る事態の發生を豫防する爲め一日も早く蔣政權の殘骸に最後の一聲を加へて之が潰滅を期せざるべからず。之が爲めには益進んで蔣政權追究の銳鋒を急にして、彼に陣容回復の餘裕を與へざるを要す。是れ列國をして其援蔣政策の愚を自覺せしむるが爲めにも頗る効果ありとす。而て其實行方法としては援蔣權唯一の海口連絡線たる佛領印度支那との通路を遮断する爲め其海口を扼する海南島を攻略すると同時に、赤色路として知られたる蘭州西安路の據點たる西安を攻略せざるべからず。加之海南島の占領は他日彼等の經濟封鎖實現の場合に際し、廣州灣及印度支那港灣に出入する第三國船舶を臨檢するが爲め頗る有利なる地位を皇國に提供するの便ありとす。況や蔣政權が列國援助の餘勢を驅つて長期抗議を豪語しある現状に於ては、武力の行使を等閑視し、徒に外交工作に依つて聖戰の目的を貫徹せんとするも到底實現の見込なきに於てをや。

故に我政府當局は蔣政權潰滅の爲め益武力の發揚を圖ると同時に有力鞏固なる中央政權の建設に向つて大に努力する所なかるべからざるも、如何せん支那の現状に於ては假令何人を以て中央政權の首腦者に擬するも手兵を有せざる者をして徒手空拳以て其重大任務に當らしめんとするは宛も空中に樓閣を畫くに異ならざるを以て、當分有力鞏固なる中央政權の建設は殆んど望なしとす。故に余が嘗て明倫紙上に論じたる如く、中央政權の出現迄暫定機關として、出征皇軍を統率する總司令官を任命し、同官をして蔣政權の潰滅と各地方政權を指導して占領地區内の治安及秩序の維持に當らしめ、徐

ろに中央政權の建設を畫策せしむるを要す。余は我政府當局の熟考を切望して已まざるなり。

(昭和十四、一、二十五)

一、中國聯治和平委員の意見に就て

「中國聯治和平委員の意見」と題する小冊子を閲讀するに、蔣政權は事變勃發以來連戰連敗の悲哀を滿喫し、今や微弱なる一地方政權に墮し、幸ふじて英米佛露等諸國の援助に依存し、氣息奄々其餘命を保持しあるに拘らず、同冊子は憶面もなく「最後の勝利は日支兩國の何れに歸するやは何人も判斷に苦む所なり」と大言壯語して、全く戰敗の事實を高閣に束ね、戰勝者たる皇國を戰敗者たる自國と平等視せんとする謬される見地に基き、和平を講ぜんとする其傲慢不遜の態度と、認識の錯覺とは到底常識を以て之を律する能はざるのみならず、尙一步を進め和平の根本策に論究して、「和平の先決問題は、北京中央政府成立の日を以て、日本軍事機關の撤退を開始し、以て蘆溝橋事變以前の狀態に復歸するにあり」と豪語して毫も憚らざると同時に、親日防共政策を好餌として、皇國を誘惑し、皇軍を支那より驅逐し、其羈絆を脱したる後飽く迄皇國と對等の地位にあつて、其獨立を保持せんとする度し難き態度は、實に言語道斷沙汰の限りと評せざるを得ざるなり。試に想へ、若し彼等の言を

信じ皇軍を支那より撤退せんか、撤退後の支那は如何なる状態を呈するに至るか、必ずや事變前の抗日支那に復歸すべきは、炳乎として明かなりとす。想ふて茲に至れば、實に軍慄禁じ能はざるものありとす。斯る平等的觀念は畢竟するに、我皇國の一部人士の間に流行する對支優越觀念を不可とする論據を得たり賢しと其儘取り入れたるものに相違なきも、元來斯る平等觀は個人間の交際に於ては或は正當ならんも苟も國事に關する問題を議するに方ては斯る退嬰卑屈なる見解に捕はるゝことなく、斷乎として戰勝國たる體面と威信とを保持し、飽く迄指導的態度を以て行動することを忘るべからざるなり。否らざれば、吾人國民の擧つて主張する東亞の安定勢力を以て自ら任じ、東亞の盟主として其威力を發揮することは全然不可能なりとす。想ふに前述和平委員の意見なるものは、目下和平救國運動の中堅人物として活躍中なる吳佩孚及汪兆銘一派の主張を取り入れたるものなるは、彼等驟起の動機より之を推測するに難らざるのみならず、某支那通の洩らす所に依れば、「蔣、吳の間には暗黙裏に連絡あるのみならず、蔣の股肱たる汪が、蔣の意圖を受けて和平運動に乗り出したるは疑を容るゝの餘地なきが如し。兎に角汪の最初の聲明に於て、皇軍の支那駐屯に反對せる經緯に徴すれば、蔣汪兩者の間に一脈の連絡あるは之を推知するに難らざるなり。斯る疑惑の人物を介して、和平を講ぜんとするは、宛も薪を抱て火中に飛び込むに異ならずして危険是より大なるはなしとす。故に如何なる經緯を以て吳及汪が和平運動に乗り出し來れるかは今更詮議立てするの必要なく、皇國政府

としては此等兩人の申出でに毫も耳を傾くることなく、斷乎として其是と信する所即蔣政權の打倒に向つて邁進すると同時に有力鞏固なる中央政權の建設に向つて最善の努力を拂ふ所なかるべからざるなり。即蔣政權打倒の爲めには海南島が皇軍の有に歸したる今日に於ては、赤露との唯一の連絡線たる蘭州、西安間の赤色路の據點たる西安を一日も早く攻略するを要す。又有力鞏固なる中央政權の建設は支那の現状に於ては一朝一夕の能くする所にあらざるを以て、信頼すべき中央政權建設迄の暫定的機關として余の持論の如く總司令官を任命し、同官をして在支皇軍を統卒せしめ蔣政權の打倒に任ずると同時に、各地方自治政權を指導して、皇軍占領地域内の治安及秩序の維持を擔當せしめ、且同官をして徐ろに中央政權の建設を畫策せしむるを要す。然り而して蔣政權の打倒は蔣介石の下野及其隸屬抗日軍隊の解散を観るに至れば其目的は達成せらるゝを以て、其實現する迄は蔣政權追究の鋒銜を緩むることなく、銳意之が打倒に向つて邁進するを要す。

二、皇軍の海南島占領に就て

皇軍の海南島占領は近來の一大快事にして、一度同島占領の飛報全國に傳はるや、山間僻地に至る迄一齊に歡聲の起れる所以のものは、蓋し國民が一般に平素同島に對し深甚の關心を拂ひ、其占領を

翹首期待したるの事實を雄辯に物語つて餘りありとす。是れ同島の占領は、對支作戰上の一時的利益に留まらずして、恒久的に政略戦略及經濟的利益を皇國に提供する實に無限の意義を含有するものにして、國民が朝野擧つて踴躍狂喜せる所以も亦理なきにあらざるなり。

抑も海南島の地形を按ずるに、同島は英領香港と其東洋唯一の海軍根據地たる新嘉坡との連絡を完全に遮斷し得るの地位にあるのみならず、新嘉坡を側面より脅威して、英本國と其南洋屬領との連絡交通に一大脅威を與へ得るの利益をも併有し、皇國の爲めには所謂南門の鎖鑰たるを以て、皇軍の同島占領は歐米諸國に一大刺激を與へ、就中英國に於ては輿論の激昂となり、開會中の議會は議論沸騰し中には陸海軍を急派して同島の占領を主張し、以て對日戰爭を鼓吹せる議員さへありて、其周章狼狽振を忌憚なく暴露せり。況や往年の世界大戰に際し夫の獨一の「エムデン」號が宛も無人の境を行くが如く、南洋を縦横に跋扈して英本國と其南洋屬領との連絡交通線を攪亂し、爲めに至大の脅威を受けたる苦き經驗を有する英國國民に對し、皇軍の海南島を占領したる青天霹靂の一大飛報が如何に其心膽を寒からしめたるかは之を察知するに難らざるに於てをや。又同島は佛國の租借地たる廣州灣及其屬領印度支那の死命を制する形勝の地位を占むるを以て、皇軍の同島占領の報は、極度に佛國民を刺激し、輿論は宛も鼎の沸くが如く沸騰し、或は新聞紙上に或は議會に於て甲論乙駁喧々囂々を極め中には皇國の同島占領に先ち逸早く同島を占領せざりし政府當局の失態無能を攻撃して、佛國民の同

島に對する領土的野心を忌憚なく暴露する等、其周章狼狽は失笑に値ひするものあると同時に、吾人國民に對し如何に佛國が同島占領の野心を有するかの貴重なる教訓を與へたる點は、之を感謝せざるを得ざるなり。最後に皇軍の海南島占領に依て一大打擊を蒙れるは、南洋に無限の寶庫を有する和蘭にして、最近に至り倉皇として之が防禦に苦心慘澹たるも獨力を以て之を防衛するの實力なき悲しさは只管英佛の後塵を拜し、其協力に依つて皇軍の同島撤退を念願するの外、策の施すべきなきは寧ろ惘然と評せざるを得ざるなり。

竊て皇國の一大抱負たる將來に於ける南洋發展策に想到するときは、東亞及南洋方面に於て大植民地を包擁する英佛蘭三國との利害關係は到底相容れざるものあるを以て、皇國と此等三國との正面衝突は早晚必至の趨勢にして避けんと欲するも避くる能はざるの運命にあることを覺悟すべきなり。

而して今回の支那事變は、歐米人が依然として東亞を植民地視せる舊思想に捕はれたるの事實を吾人に警告せるものにして、其唯一の證據は事變以來數回に亘り彼等が在支權益の擁護に關し、皇國に向つて抗議を提出せるに依つて觀るも實に明瞭なりとす。又今回の皇軍の海南島占領に對して、英佛米の三國大使は、倉皇として我外相に會見を求めて同島占領の理由と期限とを詰問して、皇軍の同島占領に對し、暗に不同意の意思表示をなせるは、彼等の東亞植民地觀を忌憚なく暴露せるものにして東亞を歐米人の植民地的現状より救濟せんとする思想に燃ゆる皇國と彼等との間には、其根本的主義

主張に於て氷炭相容れざるものあるを以て、吾人は彼等との正面衝突の到底避け難きを益痛感せざるを得ざるなり。此見地に依れば、海南島は皇國の爲めには實に掌上の珠玉なるを以て、一旦之を占領したる以上は如何なる困難なる事情に遭遇するも、斷じて之を放棄するを許さざるを以て、直に同島に陸海軍の前進根據地たるに必要な堅固の施設に着手すると同時に、其豊富なる死藏資源の開發に向つても亦、最善の努力を拂ふ所なかるべからざるなり。是れ一孤島たる海南島は多大の生靈と巨億の國帑とを犠牲に供せる戰勝國たる皇國に對する報酬として餘り過少に失し得失相償はざるの嫌あるも、暫らく此程度を以て満足し、何國にも遠慮することなく、斷乎として恒久的占領に着手するを要す。若し不幸にして國際的壓迫に依り、同島を放棄するが如き失態を演ぜんか、必ずや第三國の有に歸するは佛國の輿論に徴して明かなりとす。事茲に至れば殷鑑遠からず日清戰爭の三國干渉と同様の事態を再演し遂には國論沸騰して收拾すべからざる状態を惹起するに至るべきは鏡に掛けて觀るが如し。此見地よりすれば過般有田外相と英佛米三國大使との海南島問題に關する應答に於て外相が同島の占領は軍事的必要に基く一時的措置にして、領土的野心に基くものにあらずと聲明して彼等に重大なる言質を與へたるは、全然國民大部の期待を裏切るものなることを茲に斷言して憚らざるなり。

(昭和十四、二、十八)

獨逸の「チエツコ」併合に對する歐米 諸國の動向と我皇國民の覺悟

今回の獨逸「ヒットラー」總統の疾風迅雷耳を掩ふに違あらざる「チエツコ」併合の快舉は、事の餘りに意外なるに歐米諸國をして驚倒せしめたり。就中過般の「ミュンヘン」會議の主動者の役割を勤めし英國に與へたる衝撃の深刻なるは實に吾人の豫想以上にして、議會に於ては政府反對黨たる勞働黨が先驅となつて政府反對の旗幟を翻して「チエムバーレン」首相に肉迫し、其軟弱外交を痛撃して辭職を勸告し、之に保守黨の強硬派が一大聲援を與へて大に氣勢を揚げ、且内閣の對外硬派は首相に内閣の改造を迫り、曩に英伊協定に反對して桂冠せる「イーデン」前外相及「ミュンヘン」協定に不満の餘り勇退せる「クーパー」前海相並保守黨強硬組の重鎮「チャーチル」老政客（歐洲大戰當時の陸相）等を入閣せしめて内閣の陣容を整頓したる後、對獨強硬外交の實現を策せんとするものゝ如く、此改造計畫にして成立するに至れば、英國の對獨外交は從來と面目を一新し、危機は全速力を以て促進せらるゝに至るべし。兎に角今回の「ヒットラー」總統の晴天霹靂の一大英斷は、流石の平和論者たる「チエムバーレン」首相の心膽を寒からしめたと同時に、彼をして憂憤禁する能はざらし

めたるものゝ如く、爾來彼の軟弱態度は俄然として硬化し、爲めに英國の對獨外交は百八十度の一大轉換を觀るに至れり。彼は偶々三月十七日「バーミンハム」に於て開かれたる保守黨大會に出席し、口を極めて、「ヒトラー」總統の「ミュンヘン」協定違犯の不信行爲を難詰し、獨逸の「チエツコ」併合は到底英國の承認し能はざる所なるを主張し、戰爭も敢て辭せざるの決意を言外に諷して世界の注意を惹起せり。又英國外相は議會に出席して、獨逸が多數の異民族よりなる「チエツコ」を併合せるは、將來世界併呑の一大野心を包藏するものなりと獨逸を非難せるも、吾人より觀れば數億の異民族を抑壓して之を虐使しつゝある英國の罪惡を高閣に束ね、罪を他に轉嫁せんとする英國首相の言明は厚顔無耻の發露にして、顧みて其良心に訴ふれば自ら忸怩たるものあるべし。

斯の如く英國政府當局にては牽強附會の言辭を弄して獨逸を攻撃するも、今直に戰爭に訴ふるの決意なきは一昨昭和十二年英國政府が着手せる十五億磅の軍備擴張五ヶ年計畫が今尙進行中にして、完成の域に達せず、就中英獨開戦に際し、尤も必要なる空軍の勢力が獨逸に比し一籌を輸するの弱點を有するに依つて觀るも明かなりとす。故に英國は空しく涙を呑んで暫時堅忍自重以て目下進行中の軍備擴張を全速力を以て促進し、徐ろに時機を觀て後圖を策せんとするものゝ如く察せらるゝも、さりとて此儘袖手傍觀するに忍びざるを以て、取り敢へず當面の彌縫策として獨の併合に反對なる歐米諸國を糾合して獨逸壓迫の歩を進めんが爲め、先づ佛露米諸國に呼び掛けて獨の「チエツコ」併合不承

認の抗議提出を策し、既に英佛露は之を實行したるも、獨逸は政治的にも道義的にも根據なき斯る抗議は受理すべき限りにあらずとなして之を一蹴せり。英國は尙竿頭一步を進めて駐獨大使を召還し、遂には勢の激する所佛獨兩國も各大使を召還し、茲に獨と英佛との外交關係は一層の緊張を呈するに至れり。而て駐英露國大使は英佛露を合し波、羅、土等の六ヶ國より成る國際會議の召集を提案したるも英佛兩國は時機尙早しとの口實の下に露大使の提案を拒絶し單に獨逸に對し米國と共に小國を合し共同宣言を發するに決せりと雖、米國は英國の勸告を退け、歐洲政争の渦中に投ずるを避くるに決し、「ウエルズ」國務次官をして國際會議參加の意思なきを聲明せしむると同時に、獨の「チエツコ」併合に對する米國政府への通牒に對しては、米國は單獨に回答を發し「チエツコ」が獨逸政府の統治下にある事實は之を諒知するも、斯る政情に對して何等の法的根據をも承認し能はざる旨を通告せり。之を要するに英佛の企圖せる露米及獨の「チエツコ」併合に反對なる小國を糾合して、獨逸に對し共同宣言を發せんとする腹案は、米國の不參加に依り其一角に亀裂を生じたるのみならず、波國も不参加承認に決したるを以て、其他の小國が獨逸に反對して英佛の勸誘に應ずるや否やは頗る疑問にして、或は英佛の共同宣言の最後の切り札も、遂に無効に終るやも計り難しとす。事茲に到れば、英佛兩國は世界に對し、其面目を失して非常なる窮地に陥るに到るべし。故に英佛兩國にして、獨逸を屈服せしめんと欲せば不徹底なる外交工作を弄するを斷念し、戰爭に訴ふる外他に途なしとす。今試

に歐洲大戦勃發の場合を想定するに、往年の歐洲大戦當時に比し、空軍の劃期的發達を遂げたる今日に於ては、歐洲の跼蹐たる天地に相接壤する各國は、其陸海軍を使用するの違なくして戦争の勝敗は空軍に依つて一舉に決せらるゝは豫想に難からざるを以て、優勢なる無敵海軍を以て驕れる英國も、獨逸に對しては之を有効に使用し能はざるのみならず、却て優勢なる獨逸空軍の好餌たるに過ぎざるも、世界の全面に亘り、領土を保有する英國は一朝有時の秋に方り此等領土と本國との連絡を確保する爲め、優勢なる海軍力を必要とするを以て、獨り空軍の擴張に向つて全力を傾注し能はざるの不利ありとす。最近の倫敦情報に依れば、現在英國毎月の航空機製造高は往年の世界大戦當時の最高量三千乃至四千機に達するも、獨逸の製造高五千乃至六千機に比すれば大なる逕庭あり。而て獨逸の現有長距離爆撃機千四百機に對し、英國は六百五十機を有するに過ぎざるが如し。

三月四日の獨逸「アルゲマイネ・ツァイツング」紙は、其論說に於て英國の來年度國防豫算に論究して曰く、英國の來年度國防豫算は總額約五億二千萬磅に過ぎず。内海軍豫算一億五千三百萬磅、陸軍豫算一億六千三百萬磅、空軍豫算二億五百萬磅を算す。之に依て觀れば英國は其傳統的海軍政策たる世界第一位海軍主義を放擲せるものなりと擲論し、且曰く英國が來年度の終りに於て一千七百五十機の第一線航空機を保有せんとする計畫は、此機數を以て將來空中防禦の基幹とするものならんも、歐洲大陸の強國（獨伊を指すものならむ）中には、英國の此機數に數倍する航空機を有するものあり。

將來英國が此等強國の航空機數と對等の機數を保有するの時機到來すると假定するも、人口の減少に苦みつゝある英國が、強大なる陸海空軍の要員を満たすを得るや否やは疑問なりと結論せり。

熟々惟みるに獨逸の投じたる今回の「チエツコ」併合の一石は果然歐洲政界に一大波紋を畫き、歐洲の形勢は急轉直下一觸即發の危機を胎らむに至り、將來更に獨逸の「ダンチヒ」及「メーメル」(起稿中三月二十一日「メーメル」は獨逸に歸屬するに決せりと云ふ)進出並目下世評に上ぼれる獨逸の波、羅、洪の三國に對する強硬政策實現し之に加ふるに緊張せる佛伊關係を以てすれば、歐洲の形勢は一瀉千里の勢を以て險惡化するは火を賭るより明かなるを以て、早晚全體主義國家と自由主義國家との歐洲に於ける正面衝突は到底避け難き運命にありて、敗者は亡國の運命を辿るは之を豫期せざるべからず。故に防共協定國の一員たる皇國は、歐洲の緊迫せる現況を對岸の火災視して之を等閑に附するを得ざるを以て、吾人は今や歐洲の形勢を眞劍に検討して、萬一の場合に於ける皇國の向背を事前に決定し置かざるべからず。若し歐洲に於て兩者の衝突を觀るに至れば、米國は直接戦争の渦中に投ぜざる迄も少くとも自由主義國家に對し有形無形の援助を惜まざるは今回の米國中立法改正案提出の動機に依つて觀るも明かなりとす。果して然らば歐洲大戦の餘勢は大西洋を越えて米大陸に點火し、勢の激する所東洋も其火勢の掩ふ所となるは豫想に難からざるを以て、皇國獨り其圏外に超然たり得ず、否な事自ら進んで其渦中に投じ獨伊と相協力し萬難を排し獨伊は西に於て皇國は東に於て

各當面の敵を撃攘し以て自由主義國家を徹底的に打倒せざるべからざるなり。幸に險惡化せる歐洲の形勢より觀れば、自由主義國家は東洋方面に活動する餘力なきのみならず極東の一角に超然たる皇國は天賦の形勝なる地勢を占むるを以て、我陸海軍は此有利の地勢を利用して活動飛躍せば極東は皇軍の獨り舞臺にして、歐米勢力を東亞否一步を進めて南洋より驅逐するは敢て難事にあらざるなり。雖然我皇國の内情を顧みれば、悲哉英米崇拜者は社會の各方面に蟠居して其勢力實に侮るべからざるものあるを以て、彼等は其社會的地位を利用して皇國が歐洲大戰の渦中に投ずるを妨害するの手段を講ずるなきを保し難しとす。巷間傳ふる所に依れば、日獨伊の防共協定を強化して攻守同盟に迄漕ぎ附かんとする國民大部の熱望は此等歐米崇拜者の妨害に依つて阻止せられあるものゝ如し。果して然れば此等歐米崇拜者の潜勢力は實に侮るべからざるものあるを以て、吾人國民は先づ此際歐米崇拜者を制服する爲め大に輿論を喚起すると同時に、政府當局を鞭撻督勵して最後の決心を促がざるべからざるなり。(昭和十四、三、二十三)

歐洲戰勃發の場合に於ける我國民の覺悟を促す

過般獨國の疾風迅雷耳を掩ふに遑あらざる「チエツコ」及「メーメル」併合並伊國の電光石火的「アルバニヤ」占領の快舉は、緊張せる歐洲の形勢に一層の拍車を加へ、爾來歐洲の天地は急轉直下一觸即發の危機に直面、爲めに英佛兩國國民の心膽を轉た寒からしむるに至れり。爾來兩國政治家は必死となつて日夜之が對策に焦心苦慮しあるも、事志と違ひ、其企圖計畫は殆んど悉く畫餅に歸し、遂に最後の窮策として獨伊兩國の隣國に呼び掛け、美辭麗句を羅列して彼等を誘惑し、獨伊包圍陣の構成を夢みて、其目的達成に狂奔しあるも、彼等小國は、獨伊の威力を憚りて其反感を買はんことを慮り、且戰爭勃發の場合に、英佛兩國の援助は實行の伴はざるを危惧せる爲め、其交渉は實に遅々として宛も牛歩の如く、僅に辛ふじて波國の誘引、及露國との空軍協定に成功したるものゝ如きも、徒に掛聲のみ大にして、其成果の之に伴はざるものありて、混沌たる歐洲の現状より觀れば、斯る枝葉末節の術策技巧は、戰爭の大勢を左右するには餘りに貧弱にして、其效果乏しきを以て、到底之を以て満足する能はず、萬策盡きたる結果は、曾て「ミュンヘン」會議より除外せる露國に對し、鐵面皮に

も頻りに秋波を送り、慇懃を通ずるに汲々たるも、腹に一物ある露國は、當時の苦き經驗に懲りて大に難色を示し、容易に應諾の狀なく、自國に有利なる條件を提出し、英佛側の應諾を迫りつゝあるも、露國の主張する東亞問題の爲め、交渉は暗礁に乗り上げ、英佛側は百方手段を講じて之が打開策に苦心しあるが如し。固より露國の向背は、我皇國に多大の關係を有するを以て、吾人の三國の交渉に對し、關心を拂ふや實に切なるものありとす。

偶々歐洲の形勢逼迫の秋に當り、突如として米國大統領は獨伊の兩巨頭に對し、警告を發し、少くも十年間特定の三十一ヶ國を攻撃せざるの保障を要求せり。大統領の投じたる突飛なる一石は世界に一大波瀾を捲き起し、其結果は全體主義國家群との對立摩擦を一層激甚ならしむるに至れり。之に對し、伊首相は本月二十日公開演説に於て大統領の提案を痛撃し、世界に向つて其旗幟を鮮明ならしめたり。一方獨總統は、本月二十八日開會豫定の議會に於ける演説に於て米大統領に向つて一矢を酬ひて逆襲を決行せんとするの内意あるは、彼が大統領の列擧せる特定の三十一ヶ國中の歐洲諸小國に對し、獨逸の脅威を感ずるや否やを照會中なるの事實に徴するも、之を推知するに足るを以て、今や世界の視線は總統の一身に注がれつゝあり。然るに大統領の此重大聲明に對し、我皇國の輿論は、案外冷淡にして、宛も對岸の火災視するの觀あるも、吾人は此緊急問題に對して到底無關心たり得ざるなり。何となれば、此聲明は形式的には我皇國を除外せるも、獨伊樞軸の一員たる皇國が、大統領書中

の攻撃目標に含まれるは疑を以てなり。

先是四月十二日の報知紙上に有田外相は興亞外交の基調として「一面對獨伊防共樞軸外交。對英米佛協調外交」の「對樞軸、民主同時二面外交政策」の並行推論者なりとの如何にも奇怪千萬なる記事を散見して啞然自失したる者は、豈に獨り筆者のみならんや。吾人は國家の興亡浮沈に關する重大政策に觸れたる斯る記事を飽く迄信ずるを欲せず。衷心其虛報なるを期待し、外相の記事正誤を翹望したるに豈に圖らん吾人の豫期に反し、何等の正誤なかりしは爲邦家吾人の頗る遺憾とする所なり。若し不幸にして、此記事を事實なりとすれば、其國際關係に及ぼす影響の如何に重大なるかは、外相の二面外交に對し、自由主義國家群の得意満面なるに比し、全體主義國家群の失意は想像に餘りあればなり。從て後者の皇國に對する信用は知らず識らずの間に消散し、遂には防共樞軸の一角に亀裂を生ずるの虞なしとせず。假りに外相の理想の如く對防共、民主二面外交政策の並行推進に轉向せんとするも、皇國が中途に於て支那事變より手を引き、足を洗はざる限りは、英米は到底皇國と握手提携を肯んぜざるは支那事變中彼等の採り來れる執拗なる態度と英米兩國特に其議會に於ける濃厚なる排日空氣との現狀に徴して明瞭なりとす。況や英首相は一旦歐洲戰勃發せば、其飛沫が東洋に波及するを豫期して、支那及其他東洋諸國を反防共陣營に包擁するの希望を有する旨を議會に於て公言して、親支反日政策を暴露せるに於てをや。然らば英米佛の歡心を迎へて、彼等と握手提携せんが爲め、支那事

變を中途に於て清算せんか、是れ取りも直さず皇國の前途に一大暗影を投ずることを裏書きするものにして、危険はより大なるはなしとす。故に斯の如き二兎を追ふに等しき冒險的の二面外交は、斷然之を排斥し、毫も英米佛に向つて遠慮氣兼ねることなく、彼等の妨害運動を一掃し、飽く迄聖戰の目的貫徹に向つて銳意邁進せざるべからざるなり。徒らに外相の理想的の二面外交に執著して、順慶式の日和見の態度に出づるときは、一面英米佛に一蹴せらるゝと同時に、他面盟邦獨伊の信用を失墜し、遂には不信不義の國家として、世界より冷遇せられて、孤立無援の悲境に沈淪することなきを保し難しとす。

竊て一朝歐洲戰勃發の場合を想定するに、露國の向背は戰爭の勝敗を左右するに與つて力あると同時に、自由主義國家群の巨魁たる米國の進退も亦至大の影響を有するは多言を要せずして明かなりとす。今や米國內に於ける孤立主義者と世界主義者との對立は、實に深刻を極め、米國が參戰するや否やは容易に豫斷を許さざるも、少くとも米國は自由主義國家群に對し好意的中立を固執して、有形無形的援助を惜まざるは疑を挾むの餘地なしとす。其適例は、歐洲戰勃發の場合に備ふる爲め、英佛との軍事密約に依り、日本艦隊を太平洋方面に牽制する目的を以て、大西洋上に游戈中の艦隊より六十四隻の軍艦を急遽太平洋方面に回航せしむるに決したるの事實が、雄辯に物語つて餘りありとす。斯の如く露米の強國が反防共樞軸に對し有形無形的援助を與ふるは疑を容るゝの餘地なきに拘らず、戰

爭の勝敗を左右する實力を有する皇國が、慢に外相の所謂二面外交政策を標榜して、洞ヶ峠に於て依違逡巡形勢を觀望するときは、盟邦獨伊を危地に陥るゝは炳乎として明かなるを以て、斯る自殺的の二面外交は斷乎として之を放擲し、防共樞軸の忠實なる一員として奮然躍起、國運を賭して盟邦獨伊と相協力して乾坤一擲の一大活劇を演ずるの覺悟なかるべからざるなり。將來永久に皇國の興隆發展を圖るは、獨伊と去就進退を共にする唯一「斷」の一途あるのみとす。語に曰く、斷じて行へば鬼神も之を避くと、豈に鑑みざるべけんや。(昭和十四、四、二十二)

英米兩國に對する我國民の認識是正

一、往年の歐洲戰役後に於ける英米兩國の對日外交政策を検討するに、嘗ての同盟國英國は同戰役に於て、我陸軍の青島攻略の赫々たる功績と、南洋及地中海方面に活躍せる我海軍の光輝ある偉勳とを以て満足せず更に一步を進めて我精銳なる陸軍の歐洲出兵を熱心に強要して、其主張の容れられざるや、更に一轉して西伯利亞出兵を懇望し、遂に其目的を達して大に満足の意を表せるも、出兵後の日本軍が貝加爾湖以東に固著して動かさず、彼の希望する烏拉爾戰線への進出を肯んずるの色なきを觀て、英國當局特に陸軍當事者は我陸軍の誠意に對し、深き疑念を狭み、勝手に日本軍の意

中を揣摩憶測し、日本軍の青島及東部西伯利亞出兵は聯合軍の弱點に乘じ、其平素の野心たる領土的欲望を満たさんとするものにして、聯合軍を援助せんとする誠意と同情心とに出發せるものにあらずと斷定して日本陸軍に對し大に反感を抱くに至れり。

爾來英國當局の我日本に對する態度は、俄然として豹變し、後日巴里平和會議に於て、現實に反日態度の鋒鏘を暴露するに至れり。之に反し、大戰の末期に於て聯合軍の疲弊困憊其極に達せる機會を捉へて參戰せる米國は、聯合軍の人氣に投じ大に其感謝する所となり、一段の面目を施すと同時に得意満面意氣軒昂として實に當るべからざるの概を示し、其餘勢に乘じ「ウイルソン」大統領は戰後全權を隨へて堂々と自ら巴里に出馬し、傲然として平和會議の牛耳を採つて專恣橫暴を逞ふして吾人會議參列者の矚目を買ひたるは今尙吾人の記憶に新たなる所なり。而して平素日本の興隆發展を快しとせざる大統領及其全權は、會議中事毎に日本の要求に反對したる爲め、日本は其艦隊活動の報酬として、豫て英國との間に諒解の成立せる南洋諸島の委任統治領の獲得に辛ふじて成功したる外、何等得る所なく、日本陸軍が血を流して占領せる青島に對する日本の要求に對しては容易に「ウイルソン」大統領の首肯する所とならず、有耶無耶の裡に其解決を遷延し來りしが、偶々此秋に方り伊國全權が「ヒューメ」問題に對する其主張の容れられざるに憤慨し、旗を捲き決然會議を脱退せる爲め、英佛全權は青島問題の未解決を憤慨せる日本が、伊國全權の轍を踏まんことを

憂慮し「ウイルソン」大統領に讓歩を哀願せる爲め、彼は已むを得ず、其全權の強硬なる反對を押し切つて英國全權の哀訴を容れ、日本の要求に應ずることとなりて、紛糾に紛糾を重ねたる青島問題も日本に關する限り一先づ落着したる大統領の此讓歩的態度に憤慨せる主席全權「ランシング」國務長官は、一片の辭表を大統領に投げ附け、決然として巴里を辭して歸國の途に就き、歸來大統領攻撃の意見を發表して、米國政界に一大波瀾を捲き起したるは世界周知の事實なりとす。

二、大正十年華府會議召集に先ち、英米兩國は相互に密に氣脈を通じて談合了解を遂げたる後、兩國握手提携して、彼等年來の抱負たる日本壓迫に乗り出したるは同會議の經緯に徴して疑を容るゝの餘地なしとす。即夫の不合理極まる海軍力の比率五、五、三を是否を云はせず日本をして無理遣りに承諾せしめたるのみならず、此不利なる比率承諾の代償として日本全權より提案せる太平洋諸島防備制限問題討議に先ち米國全權は討議參加を前提として其本土より遠隔せる布哇群島を防備制限より除外するにあらざれば討議に應じ難しとの不法極まる主張を提案し日本全權が涙を吞んで其主張を受諾したる後も、英米全權は相提携して益日本壓迫の歩武を進め遂に米國は其本土より遠隔せる布哇群島を、又英國は新嘉坡及濠洲に近接せる「ニューギニア」及其隣接諸島を何れも防備制限外となすに成功したるに反し、日本に對しては本土に近接せる千島、小笠原、奄美大島、臺灣及澎湖島に防備制限を強要し、威嚇的態度を裝ふて遂に其目的を達成せり。是れ畢竟するに、彼等は強

國萬能主義を充分に發揮して、小國壓迫に成功せるに反し、日本は涙を吞んで小國としての悲哀を満喫し、鬱勃たる雪辱心に燃ゆるの外何等施すの策なかりしを歎ぜざるを得ざりき。

三、茲に特筆大書して米國の傍若無人の横暴振りを暴露せざるべからざるは巴里會議に於て、既に解決を告げたる青島問題を、更に再び華府會議に於て蒸し返し、遂に日本をして青島の支那還附を餘儀なくせしめたるの一事なりとす。是れ當時の日本の國力特に國防力が強硬外交を支援する力に乏しきより來れる軟弱外交の自然的歸結なりとすれば詮方なきも、米國が其横暴振りを忌憚なく發揮して日本を壓迫したるの事實は之に依つて明瞭なりとす。又米國は一般支那問題の討議に當つても、日本の滿洲に於ける特權を悉く否認し、日本に迫りて遂に之を放棄せしめ、更に竿頭一步を進めて、獨立國たる支那を歐米の植民地化せんとする夫の有名なる九ヶ國條約の成立に成功し、之に依て將來支那に於ける自國發展の基礎を築き上げたり。見すや、英米兩國は今や此不純極まる條約を金科玉條として支那事變に容喙し、日本の聖戰目的の貫徹を妨害し、以て支那に於ける日本の發展を阻止するに熱中しあるは、既に吾人の眼前に展開せられつゝある悲劇なりとす。

四、華府會議に於て、英米兩國が日本壓迫の第二段としての作戰は、日英同盟の廢棄とす。今其經緯を概述すれば、英國は歐洲大戰に於て殆んど其國力を消盡し、米國と建艦競争をなすの餘力なきを以て、多年英國が驕りとせる其傳統政策たる世界第一海軍主義を一時放擲せざるべからざるの必要

に迫られるも、さりとて第二海軍國を以て自ら甘んずるは其死活に關する重大問題にして、到底忍び得る所にあらざれば、其唯一の海軍競争國たる米國と諒解を遂ぐるの必要を痛感し、密に米國に呼び掛け海軍力均等の條件附にて、兩國の間に意見相一致したるも其先決問題として日英同盟を處理するの必要に迫られしが、米國の歡心を迎ふるに汲々たる英國に、異存のある筈なければ、何等の故障なく兩國の意氣相投合して、多年東洋否世界平和に貢獻せる日英同盟も華府會議の俎上に葬り去られて無殘にも權花一朝の夢と化するに至れり。其廢棄の理由として英國全權の説明する所に依れば、戰前獨露の脅威に對抗すべく成立せる日英同盟は獨露崩壞の今日に於ては、既に成立の理由消滅せりと云ふにありしも是れ日本に對する一片の外交辭令に過ぎずして、英國の底意は米國の怨みを買つて日本との同盟を繼續するよりも、寧ろ日本と絶縁して、米國との握手提携を有利なりとし、英國の外交に百八十度の一大轉換を觀たる所以にして、現實主義の英國としては當然過る程當然なりとす。

更に此機會に英國の現實外交を代表する最近の實例を擧ぐれば、西班牙内亂に際し、英佛露の三國は、極力赤色政府を援助して「フランコ」將軍の成功を妨害しながら、一朝「フラシヨ」將軍勝利者となるや、宛も掌を覆すが如く其態度を豹變して、逸早く「フランコ」政權を承認せるの事實が之を立證して餘りありとす。

之を要するに、華府會議は、英米兩國多年の腹案たる日本を去勢して其活動飛躍を嚴封し、以て彼等年來の野心たる東洋政策を縱横無盡に遂行せんとする英米の合作以外の何物にもあらざりしは、會議の經緯が雄辯に物語つて餘りありとす。往年の倫敦軍縮會議、滿洲事變の善後策を議題とせる聯盟理事會亦然り。故に吾人は將來兩國の惡辣なる日本去勢政策に對し、警戒を嚴にし、苟も悔を千歲に貽すの失態なからんことを深く心肝に銘記する所なかるべからざるなり。

五、今や我日本は曠古の國難たる支那事變に直面し、國運を賭し、死力を盡して、聖戰の目的貫徹に向つて邁進中なるに拘らず、我友邦たる英米佛露等の諸國は、國際信義を無視し、蔣政權援助の爲め、或は借款を提供し、或は兵器彈藥其他の軍需品を補給する等有ゆる手段を講じて、我聖戰の目的貫徹を妨害しあるのみならず米國議會に於ては今や中立法の改正を繞りて、對日制裁の議論沸騰し、英國議會に於ても亦排日空氣頗る濃厚にして、政府當局は排日派の日本攻撃に對する答辯に寧日なきの奇觀を呈しあり、之が爲め、氣息奄々辛ふじて其餘命を保ちある蔣政權は大に勢を得て、今尙長期抗戰を豪語して、最後の勝利を夢みつゝ抗戰を繼續しありて、我忠勇なる幾多の將兵が其犠牲となりつゝあるに想到せば、蔣政權援助の諸國は吾人より觀れば蔣政權の背後に隠れたる危險なる伏兵と毫も擇ぶ所なしとす。

論じ來れば英米兩國の對日政策は、日本を去勢して其活動力を減殺制肘し、以て其東洋政策を意の如く遂行せんとするにあるは論議の餘地なきを以て、彼等にして從來の白人優越觀乃至強國萬能主義の迷夢より覺醒し、日本の實力を正當に認識し、以て日本を東洋唯一の安定勢力と認めて從來に於ける彼等の誤まれる東洋政策に一大轉換を劃すにあらざれば、將來日本と彼等との正面衝突は到底免れ難き運命にあることを忘るべからざるなり。故に吾人は、彼等の一大覺醒を促すと同時に、我國内に於ける英米崇拜者も亦大に自覺する所ありて、英米兩國に對する彼等の誤まれる認識を翻然として是正せんことを切望して已まざるなり。(昭和十四、五、二十二)

支那に於ける外國租界の回收と日獨伊

三國軍事同盟締結の促進

一、抑も目下世界環視の焦點たる我皇軍の英佛兩國天津租界封鎖の起因は、過般我現地陸軍當局の發表せる日英交渉經過に徴すれば、新任天津海關監督(前天津聯銀支店長)程錫庚が本年四月九日夜、天津英租界映畫館「グラランド」に於て映畫觀覽中支那兇漢に狙撃せられて即死し、犯人は逸早く逃走したるを以て、天津公署より英國に對し四月十日付公文を以て抗議を提出し、犯人逮捕引渡方を要求したる處、同領事は最初の程は之を應諾したるを以て、我憲兵隊は犯人捜査に着手して逮捕したる支那

人容疑者數名が、取調の結果其犯行疑なきにより、之が引渡方を要求したるに、總領事は從來の和協的態度を豹變し、牽強附會の口實を設けて、犯人引渡方を拒絶せるに端發せるものなり。

二、由來英國は支那事變勃發以來今日に至る迄、援蔣政策を遂行し、凡ゆる手段を弄して、陰に陽に蔣政權を援助し、以て我聖戰の目的貫徹を執拗に阻止妨害し、爲めに事變の前途に暗影を投ずるに至れるは世界周知の事實なりとす。就中今回の天津租界に於ける英國當局の不法行爲は、其租界の特權を濫用して之を支那抗日分子の温床化して援蔣政策の策源地たらしめ、以て租界の中立性を徹底的に破壊して、毫も顧みる所なき暴狀を忌憚なく天下に暴露せるものにして、我現地陸軍當局の英佛租界封鎖行爲は、我聖戰の目的達成上正當なる庸徳及防衛手段として毫も俯仰天地に耻づる所なしとす。果せる哉第三國及更生支那民衆の同情は英國を離れて翕然として獨り日本に集中せらるゝに至りし所以のもの洵に理なきにあらざるなり。

三、現地よりの情報に依れば、租界封鎖を依然として繼續する事に依つて、遂には英當局を屈服せしめ、其反省を促し、以て支那事變に對し彼等をして全面的に日本と協力せしむるの効果を期待し得べしとの説を抱く者あるが如きも、是れ英國の歴史と自尊心強き其國民性とを無視すると同時に、英政府當局及國民の排日思想の如何に濃厚なるかの現状に就て全然認識を誤まれるより來る一大錯覺にして、斯る樂觀論は吾人より觀れば、眞に一片の空想迷夢に過ぎずして到底實現の可能性なしとす。何

となれば英政府當局が一面に於て、天津事件の擴大を避くる爲め其解決を日英當局者間の現地交渉に委すると同時に、他面に於ては解決絶望の場合に備ふる第二段の工作として、對日經濟制裁手段を検討せる事實、乃至最近英外相及重光大使の會談に於て英外相の憤慨的言明、及損害賠償要求の保留提案並二十四日英首相の「カーヂフ」に於ける對日強硬演説に徴しても明瞭なればなり。故に此際、天津封鎖を以て、英國の屈服を夢想して前途を樂觀するは頼むべからざるを頼みとするものにして、危険はより大なるはなきを以て、吾人は寧ろ英國の經濟的制裁の發動を豫期し、事前に於て慎重に之が報復的對策を検討決定し、萬遺算なきを期せざるべからざるなり。故に吾人は天津問題將來の發展に關し、我政府當局及國民の深甚なる注意を喚起して已まざるなり。

四、抑も支那に於ける現在の外國租界なるものは、歐米諸國の過去に於ける支那侵略を物語る實に顯著なる史跡にして、今尙獨立國たる支那に、其主權の及ばざる外國租界の存在するは、實に不合理極まる奇怪事なるを以て、苟も支那の獨立を尊重する各國は、自ら進んで租界を支那に還付して、其好意を表すが當然なるに拘らず、彼等は依然として租界を死守し、茲に籠城して自國民の利權擁護に汲々たるのみならず、英國の如きは天津事件の如き不祥事を惹起して、第三國の輿感を買ひ、特に之に對する更生支那民衆の反英熱は宛も燎原の火の如き熱を以て我占領地内に彌漫するに至れり。

我現地當局は此絶好の千歲一遇の機會を逸することなく、英佛と敢て一戰を辭せざるの一大決心を

以て率先更生支那民衆を指導して、租界回收運動を起さしめ、多年外國の壓迫に呻吟しつゝある民衆を其桎梏より解放して、獨立國民たるの資格、及權利に均霑せしむるは更生支那の建設に向つて、死力を盡して奮闘中なる我皇國に課せられたる一大義務たる事を忘るべからざるなり。是れ天津事件解決の唯一の手段とす。然るに新政權が今に至つて犯人引渡其他區々たる條件を英當局に提出し事件の圓滿解決を策せんとするが如きは、反て英佛當局に其弱點を看破せられ、益事態を紛糾せしむるに過ぎずして、決して、策の得たるものと評し難しとす。吾人は此際新政權當局が、英佛の鼻息を窺ふが如き從來の曖昧なる態度を一掃し、牢固不拔の一大決心を以つて斷乎として單刀直入的に租界回收を絶叫し、て其目的貫徹に向つて勇往邁進せんことを切望して已まざるなり。是れ新政權の當然の權利にあらずや。

五、蘇て歐洲政界の現状を按ずるに、英佛兩國の獨伊兩國包圍政策を繞つて露國の引入運動は、露國の提案たる「バルチック」諸國の保障に對する此等諸國の不同意表明の爲め、殆んど停頓状態に陥りしが、最近天津問題の爲め日本と英佛兩國の軋轢を生ずるに至つて、英佛は露國と握手提携を促進するの必要を感じ、最近に至り在莫斯科英佛兩國全權の運動は活氣を呈し、露國に對し出来る限りの讓歩を爲すに決せるが如く、最近の伯林通信は露國は天津事件に於ける英佛の弱點に乘じ三國同盟を東亞に迄擴張せんとするの提議をなせりと傳ふ。其眞偽は不明なるも決して有り得べからざる事にあらずや。

ざれば警戒の要ありと認む。

六、歐洲の近情斯の如くなるに鑑み、我皇國は英佛露の三國同盟に對抗する爲め、一日も速に有効なる日獨伊三國の軍事同盟を締結し、早晚捲土重來を豫想せらるゝ風雲に備ふるを焦眉の急務なりと信じ、吾人は我政府當局及國民の注意を喚起せんとするものなり。

我國内には親英派の勢力侮るべからざるものあるを以て、吾人の熱望する支那に於ける外國の租界回收、及日獨伊三國の軍事同盟の締結は、強硬なる反對を豫期せざるべからず。故に吾人は牢固不拔の決心を以て萬難を排し、此一大難關を突破して其目的を達成するにあらざれば、國家の前途は實に寒心に堪へざるものあるを以て、吾人は親英派を制肘し、政府當局を鞭撻督勵する爲め大に國民の輿論を喚起する所なかるべからざるなり。(昭和十四、六、二十六)

汪兆銘の聲明檢討

一、問題の人物汪兆銘は、曩に重慶脱出後、昭和十三年十二月二十日に至り、始めて蔣政權一派及支那國民に訴ふる日本との和平建議に關する第一次聲明發表以來、同十四年一月八日第二次聲明、同年三月三十一日第三次聲明同年六月十二日第四次聲明及同年七月十日第五次聲明を發表せり。而て上述

五次に亘る聲明中、第一乃至第四次聲明は彼が國民政府の要人として且蔣介石の僚友としてなされた行懸上、色眼鏡を以て觀れば、或は世評の如く彼は表面蔣介石と無關係を裝ひ、裏面に於ては蔣介石の指示を受け、或は少くとも其諒解の下に聲明を發表したるの疑なきにしもあらず。余は彼の聲明を通讀して一層其感を深くしたり。

彼は曾て三民主義の發頭人にして、支那革命の主唱者たる孫逸仙の寵兒たり。且崇拜者たりし關係上、蔣介石の股肱として國民黨の副總理及國防委員會議長乃至行政院長、外交部長等の要職に歴任したる經歷を有する人物丈に、如何にも自由平等主義に深く感染し、且燃ゆるが如き革命思想の持主たるを以て、其第一次乃至第四次の聲明に於て主張する和平論は、徹頭徹尾自由平等主義を以て終始し、日支間戰爭勝敗の現實に對する認識を缺き、戰勝國たる日本を戰敗國たる支那と同一水準に置いて對等の地位及資格を以て和平を講ぜんとする其尊大不遜なる態度は、戰勝國民たる吾人の絶對に認容し難き所なりとす。

二、即彼は第一次聲明中、和平條件として「日本の支那からの撤兵は其全部が急速且凡ゆる方面に於て一齊に行はれねばならぬことである。更に提案された日支防共協定の存續期間中、日本軍の駐屯すべき所謂特定地區は唯内蒙の附近にのみ制限せられなければならぬ。」と主張せるも、支那に於ける共產黨の跋扈跳梁を防止し、且日本軍の占領地區内に於ける敗殘兵の治安秩序の擾亂を抑壓し、尙進

んで蔣政權を打倒して平和を招來せんが爲めには、成るべく多數の日本軍の支那駐屯の必要なるを彼は蔣介石と絶縁したる今日衷心より自覺したるものと認む。若し否らざれば彼は支那國民を代表して到底和平を主張するの資格なしとす。

三、又彼は第二次聲明に於て「日本が武力を以て支那を制服し得ず、且東亞に於て絶對に覇權を掌握し得ずとの事實を認識したなれば、和平は遂に招來するであらう。」又第四次聲明に於て「二十ヶ月の苦戰の結果は日本の消耗尠しとせず。中國の犠牲も亦輕しとせず。兩者共に傷き共に破滅の徑路を辿つて居る」と牽強附會の言辭を弄せるは、日本の國力が最後の勝利を獲得するの力に乏しきを暗示せるものにして、其認識不足と日本に對する非禮とは茲に特筆大書して筆誅を加ふるの必要ありと認むるも、此等の暴言は彼が蔣政權の代辯にして且日本に敵意を有する時代の泣き言と觀れば幾分恕すべき點なきにしもあらざるなり。

四、第五次聲明は彼が蔣介石との關係を断絶し、孫逸仙の遺志を繼承し、亡國の徑路を辿りつゝある祖國を救濟せんが爲め、日本との和平を絶對條件とする憂國の赤誠を吐露したるものにして、前聲明とは全然其論旨を異にし、孫逸仙の「中國革命の成功は日本の諒解を待つにあり」との言説を引用して、日本との和平の絶對必要なるより説き起し、蔣介石が共產黨に翻弄せられて支那を滅亡に導きつつあるを憂慮痛撃して和平を支那全國民に懲懲せるは、畢竟するに日月の推移と、日本に有利なる

戦況の發展とが彼の心境に一大變化を齎したる所以を如實に物語つて餘す所なしとす。彼の論旨より推究するに彼は蔣介石に對抗して更生支那新政權の主權者たらんとするの嚮勃たる野心に驅られ、之が爲には日本の援助を絶対必要とする所以を痛感し、一方支那國民の同情に訴ふると同時に他方日本國民の懽心を迎へんとする所謂一石二鳥の俗に所謂御都合主義に出でたるものと判断すべき節なきにあらず。即此第五次聲明を前の四次聲明と比較對照するときはその論旨に大なる逕庭ありて、同一人の聲明とは認め難き程度の變化なりとす。斯の如く彼の百八十度の心境の變化は愛國心に燃ゆる彼をして一時餘儀なからしめたるものとせば、大に同情すべきものもあるも、果して蔣政權崩壊後日本軍が撤兵したる曉に彌新政權の主權者として立つに方り、依然として日本依存主義を踏襲し、日本及滿洲國と相提携して東亞新秩序の建設に邁進するや否やは彼が忠實なる三民主義信奉者たるに想到するときは大に疑問の餘地ありとす。即彼は第一次聲明に於て三民主義を大に鼓吹して「三民主義なるものは支那國民の根本主義であり、從て祖國を防衛する我々の義務を遂行する爲めに我々は自動的に且積極的に右の主義に背馳する凡ゆる組織とか宣傳とかを彈壓せねばならぬ」と絶叫せる點より觀るも、彼の三民主義に對する信念の如何に空固拔くべからざるものあるかの一端を推知するに足るものありとす。

抑も孫逸仙は三民主義に定義を下して救國主義なりと云ひ、又綜合的には平等主義、分析的には民

族主義即民族平等主義、民權主義即政治平等主義、民生主義即經濟平等主義なりと稱せるに依て觀るも同主義が立憲君主國たる日本國民の思想及主義とは天地霄壤の差ありて氷炭相容れざる性質のものたるは炳乎として明かなりとす。曩に第七十四帝國議會に於て、三民主義が問題となり種々の議論沸騰したるとき、政府當局は三民主義に某程度の改正を加ふれば採用するも差支なしと、同主義を案外輕易に取扱ひたるを記憶するも、是れ大なる錯覺にして、主義を信仰として信奉する汪兆銘に向つて主義の改正を迫り、其轉向を期待するは己を以て人を律せんとするものにして、其愚や笑ふべきなり。故に余の尤も憂ふる所は彼が更生支那中央政權の主權者として支那を支配するに方つて三民主義を政治の指導方針とするの點に存す。今は日本の懽心を迎ふる必要上善隣友好、共同防共及經濟提携の三原則を主張するも、果して永久性を有するや否やは茲に斷言するを得ず。故に彼を更生支那中央政權の主權者に擬せんとする者は、須く深思熟考すべきを切望して已まざるなり。

假りに一步を譲り彼が中央政權乗り出しの機會を得たりとするも、一兵の守兵さへ有せざる彼は蔣政權の餘命を保持する間は日本軍の保護下にあらざれば一日も其地位を保持する能はざるは炳乎として明かなるを以て若し彼に中央政權の主權者たるの野心ありとせば今や彼は第一次聲明に於て主張せる日本軍撤兵の誤まれるを痛感せるならむ。而て彼を中央政府主權者として迎へんとするに方り、熟考すべきは蔣政權の新政權に對する敵愾心を一層煽動するの動機を提供するの一事なりとす。雖然彼

の從來の經歷聲望を以て和平を支那國民に呼び掛くるは、多數の同志を糾合して益蔣政權の去勢に拍車を掛くるの效果あるは疑を容れず。故に彼の和平運動を支持するは有意義なるを以て敢て異存なきも、一步を進めて彼を中央政權の主權者に擬する點に於ては余は、我政府當局及國民の深思熟考を熱望して已まざるなり。(昭和十四、七、二十六)

日英東京會談側面觀

一、皇軍の英佛天津租界封鎖事件解決の爲め、英國政府當局は我政府當局に對し、東京に於て日英兩國の會談開始を提案し來れるを以て、我政府當局は之を承諾したるも、元來本事件の根本的解決を圖るが爲めには、其背景をなす一般問題の原則を討議決定するの必要あるを以て、有田外相は此方針を以て、會談に臨む事となり、七月十五日第一回會談を外務大臣官邸に開いて以來、回を重ねること實に四回に達し、遂に同廿三日深更に至り有田外相と英國「クレイギー」大使との間に諒解成立し、東京に於ては七月廿四日午後、外務省より右に關する帝國政府の聲明を左の如く發表し、一方倫敦に於て「チュムバーレン」首相も同日午後英國議會に於て同趣旨の聲明を正式發表せり。

外務省發表の聲明

英國政府は大規模の戰鬪行爲進行中なる支那に於ける現實の事態を完全に承諾し、又斯る状態が存続する限り、支那に於ける日本軍が自己の安全を確保し、且其勢力下に在る地域に於ける治安を維持する爲め、特殊の要求を有すること、並日本軍を害し、又は其敵を利するが如き一切の行爲及原因を排除するの必要あることを認識す。

英國政府は日本軍に於て、前記目的を達成するに當り、之が妨害となるべき何等の行爲、又は措置を是認するの意思を有せず。この機會に於て、斯る行爲及措置を抑制すべき旨在支英國官憲及英國國民に明示し、以て右政策を確認すべし。

二、英國大使は七月二十四日午後十時半英國大使館に於て内外記者團との會見に於て左の要旨の談話を爲せり。

今回の聲明は、英國は如何なる點に於ても支那に在る日本軍の生存並治安維持を妨害する意圖がないと云ふことである。是れ從來から英國の政策であり、予も屢々之を確言したのであるが、日本では何人も之を信じて呉れるものがなかつた。

英國政府としては、其政策を明示する機會を與へられた事を喜ぶものである。

今回諒解を見た原則は、支那に於ける日本軍の占領地域即日本軍が治安維持を擔當しつゝある地域全體に適用せらるゝもので、英國當局の關する限りは上海、鼓浪嶼の共同租界、廣東、沙面の英租界

等にも適用せられるもので、英國當局は日本の治安維持に協力することを希望して居た。併し共同租界に於ては此原則は英國以外の第三國には無關係である云々。

七月廿五日英國首相は下院に於て日英會談に關し左の如く述べた。

日本政府は日英間の誤解が解かれる爲めには、先づ天津問題の根柢をなすべき背景を英國が承認することが必要であるとの見解を述べたが、是れは英國の對支政策に何等の關係を有するものにあらす。唯事實に對する問題であつた。戰鬪行爲は現に支那に於て大規模に進行中で、日本軍は占領地域の秩序を維持する爲め、自身の治安措置を採つた。夫れ故此等の事柄に僻見を抱かれない様措置を講ずることを必要とした。英國は此定期に對し、討議の明朗な方法として同意した。

三、前述の有田「クレギー」會談に關する聲明が一旦外務省より發表せらるゝや帝都の各新聞は筆を揃へて、本協定に依り英國は遂に日本の前に膝を屈し、從來の執拗なる援蔣政策を放擲し、其對支政策に百八十度の一大轉捩を餘儀なくせしめられたりと速断曲筆し、躍起となつて會談の成功を特筆大書して、之に對する自己禮讃の辭を惜まず、國民も亦事實を曲筆せる新聞報道に共鳴追隨して踊躍狂喜し、爲めに喧々囂々たる懽聲の全國を震撼せしは、回顧すれば僅に今を去る四旬以前に過ぎざるに、豈に圖らん唐突なる英國の態度豹變に依り、會談は急轉直下停頓状態に陥り、現地軍代表は會皇として任地に引き揚げ、會談は事實に於て決裂するに至れり。嗚呼回顧すれば英國の反省を促し、會

談を日本に有利に展開せしめんが爲め熱誠なる國民反英運動が、期せずして澎湃として全國到る處に漲りしは僅に四旬前の事に過ぎざるに、豈に圖らん、會議に多大の期待を屬したる我國民大部の豫想は全然裏切られて、今や槿花一朝の夢と化せる事實に直面しては、彼等は其對英觀の餘りに輕率淺薄なりしを自覺して悔悟の念禁じ難きものあると同時に自責の念に驅らるゝものあるは之を推知するに難らざるなり。

四、英國は、歐洲に於ては今や危機一髪に瀕せる「ダンチヒ」問題の爲め、其全力を同方面に牽制せられて、到底極東に於て日本と事を構ふるの餘力なきを以て、萬已むを得ず、萬斛の涙を呑んで忍び難きを忍び日本との妥協策を講ぜんとして遂に東京會談を提案し來りし事は、英國首相の偽らざる議會報告の告白に依つて其真相世界に暴露せられたり。然るに會談開始後英國の軟弱なる對支政策に不滿鬱勃たる米國大統領は、議會の外交權を無視し、霹靂一聲、獨斷を以て日米通商條約の廢棄を斷行して、我政府當局の長夜の夢を破るの英斷に出でたるのみならず、陰に英國を鼓舞激勵するの策を執りたる爲め、孤立無援の悲境に呻吟しつゝ、大旱の雲霓を翹望せる英國は宛も百萬の援軍を得たる心地して頓に其消沈せる士氣を挽回し、米佛の後援を頼んで東京會談に不合理極まる治安問題と經濟問題との分離討議を提案し來り茲に會談は決裂するに至れり。是れ始めより行くべき所に落ち着けるものにして、其今日あるは余の豫期したる所毫も怪むに足らざるも、英國は本會談に於ても、其常套手段

たる變幻極りなき老獺外交を忌憚なく發揮して、我外交當事者を自由氣儘に操縦し、米國の出馬を頼んで土壇場に於て我外交當事者に背負投げを喰はせて、彼等をして歴然たらしめたるは、御人好しの我外交當事者に對する頂門の一針として貴重なる教訓を與へたるものと認む。

五、曩に外務省より聲明の發表あるや、日本全國の各新聞は筆を揃へて東京會談は英國對支政策百八十度の一大轉換を促し、有田外交の一大成功なりと特筆大書して得々たるに反し、「クレイギー」大使及英國首相は前述の如く東京會談は毫も英國對支政策の變更にあらずと空嘯き、吾人は一時其真相捕捉に迷ひたるも、外務省發表の聲明を反覆熟讀するに及んで、始めて英國は該聲明中に日本軍の勢力下に於ける地域なる簡單なる字句を挿入して、巧みに陥穽を設け、我外交當事者を瞞着して援蔣政策の續行乃至強化に支障なからしめたる其用意の周到振りは、老獺外交の本性を發揮して餘す所なしとす。

抑も吾人八千萬國民が東京會談に期待熱望せるは、夫の區々たる天津租界内の治安維持問題以外に、全面的に英國をして援蔣政策を放擲せしめんとする根本問題の解決を圖らんが爲めなり。何となれば、英國の此不信不法なる援蔣政策の爲め、支那事變は徒に遲延せられ、其爲め我皇軍は幾多の忠勇なる將兵の貴重なる犠牲を拂ひつゝあるの事實に想到するときは、英國をして援蔣政策を放擲せしむるは寸時の猶豫を許さざる重大問題なればなり。然るに斯る重大問題を、始めより逸し去りたるは

全く會談の意義を没却するものなるを以て、會談の決裂は寧ろ國家の爲め衷心より歡迎する所にして余は雙手を舉げて之を祝福せんとす。而て一旦會談決裂し、而も其責任が英國側にあるは租界回收に實に有力なる口實を提供するものにして、今は何等の拘束を受くることなきを以て、毫も逡巡躊躇することなく、北京政府を後援督勵して租界回收の實行に向つて勇往邁進せしむるを要す。是れ紛糾錯綜せる天津租界問題解決の爲め、残されたる唯一無二の方法とす。余は徒に大言壯語自ら以て快とするものにあらず。今日は租界回收の爲めには千歳一遇の好時機にして、若し今日の機會を逸すれば、獨露間に不可侵條約締結せられ、「ダンチヒ」問題の爲め發生を氣遣はれたる歐洲戰亂の動機も大に緩和せられたるを以て、英佛が近き未來に於て東洋に其餘力を充分發揮し得るに至れば、實力を以てする天津及上海租界回收は今日に比すれば一層困難を加ふる事を覺悟せざるべからざるを以て、此好機を逸すべからざるなり。余は我政府當局の斷乎たる決心を切望して已まざるなり。(昭和一四、八、二三)

歐洲の戰亂情勢の支那事變處理 に及ぼす影響

一、現内閣は組閣匆匆歐洲戰亂の勃發に遭遇するに方り、其政綱の根本方策として「歐洲戰に介入せ

す只管支那事變の處理に邁進すべき」を聲明せり。今や我皇國日本は支那事變なる曠古の非常時局に直面し、國運を賭し、死力を盡し、朝野舉つて聖戰の目的貫徹に向つて邁進中なるを以て、我内外の國策は聖戰の目的貫徹に向つて指向集中せられざるべからざるは論議の餘地なしとす。故に現内閣政綱の根本方策は、八千萬國民の衷心より賛同する所なるは余の信じて疑はざる所なり。回顧すれば曩に支那事變勃發以來、今日に至る迄二ケ年有餘の間、我友邦たる英佛露米の各國は、國際信義を無視し、中立的態度を擲つて陰に陽に援蔣政策を遂行して我聖戰の目的貫徹を妨害し、爲めに疾に崩壊すべき運命に置かれたる蔣政權は、今尙其餘命を保持して、皇國に對し長期抗戰を豪語しつゝ無意義の鬭争を繼續しありて、吾人日本國民の彼等諸國の不義不信に對する悲憤慷慨の念は實に抑へ難きものありしが、嗚呼天祐なる哉、青天の霹靂一聲獨波間に戰爭勃發し、豫て波國援助を誓約せる英佛兩國は獨逸に向つて倉皇として開戦を宣し、露國も亦獨逸との不可侵條約を利用して、逸早く波國に出兵し獨逸と相握手して波國を分割占領して波國は今や歐洲地圖より抹殺せられて其影を没するに至れるも、一方獨佛國境の西部戰場に眼を轉すれば、佛英は大軍を集中して獨軍と相對峙し僅に偵察戰を反覆するのみにて大軍は滿を持して動かさず、歐洲の天地は宛も山雨將に到らんとして風樓に滿つるの光景を描出し、爲めに從來東洋方面に猿臂を伸ばして、我聖戰の目的貫徹を妨害しありし英佛兩國は、今や歐洲方面に牽制せられて東洋を顧みるの遑なく、米國も亦歐洲情勢の緊迫を重視して、急遽特別

議會を召集し、英佛側に有利なる如く中立法の改訂を企圖しあり、米國は假令自ら進んで歐洲戰亂の渦中に投ぜざる迄も、歐洲方面の見極めのつく迄は、東洋方面に對しては靜觀的態度を餘儀なくせしめらるゝは之を豫想するに難らざるなり。加之多年滿蒙方面に於て相互に反目睥睨し來りし日露の兩國は、過般の外蒙停戰協定成立の結果露國は日本に信頼し後顧の憂なく其全力を歐洲方面に傾注し得て今や北海及巴爾幹方面に活躍中なるを以て、此機を逸せず巧に外交工作を弄し、彼をして援蔣及支那赤化宣傳政策を放擲せしむる爲め萬善の努力を拂ふと同時に、曩に日露戰爭の敗北に依つて日本海への出口を閉塞せられたる露國をして、此際其進路に一大回轉を促がし、中央亞細亞方面より波斯方面へ鋒先を轉ぜしむるに成功せば、彼をして支那より足を洗はしむるのみならず、英領印度を側背より脅威するの結果を生じ、英國をして極東よりの退却を餘儀なくせしむるに至るべく、之より生ずる日本の收穫は實に鮮少にあらざるなり。想ふて茲に至れば我外交の活躍には今日は實に千載一遇の好機會とす。吾人は我外交界の覺醒を促がすと同時に其奮起を望むや實に切なるものありとす。

二、近衛内閣以來平沼内閣を経て現阿部内閣に至る三代内閣は、異口同音に聖戰の目的は東亞新秩序の建設にあるを主張し來れるも、其具體的説明に就ては政府當局の口より曾て之を耳にしたることなきも、余独自の見解に依れば、其窮極の目的は東洋民族より成る東洋の實現を圖るを意味するものと斷定す。果して然れば先づ歐洲列強の植民地化する支那大陸より歐米勢力を驅逐掃蕩し、以て支那四

億の民衆を歐米勢力の羈絆より解放し、彼等をして獨立國家を組織せしめたる後、皇國日本を盟主とする日（韓民族を含む）滿蒙及漢の四民族より成る日滿支の東洋聯邦を組織して、所謂東洋民族の東洋の實現を期するは吾人日本國民に課せられたる天賦の一大義務なりと信するものなり。

三、余の最近の調査に依れば支那本土に於て利權獲得の爲め巨額の投資をなせるは英國の約五十億圓を筆頭に、米佛兩國の順序とす。故に東亞新秩序建設の爲めには彼等の勢力を支那大陸より驅逐するにあらざれば、其目的達成は到底不可能なるを以て、我皇國日本外交政策の動かすべからざる根本方針は、是等三國勢力の驅逐にあることを銘記せざるべからざるなり。

是れ實に日本の爲めには困難なる使命には相違なきも、萬難を排して此使命達成に向つて邁進せざるべからず。然りと雖も彼れの略ぼ一世紀に亘る根據深き勢力を一舉に驅逐するは容易の業にあらざるを以て、漸を逐ひ機を窺ひ苟も罅隙の乘すべきあれば、之を逸せざるの注意を怠るべからざるなり。幸にして今や歐洲戰亂は彼等の東洋に於ける活躍を制肘するに至れるを以て彼等は徹底的に援蔣政策を實行する事不可能となれり。故に今や蔣政權打倒に爲めにも將た又彼の勢力を東洋より驅逐する爲めにも、絶好の好機會を吾人日本國民に提供するに至れり。

四、我政府當局は重慶政府の脱出者汪兆銘を支援して支那新政權の主權者として擁立するに決定せりと云ふ。余は三民主義の信奉者たる彼を主權者として迎ふるには豫て異議を抱ける一人なりしも、政

府當局は我國策として之を決定せる以上最早異論を唱ふるの餘地なきを以て、今は唯其成功を念願するの外なきも、抑も三民主義なるものは極端なる自由平等主義にして、立憲君主國たる皇國の主義主張とは天地霄壤の差ありて其精神に於ては氷炭相容れざるものあるを以て、將來日支兩國間の善隣關係に摩擦及亀裂を生ずるの虞なしとせず。故に我政府當局及國民は、彼の施政に對して深甚の注意を拂ふの要ありと認む。特に皇國が將來日滿支聯邦の盟主として東亞新秩序の建設に乗り出すに方り、支那新政權が日本に追隨を拒みて之に反抗的態度を表示するが如き事態を惹起するに於ては、多大の貴重なる犠牲を拂ひ、贏ち得たる聖戰の目的は、中途に於て挫折するの虞あるを以て、新政權をして我掌中より逸脱せしめざるの用意を尤も肝要と認む。惟ふに我阿部内閣が成立勿々充分に検討を遂ぐるの違なくして、倉皇として新政權の建設に乗り出したる其主目的は、新政權の建設に依て今や崩壊に垂んとする蔣政權を去勢して、其潰滅を速かならしめんとするの企圖に出でたるものと推定せらるるも、或は反て蔣政權の要人に汪兆銘反對の氣勢を昂進して、彼等の結末を促がすの結果を生ずるに至るやも測り難きを以て、徒に新政權の建設に満心し、無爲にして蔣政權の崩壊を期待するが如きは危険是より大なるはなきを以て、新政權建設後と雖も、武力を以て蔣政權の潰滅を計るの策を講ずるを第一義とせざるべからず。假令新政權成立するも、一兵をも有せざる新政權は、蔣政權の存在する限りは皇軍の庇護の下にあらざれば、一日も存立し能はざるを以て蔣政權に對する武力討伐の任務は

依然皇軍之を擔當せざるべからず。況んや日露間に停戰協定成立せる今日に於ては、對露外交工作に成功せば皇軍は其全力を蔣政權打倒に轉用し得るの利益を有するに於てをや。

(昭和十四、九、二十五)

米國の對支外交の檢討と日本の對米外交

一、近來日米間の國交は支那問題に關し漸く緊張の狀を呈し、動もすれば兩國間に危機を訴へんとするの觀なきにあらず。夫の「ルーズヴェルト」大統領が一片の豫告をも發せずして、霹靂一聲以て千九百十一年締結せられたる日米通商條約を宛も弊履の如く廢棄して平然たる其非友誼的冷淡極まる態度は實に日米間の傳統的友好關係を一朝にして泥土の如く蹂躪せるものにして、其裏面には支那問題に關し秘密なる事情の存在することは疑を容るゝの餘地なく、此秋に方り、明治二十七、八年日清戰爭時代より、大正十年の華府會議を経て今日に至る米國の對支政策に就て檢討を加へ、彼が對支政策遂行上如何に日本の對支行動に就て關心を有するかに就て所見を披瀝する所あらんとす。余は幸に歐洲大戰中大正六年乃至十年間英國日本大使館付武官として駐英し、大正七年の巴里聯合國會議及同八年の巴里平和會議に參列し、次で大正十年の華府會議にも列席せる經歷を有するを以て、主として

此間に於ける體驗及見聞を陳述することとせり。

二、歐洲各國は千八百四十二年の鴉片戰爭を契機として、支那大陸に活動し、領土及各種の利權を獲得したるに拘らず、獨り米國のみは其國內情勢上外國に手を伸ばすの餘裕なく、支那大陸に於ては歐洲各國の後塵を拜するを以て満足せしに、明治二十七八年戰役後、日本は戰勝國たるに拘らず、佛獨露の三國干涉の結果遼東半島を還付し、支那より何等獲る所なかりしに拘らず、獨逸は膠州灣を、英國は威海衛を、佛國は廣州灣を奪取して、支那は日清戰爭を契機として再び歐洲列強の侵略の目標となるに方り、米國の初代「ルーズヴェルト」大統領時代に於て、時の國務長官「ヘイ」は、支那の門戸開放及機會均等主義を主張し、米國は歐洲各國及日本が支那の領土及權利を獲得するも、其門戸を閉鎖し、且其利權を獨占するに反對し、將來米國の支那大陸に於ける活動に對し自由の權利を保有せり。爾來此主義は米國の對支外交の根本方針として何れの内閣に於ても主張せらるゝに至れり。

千九百五年の日露戰役に於て、日本は戰勝の結果日支間の外交々涉に依つて滿洲に於ける利權を獲得し、次で千九百十四年歐洲大戰勃發後千九百十九年に於ける巴里平和會議に於て米國首席全權「ラシンング」國務長官は、米國大統領の讓步せる日本の青島に於ける權利繼承に反對し、一片の辭表を投じ、全權の職を辭して米國に歸還し、大統領反對の意見書を刊行して大統領の青島讓步を大に攻撃する所ありしが、果せる哉、米國上院に於ては千九百十九年と同二十年の二回に亘り、巴里平和條約

を否決せるは、「ランシング」國務長官の大統領攻撃の意見が大に與つて力ありしものと認めらるゝに至れり。次で千九百二十一年華府會議開催せらるゝや、一旦巴里平和會議に於て議定済みの日本の青島に於ける獨逸の權利繼承問題を再び俎上に載せ、日本に挑戦して遂に日本をして無條件にて青島を支那に還附せしめたるのみならず、日露戦勝の結果淋漓たる同胞の鮮血を以て償ひ得たる滿洲に於ける權利をも、華府會議に於て悉く支那に還付せしめ、尙且百尺竿頭一步を進めて、米國は九ヶ國條約を提案し、日本をして支那の門戸開放、機會均等並支那の領土及政治的獨立をも承認せしむるに至れるは、米國が日本の國力微弱なるに乘じ、日本をして支那大陸より驅逐するに成功したる第一歩とす。

之を要するに、華府會議は血は水より濃き「アングロサクソン」系の英米兩國が相提携し、日本をして、海軍勢力を五、五、三の不法なる比率に屈從せしめ、且米國は日英同盟の破棄に成功して、日本を英國より離脱、以て其勢力を孤立に陥らしむると同時に、九ヶ國條約に依り日本勢力を支那大陸より驅逐するに成功して、將來に於ける米國の支那大陸に於ける活躍を準備せるものにして、華府會議に於て、英米兩國は日本海軍勢力を去勢して、日本の東洋に於ける活動飛躍を封じたるは、同會議に参加せる者の齊しく認むる所なりとす。

三、華府會議以來日本國民は、平和を謳歌し、軍備縮少を絶叫し、日本國民の志氣は頓に頹廢して、

地に墜つるに至れり。夫の四個師團縮問題が國民の非難を受くることなくして容易に實行せられたるは此邊の消息を雄辯に物語るものとす。之が爲め支那國民は日本輕侮の念に驅かれ、滿洲に於ては日本人は滿洲政府より壓迫を蒙り、遂に昭和六年滿洲事變を惹起するに至れり。而て一旦滿洲事變起るや、米國々務長官「スチムソン」は英國を勧誘し相協力して武力干渉を試みんとしたるも、英國は之に應ぜざりしを以て英米佛等の諸國は國際聯盟の力を借りて、日本に重壓を加へ來れるを以て、日本は斷乎として聯盟を脱退し、其初志に向つて邁進し遂に滿洲帝國の建設に成功するに至れり。本月十九日「グルー」大使は其權迎會席上、日本の九ヶ國條約に不忠實なるを示唆する所ありしが、日本は滿洲事變に際し、英米佛の反對を排して同條約を蹂躪したるも、何等の制裁を受くることなかりしを以て、同條約は日本に關する限りは、自然に其効力を喪失し、今は一片の殘骸に過ぎざるものと認む。

四、昭和十二年の支那事變に際し、英國政府當局は米國政府を勸告し、相協力して日本に武力干渉を試みんとせるも、米國政府當局は之を拒絶せるを以て、武力干渉は實施するに至らざりしも、英米兩國は國際聯盟を動かし白國「ブルツセル」に理事會を開いて聯盟の力を以て日本に壓迫を加へんとしたるも、是亦不成功に終れり。夫の英米佛露の諸國は、事變勃發當初より、國際信義を無視して援蔣政策を實行して、我聖戰の目的を妨害し、爲めに疾に崩壊すべき筈の蔣政權は今尙其餘命を保ち、長

期抗戰を豪語しつゝ無益の鬭争を繼續して、四億の民衆を塗炭の苦しみに陥れつゝありて、英佛米露諸國の罪惡は大に筆誅に値ひするものありと認む。

五、今茲に特筆せんとするは、米國大統領が突如として日米通商條約を廢棄したるの理由に就ては、種々様々に噂せらるゝも、余の觀察に依れば、世人も知る如く米國上院に於ては中立法問題を繞りて各種の議論沸騰し、上院外交委員長「ピットマン」は、前回の議會に於て日本に對し、武器彈藥の軍需品輸出禁止法案を中立法以外に提案する所ありしが、上院に於ては「ピットマン」案は千九百十一年の日米通商條約に矛盾するや否やの調査を國務省に依頼し、同省に於ては該條約に矛盾するの答案を得て、一時「ピットマン」案の會議を中止せしに、偶々東京日英會談に遭遇するに當り、英國は讓歩的態度を以て之に臨み、天津銀行にある法貨を日本に交附せんとするの議起るや、米大統領は大に英國の讓歩に憤慨し、突然日米通商條約を廢棄して支那問題に對する強硬なる決意を示す所ありしが、英國も米國の此強硬なる態度に動かされ、急に其態度を豹變し茲に日英會談は決裂するに至れるは、今尙吾人の記憶に新たなる所なりとす。日米通商條約破棄の目的が余の觀察の通りとなせば、來年二月以後米國は日本に對し、武器輸出の禁止法案を議會に提案するやも計り難く、日米間の前途は頗る多事多難にして、米國崇拜者の熱望する改訂通商條約の締結は其前途は頗る暗澹たるものありとす。

六、本月十九日、米國「グルー」大使の東京歸還の歡迎會席上、同大使の演說の一節に「日本の支那大陸に於ける軍事行動の結果として米國の正當なる在支權益に對し行はれつゝある爆撃、侮辱、殺傷及干涉行爲に對し、舉國一致憤懣を感じて居るのである。又米國民は日本の亞細亞大陸の廣大なる部分に對し、支配權を確立し、日本一國の利益の爲めに領土的經濟機構を確立せんとしつゝあるものと信すべき凡ゆる證左を有するのである」

右大使の演說中「米國の正當なる在支權益に對し行はれつゝある爆撃、侮辱、殺傷及干涉行爲に對し、舉國一致憤懣を感じて居るとの一節は米國民の日本軍行動の誤解より來るものとして、日本軍は敵の軍用物以外特に外國所有財産に對しては損害を加へざる様萬幅の注意を拂ひつゝあるを以て、米國民の憤懣を惹起するが如き事實の存在する事なきは信じて疑はざるなり。雖然、日本は廣範圍の地域に亘り軍事行動なるを以て時に或は誤つて敵の軍用物以外の外國財産に損害の波及する事あるやも計り難きも、其範圍は至つて狭少微弱なるものと信するも、通信記事や報告者の誤りの爲め、其事が過大に報道せられて、誤解を來せしやも計り難しとす。又他の一節に「米國民は日本の亞細亞大陸の廣大なる部分に對し、支配權を確立し、日本一國の利益の爲めに領土的經濟機構を確立せんとしつゝあるものと信すべき凡ゆる證左を有するものである」と強調せるは、是れ米國民が日本の東亞新秩序建設の誤解より來るものにして、之に對し一言以て東亞新秩序の建設に關し辯明を加ふるの必要

ありと認むるものなり。

抑も鴉片戦争以來、歐洲各國は支那の領土を侵略し、或は其豊富なる利権を獲得し、各國の支那に於ける投資額は英國の約十一億八千九百萬弗を筆頭に、米國の二億五千萬弗及佛國の一億五千萬弗の順序にして、支那は宛も歐洲の植民地たるの觀あり。而も歐米各國は支那を獨立國と稱しながら、今尙支那に租界及治外法權を有し、支那を宛も植民地視するの觀あるは時代錯誤も亦甚しく、今や支那國氏は世界の文化に接し、獨立自由の權利を主張しあるを以て、支那を現狀の儘に奴隸視するは、歐米人の所謂平和人道上よりも實に不法暴戾的行爲なるを以て、日本は東洋民族の先驅者として、先づ支那を歐米各國の羈絆より解放して、支那を純然たる獨立國家に復歸せしめ、日支相提携し、東洋民族を以て東洋を建設せんとするものにして、「グルー」大使の所謂日本一國の爲めに領土的經濟機構を確立せんとすとの演説の一節は大なる誤解にして、日本は東亞新秩序建設の爲め日支協力の下に之を實行せんとするにあるを理解せば、日本の野心に對する米國民の疑惑は釋然として氷解するに至るべし。夫の蔣介石一派の徒は日本を支那の侵略者として絶叫しあるも、日本軍の占領區域内に於ける支那民衆は、克く日本の眞意を了解し、日本と協力して支那の復興に向つて最善の努力を拂ひつゝあるを以て、米國民も日本の眞意のある所を諒とし、援蔣政策を放棄し、日本の東亞新秩序建設の意義に誤解なからんことを切望す。希くは「グルー」大使自ら率先し、時代錯誤の九ヶ國條約に拘泥する

ことなく新たなる東洋政策の畫立に向つて、本國政府に献策し、米國民をして日本の東亞新秩序建設の意義を了解せしめられん事を切望して已まざるなり。果して然れば日米兩國間には戦争の原因全然清掃せられ、太平洋は其名の如く永久に波靜にして、泰平を謳歌するの日到來するに至るべし。終りに臨み余は「グルー」大使の米國の對日感情を率直に忌憚なく暴露せられ、我が米國崇拜者に頂門の一針として貴重なる教訓を與へられたる其公明正大なる態度に對し敬意を表するものなり。

(昭和十四、十、二十四)

和蘭の歐洲戦争参加と蘭領印度との關係

一、曩に阿部内閣は其成立後支那事變處理の國策と歐洲戦亂不介入の外交方針とを汎く中外に聲明し吾人國民も舉國一致之に共鳴する所ありしが、惟ふに端倪すべからざる變轉極りなき世界國際情勢の現況に於ては情勢の變化は急轉直下實に且夕測るべからざることを豫期せざるべからざるを以て、將來和蘭が歐洲戦亂の渦中に投じ、戦争の影響が我南洋委任統治領と隣接する蘭領印度に波及するが如き事態を惹起せば、我皇國は飽く迄歐洲戦亂不介入主義に拘泥し之を對岸の火災視して徒に袖手傍觀し能はざるに着眼し若し斯る場合に遭遇せば、臨機之が對策を講ずるの必要に直面すべきを豫期し置

かざるべからざるなり。

二、最近獨逸は英國攻撃の爲め、和蘭の中立を侵犯して同國に進軍し、同國內に有利なる海空軍根據地を獲得せんとするの風説頻々として傳へらるゝは、英國打倒の念に燃ゆる獨逸としては作戦的見地より觀察し敢て怪むに足らず。寧ろ獨逸は外交關係上、其機會を狙ひつゝあるにあらざるやと觀察するも過言にあらざるべし。又相手の和蘭は、作戦上此事あるべきを察知し、曩には白蘭兩國君主相提携して協同平和の提案をなせるも遂に成功せざりしを以て、白耳義は尙竿頭一步を進め、和蘭と協同して嚴正中立を堅持し、若し之を犯すものあれば兩國相協同して之が防衛に當らんとするの意見を和蘭に提案したるも、和蘭が之を拒絶したるは想ふに若し獨逸と戦端を開くに至れば從來和蘭の外交政策の基調たる歐洲に於て、嚴正中立を守り南洋に於ける其尨大豊富なる殖民地を安泰に保持せんとする方針に相反するの結果を齎らすことを危惧せるものと認む。之を要するに、從來和蘭の外交政策は集團的保障の機構たる國際聯盟への依存にして、従つて殖民地に於ける軍備の如きも、全く對内的に主權の確保を目的とする住民壓服の兵力配備を以て満足し來りたるも、近來聯盟の威信失墜し、東亞に於ける日本の進出に伴ふ國際政局の緊張は和蘭をして聯盟依存主義を放棄して、東亞に於て日本と最利害相對立する英國への依存政策と一變せしめ、而も「エチオピア」問題や滿洲事變勃發して、英國の頼み難きに失望したる結果、和蘭國民は依存政策に偏重せずして、自ら國防を充實するの必要を

痛感するに至り、之が實行に着手したるも、經費其他の關係上之が實行容易ならずして、依然英國依存に復歸して今日に至るが、今回歐洲戦亂の勃發は到底英國依存の頼むべからざるを自覺し、將來は日本と相對立する米國に向つて秋波を送るに至るべきは想像に難からず。特に米國の屬領比島と蘭領印度とは地理的に近く相接し、尙且蘭領印度には「スタンダード」石油會社が約一億一千「ギルダー」の大投資をなせる行懸りもあるを以て、經濟的にも蘭領印度に他國勢力の侵入を好まざるは明瞭なれば、米國は蘭印に對して決して無關心たり得ざるものあるは之を推知するに難らず。過般有力なる潜水艦隊を比島に増遣し、或は近く東洋艦隊司令官、上海總領事及比島高等辨務官等が「マニラ」に會合して、密議を凝らさんとするの風評は、余を以て之を觀れば單に東亞問題の審議に留らず、一步を進めて或は和蘭が歐洲戦亂の渦中に投じたる場合の對策を審議せんとするの消息を物語るものにあらざるなきやの感なきにあらざるなり。

三、日本と蘭領印度とは、主として密接なる經濟關係を有し、日蘭間の貿易は千九百十三年に於て蘭印の總輸出額四億四千六百萬「ギルダー」の内、日本より輸入額八千三百萬「ギルダー」總輸入額二億九千三百萬「ギルダー」の内、日本への輸出額二千四百萬「ギルダー」に達す。然るに蘭印政府は蘭印産業保護を目的として、曩に輸入制限を實施し、次で和蘭本國工業の保護を目的として、輸入割當をなし、且輸入取扱者を在蘭印和蘭會社に優先的に許可する等に依て、蘭人の經濟擁護を鮮明にす

るや日本の當業者を痛く刺戟し、之が端緒となつて日蘭會商開催せられたるは今尙吾人の記憶に新たなる所なり。

日蘭會商は和蘭の提唱、日本の受諾により千九百三十四年六月四日より「バタビヤ」に於て開催せられたるも、蘭領印度側が會商の中心を専ら蘭人經濟の擁護を爲に採用せる輸入制限問題に置き最初より具體的協議に入らんとしたるに對し、日本側は通商の自由に關する原則的主張を高調し、日蘭通商條約の精神を尊重し、所謂人爲的なる貿易統制を排斥せる結果、會談は半歲に及ぶも進捗せず、結局同年十二月二十一日會商打切りとなれり。

四、抑も蘭領印度は南洋に於ける世界の最大群島の集團にして、實に總面積百九十萬四千三百四十五平方呎の尨大なる地域を有して、其領土は和蘭本國の五十八倍に相當し、而も各種多量なる熱帶物産は世界に冠たるものあるを以て、此際蘭領印度に關する我國民の知識に就て、其概念を喚起するは敢て無益の事にあらずと信するを以て、其概要を紹介する所あらんとす。

位置 北緯六度より南緯十一度、東經九十五度より同百四十一度の間に散在す。

群島團 「スマトラ」「ジャバ」「ボルネオ」「セレベス」「モロッケン」群島、「ニューギニア」群島及小「スンダ」群島等より成る。

人口 千九百三十年調査、總人口六千七十二萬七千二百三十三名。内瓜哇、マヅラ四千七百七十一萬

八千三百六十四名。其他諸島一千九百〇〇八千八百六十九名。内日本人、瓜哇マヅラ四千四百四十九名。「スマトラ」一千三百六十三名。「ボルネオ」六百四名。「セレベス」五百七十五名。「ニューギニア」二百六名とす。

歲出入 千九百三十六年、歲入四億四千十萬八千「ギルダ」。歲出四億六千四十一萬三千「ギルダ」。

國防費 千九百三十六年、陸軍五千三百三十七萬九千「ギルダ」。海軍三千七百五十九萬五千「ギルダ」。總計八千八百九十七萬四千「ギルダ」。

陸軍 千九百三十五年、約二個師團及外領駐屯部隊にして其兵數は二個師團(一八、三九七名)外領駐屯部隊(一、一九一名)總計約三萬人。

海軍 千九百三十五年、乙級巡洋艦三、驅逐艦四、潜水艦一三、水雷敷設艦三、水雷工作艦一、掃海艦四。

飛行機 飛行艇四二(現役機數一三) 爆撃機一二(現役機數四) 偵察機一二(現役機數六)

農業 農業の國際的地位より觀察すれば規那は世界産額八、五一一呎の内蘭印は七、五六一呎即ち百分の八九を、各種「カボック」は世界産額二七、三五〇の内二二、四三二即ち百分の八二を、胡椒は世界産額五九、九一四の内四四、〇一四即ち百分の八〇を、護謨は世界産額八八〇千呎の内二八八千

貳即百分の三三を、古々椰産品は世界産額一、五一七の内五〇二、即百分の三三を茶は世界産額三八五の内七二即百分の一九を、砂糖は世界産額二四、五二七の内一、四五二七の内一四〇一即百分の六を産し、尙之を詳言すれば、規那、カボック及胡椒は世界第一位、護謨、油椰子、古々椰子は世界第二位、茶及砂糖は世界第三位、珈琲は世界第四位の産出高とす。

鑛物 鐵鑛は開掘中のものは稀少なるも、其埋藏量は「セレベス」群島の十億噸「ボルネオ」島の十二億噸、其他「セブク」島三億噸「スワンギ」島二億噸を産す。

「マンガン」鑛 瓜哇及「フロレス」島、「ボルネオ」「チモール」「ロツタイ」諸島に鑛床發見せられ、千九百二十一年の終までに産出した鑛量は三萬噸餘に達す。

石油は世界産額の百分の二、八を産出するに過ぎずして、世界的地位よりすれば米國、露國、「ウエネズエラ」、羅馬尼、波斯、「メキシコ」、蘭印の順序にして、世界第七位を占むるも、我國とは其地理的關係上に重要視すべき價値ありとす。千九百三十四年に於ける生産總額六、〇四二、二〇〇噸の内瓜哇及マツラは五一〇、三八三噸、「スマトラ」は三、五七〇、八四五噸、「ボルネオ」は一、九二四、二三應「モロッケン」群島三六、七三八應を産出し、千九百三十三年日本に蘭印より四百七十三萬「ギルダ」の價格の石油を輸入せり。

錫 蘭印は世界第三位の錫産地にして、世界總産額の百分の一乃至一八を産出し、千九百三十四年

に於ける産出高 一萬九千七百四十五應を算す。而して千九百三十年には三萬五千四百四十一應を産したるも、千九百三十四年に於て多額の減量を來したるは國際協定の結果に外ならざるなり。

石炭 石炭の産地は「スマトラ」、「ボルネオ」の二島にして就中「スマトラ」に多量を産す。

其埋藏量は可採炭量六四二、三五〇、〇〇〇應に達す。蘭印に於ける石炭の消費は近年旺盛にして、大體自足し得るも特殊工業にあつては良質の外國炭を必要とし、千九百三十四年には英獨南米及日本等より合計二十萬應を輸入せり。而て日本よりの輸入量は僅に一千五百應に過ぎず。又輸出量は千九百三十四年には二十一萬應を算し輸入輸出相半す。(昭和一四、一一、二六)

紀元二千六百年を迎ふる年頭の辭

一、熟々惟みるに天壤無窮の皇統を奉戴する我皇國は、今や昭和十五年の聖代を迎ふるに方て、紀元二千六百年の悠久なる歳月を重さね、其世界に冠絶せる萬邦無比の國體は、吾人國民の尤も光榮とし、且誇りとする所にして、懽喜踴躍の念自ら禁じ難きものあり。余は先づ謹んで 聖壽の萬歳を奉祝して、皇室の益御繁榮ならんことを祈念し奉ると同時に、翻て支那事變を顧みれば、光陰は宛も流水の如く、本年を以て聖戰第四年を迎へ、此間我忠勇なる出征將兵の奮戰苦闘、櫛風沐雨の辛酸は銃

後國民の感激措く能はざる所なりとす。就中戰場に馳驅して邦家の爲め身命を捧げたる忠靈に對しては、深甚なる哀悼の意を表して已まざるなり。

回顧すれば聖戰第三年に於て、皇軍は幾多の顯著なる功績を宣揚せり。就中支那海南門の鎖鑰たる海南島の占領、蔣政權唯一の海口連絡路として残されたる北海路遮斷の作戰を始めとし、汕頭其他各要地の占領、並に我占領地域内に於ける殘敵の掃蕩等實に枚擧に遑あらざるを想へば、吾人銃後國民は、舉國一致銳意其任務遂行に向つて邁進し、出征將兵をして、後顧の憂なからしめざるべからざるなり。

二、皇國は聖戰の目的貫徹に向つて邁進中、這般突如として北邊の風雲急を告げ、遂に外蒙「ノモンハン」附近に於て日露兩軍の局地的衝突を來し一時國民をして一大關心を惹起せしめたるも、我忠勇なる將兵は奮戰苦闘克く寡を以て衆に當り、多大の損害を蒙りしも、毅然として毫も動ずる所なく、其任務を完うして、皇軍の名譽を毫も毀損する所なく、遂に兩軍の合意を以て停戰協定となり、戰局を終結して國民不安の念は茲に一掃せらるゝに至れり。余は北蒙の漠々たる曠野に於て、屍を晒せしる忠勇なる多數の將兵に對して深甚なる哀悼の意を表する實に切なるものありとす。

三、今や我政府當局は支那事變處理の爲め更生新支那中央政權建設に着手し、汪兆銘一派の擁立運動準備中なりと傳へらるゝを以て、吾人は其成功を欲するは勿論なるも支那事變勃發以來今日に至る迄

巨萬の生命と巨億の國帑との高價なる犠牲を拂ひ來りし我皇國は、新支那建設の爲めには其新政權に對し要求すべき條件尠からず。而も此條件は當然戰勝國としての權利に屬するを以て、之が貫徹を期せざるべからざるも、多年三民主義を生命として奮闘し、深く平等思想に感染せる汪兆銘との取組には、彼我思想及主義の軒輊上之が折衝に前途幾多の難關に衝突するを豫想せらるゝも、若し我政府當局が、汪一派の懽心を迎ふるに汲々として、其要求すべき條件を棄てて顧みる所なく、我國民の要望に副はざるが如き態度に出づるに於ては、必ず國民の強硬なる反對に遭遇することを豫期せざるべからざるなり。

汪政權の建設の爲め從來依違逡巡、形勢を觀望し來れる首鼠兩端の徒は、之に共鳴して其の傘下に馳せ參する者も尠からずして、蔣政權に尠からざる動搖を與へ、或は蔣政權崩壞の動機となるやも計り難きも、汪反對派の所謂汪政權の建設は反て蔣政權の結束を鞏固ならしめて反汪氣勢を昂進するの虞ありとの一説も亦一顧の價値なしとせず。故に汪政權建設を以て蔣政權打倒の尤も有效手段と曲解し、拱手して同政權の自然崩壞を期待するは、宛も百年河清を待つに異ならずとの觀察に基き斷じて吾人の與みする能はざる所なり。故に假令汪政權建設後と雖も、武力討伐を等閑に付することなく、益之を強行し、根柢より蔣政權を打倒して、再び起つ能はざらしむるは武力行使にあることを忘るべからざるなり。

四、抑も支那事變勃發後、援蔣政策を續行して、我聖戰の目的貫徹に向つて執拗に妨害を試み來りたるは英佛米露の四國にして蔣政權が事變勃發後今日に至る三ヶ年の間、連戦連敗の悲哀を滿喫せるにも拘らず、今尙氣息奄々として其餘命を保持し、尙且長期抗戰を豪語しつゝあるは、此等諸國の有形無形の援助の與つて力ありしは世界周知の事實なりとす。故に我國民の此等四國に對する非難攻撃の聲は囂々として國內到る所に瀾漫し、吾人國民は彼等を不俱戴天の仇敵視して今日に至れり。然るに僥倖にも歐洲戰亂の勃發は急轉直下世界の情勢に一大變化を齎らし、英佛兩國は獨逸の攻勢に備ふる爲め、其全力を歐洲方面に牽制せられ、遂に倉皇として支那駐屯軍を撤退して之を歐洲方面に召還し、今や東亞を顧みるの餘力なきに至れるを以て我皇國は英佛兩國を憚りて事變處理に右顧左眴するの必要を認めざるに至れり。又米國政府は始めより自由主義國たる英佛に同情を寄せ、兩國をして凱歌を奏せしむる爲め、中立法に無理不法なる改正を加へて、交戰國に對する武器の輸出禁止を撤廢するの暴舉に出でたるは歐洲戰爭に一大關心を有するを立證するものにして、極東に於て日本と勝敗を賭して其覇を争はんとする意圖なきを示唆するものなれば、日本は毫も日米國交の惡化に介意することなく、聖戰の目的貫徹に向つて邁進するを要す。

今や東京に於て野村「グリユー」會談續行中なるも、米國が日米を九ヶ國條約違犯國視する誤まれる觀念を根本的に改めて東亞新秩序の建設に協力するの度胸なき限りは、幾回の交渉を反覆するも日

米國交の復舊は得て期すべからざるは明かなりとす。果せる哉、米國の日本に對する反感的態度は這般「グリユー」大使の日米協會に於ける演説に於て其真相忌憚なく暴露せられて、我米國崇拜者をして啞然たらしめたる通りにして、同演説は米國政府當局の指圖に出づるものにして、如何に米國民が朝野舉つて皇國に反感を抱くかの光景を描出して餘蘊なしとす。若し野村「グリユー」會談をして本月末に無効となる日米通商條約の改訂に一條の光明を得んとする媚態外交の表現なりとすれば是れ大なる錯覺にして、日米通商條約廢棄の大統領の獨斷的措置の動機に就て之を觀るも、同條約の廢棄は皇國に對する膺懲手段たるを想へば、米國政府は日本が支那より撤兵せざる限りは、懲膺の手を緩むることなく竿頭一步を進め、該條約廢棄と相前後して、對日武器輸出禁止の手段を斷行し、益膺懲の度を加ふことを豫期し置くを要す。故に皇國としては、寧ろ此最惡の場合に備ふるの準備を講じ置くの必要ありとす。夫の我米國崇拜者の宣傳するが如く、米國の對日態度漸次緩和し、日米通商條約も皇國に有利に發展しつつありとの觀察は、我國民を欺瞞するものにして、大局より觀察して皇國が支那事變に没頭する間は、日米國交の復舊は之を斷念するの外なしと信す。最近揚子江開放問題起り米國は日本の態度に好感を以て迎へ、兩國々交の復舊を夢想する者尠からざるも、果して成功するや否やは頗る疑問なりとす。

皇國が露國に對し外交工作の活躍を圖るは今を以て千歲一遇の好機會なりと信す。曩に「ノモンハ

ン」に於ける停戦協定を契機として、國境劃定委員會の開設、及近く開かれんとする日露間の通商條約會議等一時極度に緊張を示せる兩國間の國交關係は、大に融和の形勢を呈し、露國當局も亦誠意を以て兩國間の國交回復に當らんとする態度を示せると同時に、露國は今や芬蘭と交戦中にして、相當の國力及兵力を芬蘭作戰に配當するの必要に迫られ、且又巴爾幹及中東方面に於ける諸國との國際關係は大に紛糾し、國交の破裂は旦夕を測るべからざるものあるを以て、此際東亞に於て日本と事を構ふるを欲せざるは之を推知するに難らざれば、此際對露外交の工作に乗り出すは實に千歳一遇の好機會なるを以て、此好機を逸することなく、露國と談合して其援蔣政策と赤化工作とを放擲せしむるを要す。若し對露交渉を以て露國の赤化工作を誘致すとの疑念を抱く者あれば、極東に於ける其赤化工作を防止するを前提として交渉を開始するの途なきにあらずや。果して露國にして日本の要求に應ずるに至れば蔣政權は全く孤立無援の悲境に陥り、外國より人員武器及軍費を得るの途杜絶し、之に加ふるに武力を以てする皇軍の壓迫益急を告ぐるに至れば、其崩壊は期して待つべきなりと信す。

五、竊て國內に眼を轉すれば、現内閣成立後突如として歐洲戰亂勃發し、從來東亞を其勢力範圍視して、政治、軍事及經濟方面に活躍し來れる英佛米露の諸國は、歐洲方面の逼迫せる情勢に牽制せられ、東亞に全力を傾注して援蔣政策に没頭し能はざるに至れるを以て、支那事變處理の重大使命を帯びて誕生せる現内閣の爲めには、實に千歳一遇の好機を提供せるものと認む。然るに現内閣の外交は

不徹底にして、對英米媚態外交の範圍を出づる能はずして國民の期待を裏切るものあるは前述の如し。又對内政策は組閣匆匆貿易省設置問題に蹉跌して、痛く國民の信頼を失墜し、偶々此時に方り、官吏獨善の泉源たる保障令の撤廢は國民の信用を回復する一方便として其決行を期待せられたるに、是亦外間反對の聲に畏縮して忽ち立消えとなり、且又政黨に叩頭して其弱體性を暴露する等内閣の前途は大に悲觀せらるゝに至れり。又國民生活に尤も必要なる米穀其他諸物資の缺乏と、通貨膨脹に伴ふ物價の騰貴とは大に國民生活を脅威し人心不安の聲を耳にするは非常時局下に萬難を排しつゝ彷徨する吾人國民の尤も遺憾とする所なるを以て、適切なる生産擴張計畫の實施に依つて物資の缺乏を緩和すると同時に、政府は寧ろ從來の優柔不斷の態度を一變し、玉碎主義を以て如何なる障礙をも突破するの勇氣を揮ひ、徹底的に國策を統制して事變處理に向つて邁進せんことを切望して已まざるなり。而て吾人國民も戦時に於ける政變は國民の不統一を國外に暴露するの虞あるに深く想を致し現内閣を督勵鞭撻して聖戰の目的貫徹に向つて邁進せんことを切望して已まざるなり。(昭和一五、一、元旦)

阿部及米内兩内閣を送迎して所感を述ぶ

阿部内閣は組閣匆匆利害關係の相錯綜せる貿易省新設問題を充分なる検討を加ふるの遑なくして閣

議に於て宛も既定の事實の如く至て輕易に取扱ひ、彌々之が實行に着手せんとするや、豈に圖らん膝下の外務省官吏より強硬なる反對の聲勃然として沸騰し、彼等は一致結束して辭表を呈出し、以て反對の氣勢を煽動したる爲め、時の外相野村大將は頗る曖昧なる態度を裝ふて内閣と其下僚との間に奔走斡旋に努むる所ありしが、彼等の決意動かすべからざるものあるを觀て急に其態度を豹變し、遂に下僚の前に膝を屈するの醜態を演じ、一人の犠牲者をも出すことなく事件を有耶無耶の間に落着し、冒かすべからざる閣議決定事項たる貿易省新設問題は遂に流産するに至れり。外相の此軟弱なる態度は官界の痛とも稱すべき下剋上の惡弊を益助成し、永久に禍根を官界に培養せるものと評せざるを得ざるなり。曩には濱口内閣當時司法官吏の減俸反對の同盟罷工起りて、遂に内閣は之に屈服し、今亦官吏の官紀紊亂運動發生し、内閣は之に叩頭せるの事實は抑も何を物語るものなるや。吾人より之を觀れば儼然たる内閣の決定も官吏の同盟罷工の前には無權威の醜狀を忌憚なく暴露して、閣議の威信は地に墜ち、國家の存立の基礎を顛覆せるものとして實に邦家の爲め痛恨の至に堪へざるなり。抑も本問題の起因は、阿部内閣が利害關係の相錯綜せる貿易省問題を殆んど既定の事實の如く、至つて輕易に處理せるに端を發せしものにして、同内閣は外務省官吏と共に官紀紊亂の責任を分擔するの義務ありと信ず。

斯の如くして阿部内閣の成立劈頭に蹉跌せる貿易省問題は、内閣に對する國民の信用を失墜するの動機となり、阿部首相の抱負に動搖を來し、内閣の少數閣僚主義の放棄、政黨への叩頭及官吏身分保障令撤廢の見送り、及野村外相の對米媚態外交並對露消極的外交等は益國民の信頼を失墜し、之に加ふるに國民生活に尤も必要なる食料及燃料等の缺乏不足は國民生活を脅威して、國民に一大不安の念を惹起せしめ、内閣に對する國民の信用は殆んど地を掃ひ、後繼内閣の如何を顧みるの邊なくして内閣更迭の聲は國內到る處に絶叫せらるるに至つて遂に阿部内閣は自然的に崩壊するに至れり。

阿部内閣の後を受けて誕生せる米内内閣は、此重大時局を能く擔當するの資格ありや否やは未知數に屬するも、閣員の顔觸れよりも觀察すれば其多數は革進的氣分に乏しき現状維持派の集團たるは内閣内閣と大同小異にして、外交及内政の革進上多大の期待を囑望し能はざるを遺憾とす。

米内内閣の誕生劈頭に發生せる英國軍艦の我勢力圏内たる日本近海に於ける淺間丸不法臨檢事件に對する解決は我米内内閣の死命を制する有田外交の試金石として、吾人は多大の關心を寄するものにして、將來に於ける政府の行動を監視せんとするものなり。

巷間傳ふる所に依れば、淺間丸船長の犯せる國辱事件は有田外相の意圖を體して桑港佐藤領事の指示に基くもの如く噂せらるるも、吾人は之を信するを欲せず。若し不幸にして此風評が事實なりとすれば、有田外相及佐藤領事は其重大責任を免るる能はず。須らく米内首相は其真相を憤激せる國民の前に展開せんことを切望して已まざるなり。

此重大なる國辱事件解決の爲めには、吾人國民は英國との一戦を賭して之に當るの覺悟あるにあらざれば、到底我に有利なる解決は期待し得ざるを以て、此際吾人は國民の一大決心を切望せんとす。

日米通商條約は本月二十六日を以て效力を失ふこととなり、今後は無條約の儘兩國との國交及通商關係を繼續することとなれり。我外務省及貿易商間には通商條約の廢棄に對し悲鳴の聲を耳にせるも、顧みれば米國大統領が日本膺懲の目的を以て一片の豫告をも發することなく、通商條約の廢棄を敢てせる國際的非禮に對し我國民の憤慨は寧ろ當然なるに拘らず、我邦に於ては國民の口より憤慨の聲を聞くことなく、反て其效力喪失の期日近接するに従て米國の歡心を迎ふるに汲々とし、前の野村外相の如きは揚子江の一部開放をも犠牲として通商條約の締結に努力する所ありしも米國を動かすに至らずして條約は遂に廢棄せらるるに至れば國家の威信上實に遺憾に堪へざるなり。

抑も通商條約の廢棄は支那事變に對する米國の日本に對する反感に因を發するものなるを以て、日本が支那事變に没頭する間は日米國交の復舊は到底期待する能はざるに鑑み、米國を眼中に置くことなく聖戰の目的貫徹に向つて邁進するの外なしとす。或は米國は日本膺懲の目的を以て、近く日本に對し軍需品輸出禁止の法案を制定して日本壓迫の歩を進むるに至るやも計り難きを以て、日本としては今より之が對策を講じ置くの必要ありとす。

過般の外蒙に於ける日露間の停戰協定以來、露國の態度は大に軟化し、日露間の交渉も漸く順調に

進捗し、露國は日本を信頼し、東亞の兵力を芬蘭方面に轉送しありとの報さへ傳へらるる今日、我より進んで露國の援蔣政策及支那赤化工作の阻止を勸告し、露國をして支那より足を洗はしむるに努力するを要す。此交渉にして成功するに至れば蔣政權に對する打撃は實に甚大なりとす。

内政問題に關しては、未だ内閣の政策發表を觀ざる今日、其是非に就て批判を試むるを得ざるも、先決問題としては脅威に晒されつゝある國民生活の安定を圖るを焦眉の急務なりと信す。之が爲めには、世上に爭奪主義の惡評さへ傳へらるゝ各省の尤大なる經常費の年度豫算に、思ひ切つたる壓縮を加へて國民の過重なる負擔の輕減に努むると同時に、尙進んで國民生活に尤も必要なる食料、燃料及電力の圓滑なる統制配給及勞金の徹底的制限並惡性通貨膨脹の緊縮及低物價政策の普及徹底に向つて、最善の努力を拂はざるべからず。就中物價の騰貴は關取引の犯行、物資の缺乏及配給等に因を發するを以て、關取引の嚴重なる取締、生産擴充計畫の急速なる實施並配給の統制等に就ては、一層の善處を要望する切なるものありとす。(昭和十五、一、二十七)

第七十五議會側面觀

第七十五議會は休會後の開會劈頭各政黨代表の演說中、民政黨を代表せる齋藤代議士の舌禍問題を

繞りて議場は議論沸騰して宛然波瀾萬丈の光景を描出し、端なくも戦時下の帝國議會の舉國一致の醜狀を忌憚なく中外に暴露し、外國より鼎の輕重を問はるゝの失態を演じたるは、實に遺憾に堪へざる所なり。即豫て支那事變に反對せる外國新聞は、競ふて同代議士の演説を誇張して掲載し、日本國民中には有力なる代議士すら支那事變反對を議會に於て論争せる者ありとて、我國論の不統一を宣傳し、支那事變遂行上、日本の立場を困難ならしめたり。今更同代議士が、理辨是れ努むるも到底其重大責任を免るゝ能はざるなり。

英艦の淺間丸不法臨檢及乗客獨逸人二十一名の拉致事件は、英艦乗組員が船長の臨檢拒絶に反對し、武器を以て脅迫せるは海賊的行爲たるを免れず。英國は我方の抗議に依つて其内九名の引渡を承諾せるも、殘餘の十一名に對しては引渡を承諾せず、今尙交渉中なり。然るに事件の解決途中に我政府當局が邦人船舶會社に對し、現役獨逸軍人の乗船禁止を指示したるは早計にして、帝國の威信を失墜せるのみならず、事件終結の爲めにも不得策なりとす。若し英國が誠意を示さず、殘餘獨逸人の引渡を拒むときは、我政府當局は内外の輕侮を招き其面目威信上にも關するを以て、飽く迄英國政府に對し強硬に引渡を要求し、其反省を促して目的を貫徹せむことを切望す。否らざれば、憤激せる國民の攻撃は、政府に向つて集中せらるゝに至るべし。吾人は政府の猛省を希望するや實に切なるものありとす。

抑も淺間丸船長が英艦の不法臨檢を拒絶せるに拘らず、英艦乗組員は武力を以て之を強要せる爲め、船長は政府當局の事前の指示に従ひ、其要求に應ぜりとは同船長自身の告白する所なり。果して然らば同船長には毫も其責任なきも、寧ろ其責任は船長に指示を與へたる政府當局に歸せざるべからず。然るに政府當局は今日に至る迄其責任を放任し、議會に於ても亦之を追窮せず、遂に其責任は行衛不明となれり。忠良なる國民は決して政府の失態及議會の怠慢に對し、満足するものにあらざるを茲に警告せんとす。

帝國議會に於て米國の對日支政策に就て囂々たる非難の聲を耳にせるは、我代議士中に米國の對日支政策の不法暴戾なるを認識せる者を出したるの發露として、吾人の意を強ふするに足るものなりとす。顧みれば米國大統領は、曩に多年日米間に批准交換せられたる友好通商條約を一片の豫告をも與ふることなくして、突如として弊履の如く之を廢棄せる國際的非禮は全然日本を無視せる實に暴慢無禮の行爲なるに拘らず、其當時の日本に於ける輿論は啞然として長大息せるのみにして、我忠良なる臣民の口より毫も悲憤の聲を耳にする所なかりしは、吾人の失望禁じ難きものありき。其當時我政府當局は一片の抗議だに提出することなきのみならず又我國の輿論は徒に輕舉妄動を慎み、米國の反省を促して通商條約の復舊を圖らむとするに汲々たるの觀ありしも、是れ大統領の廢棄の眞意は日本膺懲の目的にありしことを閉却したる結果に外ならず。阿部内閣の野村外相の如きは揚子江下流の開放

を犠牲にして、駐日米國大使と通商條約復舊の交渉を開始せるは今尙吾人の記憶に新たなる所なり。又我經濟界に於ても、條約復舊を熱望するの聲を耳にせり。是れ米國の對日感情を誤認せるの致す所にして、斯の如き自屈的態度は、日本の國威を失墜し、米國の輕侮を招く所以なるを忘却したるの結果に外ならざるなり。有田外相の如きも昨今に至り漸く通商條約復舊の容易ならざるを自覺し、今期議會に於て之を言明し、尙一步を進めて、若し米國が對日禁輸法を實行するに至れば、其報復手段として、我にも之に對應するの準備ある旨を宣明せり。是れ有田外交の一進歩たるも、其裏面に依然媚態的態度の伏在するは否むべからざるなり。

米國人の日本に對する反感は、日本が九ヶ國條約を無視し、支那に於て跋扈跳梁を逞ふし、米人の在支權益を蹂躪して顧みる所なしとの觀念より來るものなるを以て、日本の所謂東亞新秩序の建設には、衷心より反對を表明しつゝあり。故に日本が支那より撤兵せざる限りは日米國交の復舊は到底不可能とす。然るに撤兵は日本が聖戰の目的を達したる曉にあらざれば絶対に實行不可能なるを以て、日本は米國を眼中に置くことなく聖戰の目的貫徹に向つて邁進せざるべからざるなり。

雖然、米國は歐洲戰爭に對し、最大の關心を有し、米國大統領は今年秋季の大統領選舉に第三期當選の有利の立場を作らんが爲め平和工作に乗り出さんとするの野心勃勃たるものあり。故に歐洲戰爭繼續中は日本と事を構ふるの意圖なきは推知するに難からざるを以て、如何に米國が脅喝的態度に出

づるも、毫も之に顧慮することなく、毅然として銳意聖戰の目的貫徹に向て邁進せざるべからざるなり。

翻て考ふるに、米國の大海軍は日本を假想敵國として、今や銳意擴張計畫中にして海軍作戰部長「スターク」大將の如きは、米國海軍は日本海軍に對し、飽く迄五、三の比率を保持する目的を以て擴張計畫中なる旨を聲明して憚る所なしとす。是れ兩國間の國際信義を無視する非禮極まる言明なるも、先方に於て挑戰し來る以上は我日本に於ても毫も憚る所なく之と交戦して赫々たる戰勝を博するの準備を整頓して萬一の場合に備ふる所なかるべからざるなり。昭和十五年度に於ける米國海軍豫算は、未曾有の尨大豫算にして、其額は九億六千六百萬弗（邦貨四十一億圓）に達し、該豫算中には世間に喧傳せられたる四萬五千噸級戰艦二隻の建造費をも含有し、將來は四隻に増加する計畫なり。又此超弩級艦の通過する爲め目下巴奈馬運河の修築の調査中にして其經費八十五萬弗は今期議會に於て可決せられたり。而して水門は從來の暴露式を改めて防空式隧道の構築を計畫中なり。故に我海軍當局に於ても、之が對策上萬遺算なきを確信するも、我造艦計畫は秘密に附せられ、其内容を知るに由なきを以て吾人は海軍當局を信頼して満足するの外なきを遺憾とするものなり。

英佛兩國は、今や歐洲戰爭に没頭し、東洋印度及南洋方面より陸海軍を歐洲方面に召還中なるを以て、歐洲に平和の曙光を認むる迄は此等兩國は東洋方面を顧みるの邊なきを以て、昨今俄然として對

日態度を一變し、日本と協調主義に出づるの傾向あるも、其援蔣政策に至つては依然として從來の方針を變更することなく、日本の聖戰目的の達成に妨害を試みつゝあり。而も淺間丸事件の如き、國際信義を無視せる海賊的行爲を敢てして、日本に接近を求めんとするは、日本を愚弄するも甚しとす。今に於て彼等が反省するも、支那事變發生以來援蔣政策實行の爲め日本の蒙れる損害は實に莫大にして、我忠靈の多くは彼等の蔣政權に供給せる兵器彈藥の爲め犠牲となりし事を懷へば、日本に秋波を送つて其罪を贖はんとする御都合主義には一驚を喫せざるを得ざるなり。

有田外相の議會に於ける説明に依れば、日露間の國交は「ノモンハン」の停戰協定以來大に緩和し、東亞に於て停頓せる露滿間の國境協定も露都に於て東郷大使と「モロトフ」外相との間に順調に續行中なるが如く、又北洋漁業問題に就ても、兩者の間に交渉中なりと。余は尙竿頭一步を進め、露國をして援蔣政策及支那の赤化工作を放擲せしむ爲め、新に交渉を開始せむことを望む。今や露國は日本の好意に信頼して、東亞方面より器械化部隊其他を芬蘭方面に招致したりとの報あるも、其戰績面白からずして多數の損害を蒙り、昨今漸く「マンネンハイム」南正面の一角に於て成功を收めつゝあるも、芬蘭を制服する迄には尙相當期月を要するのみならず、佛英及米等の芬蘭援助も漸次積極化するの形勢にあるを以て、遂には露國は英佛と戈を交ゆるに至るやも計り難く、又露國は中歐及巴爾間方面にも相當野心を有するを以て、將來戰局は大に擴大し、遂には歐洲大動亂を惹起するやも計り

難く、果して然らば露國は北戰南闘遂には全力を傾注するの情勢を醸すに至るべし。事茲に到れば、日本の好意的中立が保障せらるゝにあらざれば西歐方面に於て活動飛躍を試むる事不可能なりとす。最近の情報に依れば露國は目下重慶政府派遣中の多數の技師を本國に招還中なりと。須らく日本は此時機を捕へて露國に向ひ積極的に働き掛け、彼を説得して援蔣政策及支那赤化工作を斷念せしむるを要す。此事たる日本の決心如何に依つては決して不可能にあらずと信するを以て、好機に乗じて之を斷行せむ事を切望するものなり。

我歴代内閣は支那事變以來秘密主義を固執し、國民に對し所謂知らしむべならず倚らしむべしの筆法を執り、國民に對し盲従を強要して今日に至れり。今更論する迄もなく現今の戰爭は思想武力及經濟の綜合戰なるを以て、政府當局は國民の忠誠なる信頼を得るにあらざれば戰爭を遂行する事は絶対に不可能なりとす。而して國民の信頼を得んと欲せば、事軍機に關せざる限り可成政策を國民に公表して其向ふ所を知らしめ其諒解の下に之を遂行せざるべからず。若し否らずして秘密主義を固執して國民を無視するときは、國民の不平は勃發し、遂に政府を信頼せざるの結果を生ずるに至るべし。往年我國民の智識幼稚なる時代に於ては秘密主義を以て國民に臨み、政府の政策に追隨せしめ得たるも、國民の智識大に發達せる今日に於ては、斯る政策を以て國民を愚弄せんとするは到底不可能なりとす。世間に流言蜚語の流布せらるゝも、政府の秘密主義より來るものなるを自覺して、政府當局は

秘密主義を放棄し國民と共に政策を遂行して舉國一致の實を挙げざるべからざるなり。

假令ば、支那新政權擁立の場合にも、日本政府と汪兆銘との間に成立せる條件に就ては之を中外に公開し、日本の新政府擁立の目的を普及徹底せしむるを要す。苟も東亞新秩序の建設を一手に引き受くるの勇氣ある以上は、外國の中傷や抗議を念頭に置くことなく、前途の荆棘を排除するの勇氣を以て正々堂々と新秩序の建設に向つて進路を開拓するを要す。故に此方より進んで第三國に新政權の承認を懇請して東亞新秩序の建設に向つて協力せしむるの手段を講ぜざるべからざるなり。

議會に於ては十五年度豫算を繞りて國民生活の安定に關し、甲論乙駁議場は大に殷賑を極めたるは國民を代表する代議士として選舉民の手前人後に落つるを深しとせざるは之を諒とするも、熟々惟みるに日本の現狀程國民生活が脅威に晒されつゝあるは古來未曾有にして國民生活必需品たる米穀、薪炭、石炭及電力、瓦斯は缺乏して國民の需用を充たすに足らず。故に生産擴張に力を注ぎ、物資の不足を補ふを焦眉の急務とす。而して生産擴充に力を用ゆれば自然物價の騰貴を來すを以て政府の計畫せる低物價政策と相矛盾する事となるを以て、政府は已むを得ず低物價政策を放棄し、公定價格を定むるやも計り難しとす。而して來年度の尨大豫算は自然通貨膨脹を來すこととなり、物價騰貴に拍車を掛くるに至るべし。故に政府は通貨膨脹を制限し、物價の騰貴を抑制せざるべからざるなり。

右の外國民生活を脅威するものとして一般の食料品綿類釘及藥品の缺乏を挙げざるべからず、此等

の需要供給に就ても政府當局は大に工夫を凝らすの必要ありとす。而て此等不足品の缺乏を補充する善後策に就ては紙面に餘白なきを以て之を省略するも、國民生活を管掌する政府當局は、其責任や實に重大なりとす。偶々代議士の内には國民生活の安定を圖るは支那事變の處理より重要なりとの意見を開陳せる者すら生ずるに至れり。故に此際政府は困苦缺乏は尙堪へ得べし、支那事變處理は一日を緩ふすべからざる事を國民に訴ふるは自己の責任なりとす。

最後に一言附記せんとするは、百有餘億の尨大豫算に何等の斧鉞を加ふることなく、御座なりの附帶條件を附して議會を無事に通過せしめたるは代議士の怠慢と稱すべく、從來政府當局は附帶條件を遵守したる例なしとす。政府當局は尨大豫算に便乗して直接事變處理に必要な機構及官吏の増加を圖らんとするの企圖あるは豫算に明示せられあるを以て、此際尨大豫算に斧鉞を加ふるは國庫と國民の負擔を軽減する唯一の方法なるに拘はらず、吾人の希望せる軍事豫算以外の冗員冗費の節約は遂に水泡に歸せるを遺憾とするものなり。(昭和十五、二、〇)

紀元二千六百年第三十五回陸軍

記念日の佳節を迎へて

回顧すれば余は明治三十三年參謀本部第一部勤務を命ぜられて以來、同三十七年二月日露戦争に至る迄第一部々員として對露作戰及諜報勤務に従事し、日露戰役勝敗の原因に就て聊か研究する所ありしが、從來世間に傳播せらるゝ説は其真相に觸るゝもの稀なるを以て、今紀元二千六百年の第三十五回陸軍記念日の佳辰を迎ふるに方て其真相と信する余の所見を披瀝して讀者の參考に資せんとす。

抑も明治三十六年日露間の風雲急を告ぐるや、當時我政府の重鎮として其名を知られたる兒玉陸軍中將は、内務大臣兼文部大臣を罷め、臺灣總督兼職の儘故田村參謀次長の後任として飄然其英姿を參謀本部に現はせり。此意外にして而も突飛なる任命は如何に時の政府當局が皇國の死活問題たる日露紛擾の解決に牢固不拔の決心を有せしかを如實に物語るものとして世間の耳目を聳動し、就中主戦論の中樞たる參謀本部の參謀官連を狂喜踴躍せしめしかは、今尙余の記憶に新なる所なり。爾來對露作戰の重任を擔當せる參謀本部は、夫の毅然として動かざる富岳の如き參謀總長大山元帥に配する其補佐役として果敢俊敏銳刃の如き兒玉陸軍中將を參謀次長に迎へ、新に其陣容を整備し意氣軒昂敵を呑むの慨ある光景裏に國家興亡の鍵を握れる日露戦争の序幕は切て落とされ、霹靂一聲、大本營の編成

は發令せられ、大山元帥は其參謀總長に、兒玉陸軍中將は參謀次長に任ぜられ、其幕下に將官參謀として參謀本部總務部長井口少將、同第一部長松川歩兵大佐、同第二部長福島少將、佐官參謀として第一部々員田中義一少佐、第二部々員小池少佐、總務部々員尾野少佐、及第一部々員たりし余の任命を觀たり。爾來戦争の進捗に伴ひ滿洲軍總司令部編成せられ、大山參謀總長は滿洲軍總司令官に、兒玉參謀次長は總參謀長に任ぜられ、將官及佐官參謀は悉く滿洲軍參謀に轉任せり。

爾て開戦前に於ける露國の東亞經營政策を顧みるに、彼は風雲に乘じ、益侵略の鋒鉞を顯はし、滿洲併呑を以て足れりとせず、尙竿頭一步を進めて朝鮮の併呑を夢み、皇國に對する最後通牒の形式を以て京城と元山とを連ぬる線を日露兩國の勢力範圍たらしめんとするの不法なる要求を提げて肉迫し來れり。若し皇國が露國の要求に應ずれば、皇國は東亞の一孤島に閉鎖せられて自滅の徑路を辿るの外なく、之に反し、其要求を却ければ國家の存亡を賭して露國と一戦を交へざるべからず。嗚呼進退是れ窮し、戦ふも亡び、戦はざるも滅ぶとすれば、寧ろ一戦を交へ、倒れて後已むに如かずとの大和魂は政府當局の悲壯なる決心を促し、遂に斷乎として蹶起するに至れり。

由來露國は世界最大の陸軍國として列強に畏敬せられ、夫の歐洲大陸を蹂躪席捲せる稀世の英傑奈勃翁第一世さへも露國の前には遂に兜を脱いで有名なる莫斯科退却の一大惨敗を喫したる史實に鑑み、列強が露國との交戦を回避したるも亦所以なきにあらざるなり。顧みれば日露開戦直前の日露兩

國の陸軍力は大きな運庭ありて、日本の約二十五萬人に對し露國は二百萬有餘の大兵を擁し局外者をして日本の勝利に疑を挟ましめたるも亦理なきにあらざるなり。雖然對露作戰に任じたる參謀本部第一一部は別に觀る所ありて勝算を信じ、迅速果敢なる開戦を主張したるも、是れとて萬一を僥倖せる判斷に過ぎざりしに、時の政府當局が參謀本部の意見を尊重し、國家の存亡を賭して一戦に決したる其氣魄と勇氣とは實に稱讚に値ひするものあるのみならず、政府當局の慘澹たる苦心は實に察するに餘ありて、余は一掬の涙なくして此間の消息を語るに忍びざるなり。

顧みれば當時の露國極東軍は西伯利五軍團を基幹とし、其兵力六十八大隊、騎兵三十五中隊、野砲百二十門騎砲十二門、山砲十六門、工兵八中隊、要塞歩兵一大隊、要塞砲兵四大隊半、要塞工兵五中隊にして、皇國の陸軍總兵力より劣勢なりしのみならず、極東と歐露とを連絡する唯一の西伯利鐵道は其輸送効程貧弱にして、一日四、五列車を運轉し得るに過ぎず。露國が如何に改繕を加ふるも、之を倍加するは短日月の能くする所にあらざりしを以て、參謀本部第一部の主任者は、露國の此弱點に乘じ軍の未だ増加せられざるに先ち、我より進んで一氣呵成に攻勢に轉せば勝利の望みなきにあらずと判斷して開戦を主張する所ありたり。然るに開戦直後時の露國鐵道大臣「ナルコフ」は西伯利鐵道を實地踏査して待避線増加の實行に着手して成功し、輸送効程目を逐ふて増進するに至れるのみならず、歐露より西伯利向の列車は空車の儘其行先に放置し歸還せしめず、只管單線鐵道の輸送効程の増

加を圖りて其効程は逐日増加せり。是に於て吾人の鐵道調査に違算ありしを發見し、戦争の前途を悲觀したる其當時を回想すれば、今尙慄戰を禁じ得ざるものあり。斯くて三十七年九月の遼陽會戦には、露軍は西伯利五軍團の外に歐露第十軍團、同第一軍團及第十七軍團の歩兵五大隊も參加し、我兵力十三萬に比し敵は二十二萬を算し、爾來露軍の兵力は漸次増加せられたるを以て、我滿洲軍は各會戦毎に寡を以て衆に當り、三十八年三月の奉天大會戦には我が約十九師團即歩兵二百四十大隊、騎兵五十七中隊半、砲九百九十二門、工兵四十三中隊、戰闘員約二十五萬人に對し、敵は三十師團半即ち歩兵三百七十九大隊半、騎兵五十一中隊、砲千二百十九門、工兵四十三中隊半、戰闘員三十六萬八千人を算し、彼我の兵力二對三の比を示したり。

前述の如く兵力上より觀れば到底勝算の見込なきに拘らず、皇軍は反て戦へば必ず勝ち攻むれず必ず破り、連戦連勝赫々たる戦勝を博し、世界をして驚嘆せしめたる其原因に就ては、素より大元帥陛下の御稜威を始めとし、將卒の忠誠及訓練の優越、用兵指揮の卓越、滿洲軍總司令及總參謀長に其人を得たると同時に、兩者の配合亦宜しき以外に、國民の旺盛なる愛國心も亦大に與つて力ありしは素よりなるも、露國の正鵠を失へる日本の國狀判斷は其一大失態を演じたる近因と信するを以て、左に其経緯を説明せん。

開戦直前日本視察の爲め來朝せる露國陸軍大臣「クロバトキン」大將の接伴役に任じたる田中義一

大將(當時少佐)の談に依れば、露國陸軍大臣は其當時の日本の貧弱なる都市の光景、及幼稚なる工業の秀圍氣に接觸して、日本の國力を實際以下に低廉に評價し、日本は露國の如き大國と交戦するの資格なきのみならず、時の政府當局も開戦の決心なしと判断したる印象を深く腦裡に畫いて歸國の途に就けるものゝ如し。

又當時の東京駐劄露國公使「ローゼン」男も日本に於ける永き經驗に基き本國に向つて其所見を報告するに「日本には元老政治家なる者ありて政界の覇權を掌握す。彼等は功成り名遂げたる老政治家にして、退嬰主義の人物多く、露國の如き大國と事を構ふるを欲せざるを以て強硬に露國の要求を主張せば、戦はずして其目的を貫徹し得るの望あり。」との主旨を以てせるものゝ如し。

右の有力なる兩者の誤まれる日本觀は、露國政府當局を動かし、彼等をして日本には戰意なきものと曲解せしめたる爲め、露國東亞軍は警戒と戰備とを怠り日本に乗すべきの罅隙を與へたるは露軍の戰敗、日本軍戰勝の原因を爲せるものにして、先づ開戦直前日本海軍驅逐艦隊の旅順口奇襲成功を其端緒として擧げざるべからず。此奇襲の成功に依り日本艦隊は露國艦隊を旅順口内に封鎖し朝鮮西海面の制海權を掌握し、之が爲め平素參謀本部第一部に於て制海權を慮り計畫せる對露作戰方針に基いて陸兵を釜山より上陸せしめて之を一步／＼北進せしめんとせる、今日より觀れば宛も兒戲に類する作戰計畫は之を實行するに至らずして、第一軍は堂々鎮南浦に上陸し北進して鴨綠江岸に集中するを

得たる事實は雄辯に之を物語つて餘りありとす。而も敵は鴨綠江岸の戰略要點に僅々歩兵十六大隊、砲四十門、總員一萬九千人即我一個師團半に及ばざる微弱の兵力を配置して満足し、我第一軍の攻撃を有利ならしめて遂に一大慘敗を喫し、我第一軍は敗敵を追撃して滿洲に其第一步を印し、將來遼東半島に上陸する第二軍の上陸掩護に任じ、同軍をして旅順口の直前たる鹽太塊に無事上陸するを得せしめたり。若し我驅逐艦隊の旅順口外敵艦隊の奇襲失敗に終れば、我第一軍は鎮南浦に上陸するを得ずして參謀本部の計畫通り已むを得ず釜山より上陸し、陸路を一步／＼鴨綠江に向ひ前進せざるべからず。果して然りとすれば第一軍の鴨綠江集中には多數の日數を浪費し、此間敵は充分に準備を整へて我を迎撃せば、第一軍の鴨綠江作戰は失敗に終ると同時に、第二軍の鹽太塊上陸は成功を期待すべからずして對露作戰計畫は根底より覆へされ、遂に日本軍の一大失敗に終りたるやも計り難く、想ふて茲に至れば今尙寒心に堪へざるものあり。然るに天は皇軍に幸し鴨綠江の作戰を始めとし、上陸も見事に成功し、爲めに皇軍の士氣は大に振作し、且作戰計畫にも何等の齟齬を生ぜずして順調に進歩したるに反し、初戦に破れたる敵は大に士氣の頹廢を來せるのみならず平素の作戰計畫に一大齟齬を來し、連戦連敗の苦痛を嘗めるに至れり。

我第二軍の鹽太塊上陸の成否は爾後の作戰上實に至大なる關係を有するを以て、大本營は一大關心を拂つて其上陸作戰に深甚なる注意を拂ひ、上陸地の外部に漏洩するを絶対に豫防する爲め最初は其

上陸地點を元山と偽稱し、後に至つて上陸地點は上陸計畫書より削除するの手段を採れり。之が爲め軍司令官に與ふる訓令は軍司令部乗船後に附與するに決し、時の大本營參謀井口少將に訓令を携行せしめて第二軍司令部の乗船地たる廣島に派遣することとなり、余は參謀として井口少將に隨行して廣島に向ひ出發せり。廣島到着後御機嫌奉伺の爲め第一師團長伏見貞愛親王殿下を御旅館に伺候せるに、殿下には井口少將に向はせられ「井口我第一師團は何處に上陸するのか、元山に上陸するとの噂も耳にするが如何」との御下問ありしに井口少將は御上陸地點は御乗船の後軍司令官に指示せらるゝ筈にて私共は其訓令を携へて参りましたと御答へすれば殿下には左様かと御領きあり。嗚呼殿下には金枝玉葉の尊き御身分にてあらせ乍ら軍機の爲めには御上陸地をも秘せざるを得ざりしは實に恐懼禁する能はずして今も尙忘るゝ能はざるなり。

爾來戰爭は進歩し、滿洲軍總司令官は大陸に出征し、自ら滿洲軍を指揮することとなり、總司令官は三十七年七月滿洲に向ひ出發し、遼陽會戰より初めて其指揮に任ぜり。

之を要するに日露戰爭に於ける露國の一大失敗は露國當局が日本の國狀判斷を誤まり、日本に敵意なきものと誤解して警戒と戦備を怠り、惹いて鴨綠江の初戰に於て惨敗したる結果は敵將卒の士氣に一大沮喪を來し、且平素の作戰計畫に一大錯誤を生じて遂に連戰連敗の悲哀を滿喫するに至れり。

特に今回の支那事變に際し、吾人が緒戰に於て一舉に敵を潰滅するの機會を逸して長期抗戰を餘儀

なくせられたる貴重な苦き經驗を深く心肝に銘じて我陸軍當局が國力の許す限り可成多數の精銳なる常備部隊を建設し、有事の秋に方つては初戰に於て敵を一舉に潰滅して一大勝利を博する爲め最善の努力を拂はんことを熱望して已まざるなり。

余は滿洲軍總司令部と軍司令部との連絡參謀として遼陽會戰には第二軍司令部に、奉天會戰には第三軍司令部に配屬し、又旅順の二〇三高地攻略の作戰には兒玉參謀次長に隨行して作戰に従事する等幾多の戰場逸話を見聞するの機會に接せしを以て後日機會あらば之を發表して讀者の參考に資する所あらんとす。(昭和一五、三、一五)

大正十年の華府會議を回想して 英米兩國の日本壓迫を暴露す

「アングロ・サクソン」系に屬する英米兩國の日本壓迫は、其端を華府會議に發するは我陸軍専門委員首席として同會議に參列せる余の苦き經驗の告白する所なり。

顧みれば華府會議なるものは東洋に密接なる利害關係を有する英米兩國が、隱に握手提携して彼等との利害關係を異にする異民族たる日本を強いて俎上に載せ、暴威を揮つて去勢術を斷行して極東特

に支那大陸に於ける彼等の既得權益を擁護すると同時に、日本の大陸に於ける跋扈跳梁を抑壓して彼等の爲め活動飛躍の餘地を作らんとする野心に其動機を發したるは、今更多言を費すの要なしとす。惟ふに英米兩國は日本の急激なる人口の増殖が、其の貧弱なる資源を以てしては自給自足の餘力なしと看破し、早晚日本を驅つて抵抗力の尤も薄弱なる支那大陸に向つて一條の血路を求むるを餘儀ならしむるものと判断し、之を抑壓するの必要を痛感し、兩國は隱に談合の上日本壓迫の會議を開催するに決し、之を華府會議と命名し、其第一步として日本活躍の背景たる海軍力に制肘を加ふるを捷徑なりとの結論に到達せる彼等は、米國首席全權「ヒューズ」を促して、徹底的なる海軍縮少案を提げて日本全權に肉迫せしめたるも、是れ素より日本帝國の興廢存亡に關する重大問題なるを以て、日本全權は之が受諾に大に難色を示し、幾多の迂餘曲折を経たる後、遂に日本全權を恫喝屈服して五、五三の海軍力比率に同意せしめ、更に鋒先を轉じて日本の支那大陸に於ける跋扈跳梁の制壓に全力を傾注し、日本の強硬なる反對を克服して、九ヶ國條約を無理に押し賣して桎梏を負はしめ、大陸に於ける其行動を制肘するに成功せるも、米國は是を以て満足せず、更に百尺竿頭一步を進めて、同會議の議題外にして米人の蛇蝎視せる日英同盟を議に上せ、日英兩國に迫つて之を廢棄せしめたるのみならず、巴里平和會議に於て、日本全權が苦心慘憺辛ふして贏ち得たる青島問題を再び華府會議に於て蒸し返し、遂に日本をして青島の無條件支那還附を餘儀なからしめたり。

抑も日本の青島占領は米國首席全權「ランシング」が巴里平和會議に於て強硬に反對し、自國大統領が英佛兩國全權の懇願を容れて日本の青島占領を濫々ながら同意を表するや、同全權は斷乎として之に反對し、遂に全權を辭して歸國して巴里平和會議に一大波紋を畫ける経緯もありて、米國上院は「ランシング」の主張に動かされ、折角自國大統領が海を越えて巴里に出馬し、苦心經營になる巴里平和條約議定書に調印を拒絶せるは米國ならでは觀る能はざる一大奇觀を呈したるも、畢竟するに青島問題を再び華府會議に取り上げて日本より青島を奪はんとする陰謀を忌憚なく暴露したるものにして、如何に米國民が日本の青島占領に反對せしかの一斑を窺知するに足るものあり。華府會議に於て、日本全權は孤奮軍闘是れ努めしが、時利あらずして刀折れ矢盡きて遂に倒れたりと雖も、是を以て全然日本全權の責任に歸するは餘りに苛酷なり。

抑も大戰終了後世界否な日本國民の間に平和熱頗る猖獗を極め、苟も兵を談する者は軍國主義者として非難攻撃され、軍備縮少の聲は國內を風靡し、夫の宇垣陸相時代の四個師團廢止の如きは當時の世相を雄辯に物語つて餘りありとす。故に平和熱に陶醉せる我國民は華府會議の不成績を失敗と認めず、寧ろ之を歡迎せるの奇觀を呈したるは時代の推移、民心の變遷を物語るものにして、實に今昔の感に堪へざるものありとす。

巴里の平和會議以來往年の滿洲事變に至る間、日本國民は平和熱に感染して全然皇道精神を喪失

し、國家の存亡に關する國防を閉却せるの弊風國內を風靡せるを以て、外國特に支那人の侮辱を買ひ、當時在滿日本人は滿洲人の壓迫を受け、滿洲より驅逐せられんとするの危機に直面せる爲め、我が在滿陸軍當局は之を默視するに忍びず、九ヶ國條約を超越して自衛上驟起し、遂に滿洲事變を惹起せるは今尙吾人の記憶に新たなる所なり。

滿洲事變勃發するや、常に日本壓迫を夢みつゝある英米兩國は日本が彌其本性を發揮して滿洲侵略に乗り出したりと誤解し、驚愕措く所を知らず、倉皇として兩國は相提携して共同武力干渉を試むる爲め排日家を以て知られたる當時の米國國務長官「スチムソン」は英國に呼び掛けて武力干渉を提言せるも、滿洲に利害關係の稀薄なる英國は之に反對して兩國の意見一致せず、已むを得ず國際聯盟を操縦して日本を壓迫するの消極的態度を以て満足する外、策の施すべきなく、直に國際聯理事會を召集して日本壓迫に着手せるも、武力干渉に訴へて雌雄を決するの勇氣なくして如何なる手段を以てしても激昂せる日本國民を屈服する能はず、遂に日本の聯盟脱退に依つて滿洲事變は有耶無耶の裡に葬り去らるゝに至れり。

爾來日本と英米兩國との國交は圓満を缺きて推移しつゝある間に、突如として支那事變勃發するや、支那大陸に利害關係の濃厚なる英國は武力干渉を試みんとして米國に之を迫りたるも、理想的外交家を以て聞えたる「ハル」國務長官は英國の提議に反對したる爲め、滿洲事變同様國際聯盟の力を

借りて日本を壓迫せんとして理事會を召集する所ありしも團結力の薄弱なる國際聯盟は其目的を達成するには餘りに微力にして不成績に終り、已を得ず各國毎に日本の聖戰目的を妨害すると同時に、蔣政權を援助するに議一決して理事會は解散せられたり。爾來米國は日本に對して飛行機の賣却を禁止し、又突如として日米通商條約を一方的に廢棄せる等は此邊の消息を雄辯に物語るものにして、米國の日本に對する經濟封鎖の如きは一時は大に危險視せられたるも米國大統領は歐洲戰亂に多大の關心を有するを以て同戰亂將に耐ならんとする今日、其實行は到底覺束なしとす。

今や米は海軍擴張に乗り出し、四萬五千噸級戰艦四隻の建造に着手せんとし、且巴奈馬運河の擴張工事に従事し、米國海軍作戰部長「スターク」大將の如きは米國は華府會議に於て決定せられたる對日海軍勢力五・三の比率を飽く迄固執し、日本の海軍擴張に相呼應して米國海軍の勢力を維持する計畫なりと公言せり。之に由て此を觀れば米國の海軍擴張は日本を假想敵國として計畫中たるは議論の餘地なきを以て、日本も亦米國を假想敵國として少くも海勢力の比率を五、五に達する迄擴張せざるべからず。今や米國は歐洲戰爭に一大關心を有するを以て、極東に於て日本と事を構ふるは此際之を回避し、該戰爭の終了を待つて英國と握手して再び日本壓迫に乗り出すことゝなれば、利害關係の衝突する所遂には「タウシンング」提督の言の如く日米戰爭は避け難き運命に直面するを豫期せざるべからず。吾人は我が海軍當局が、萬一の場合を慮り之が對策を講じて萬遺算なからんことを切望し

て已まざるなり。

今回日本政府當局が支那事變處理の爲汪兆銘を更生支那の中央政權として擁立せんとするの聲明を發するや、米國「ハル」國務長官は親支列國の先驅となつて汪政權を中央政權として承認するに反對し、飽く迄蔣政權を支那の正當なる中央政權として承認する旨を聲明せり。次で米國の歡心を求むるに汲々たる英國外務當局は、九ヶ國條約の遵奉並汪政權の非認、及蔣政權承認の聲明を發すると同時に、東亞に於ては、日本との親好關係の復舊を希望せる旨を聲明せり。素より英國追從の佛國が英國と同様の聲明をなせるは毫も怪むに足らざるも、英國が日本の不俱戴天の仇敵たる蔣政權を援助しながら一方に於ては日本と親交關係の復舊を夢むるは日本外務省否日本全國民を愚弄するも亦甚しとす。英國も熟知せる如く、日本國民は死力を盡して蔣政權の打倒に向つて邁進中なるに係らず、英國が公然蔣政權を援助して日本の聖戰目的を妨害しつゝ、一方に於て日本との親善關係を夢むる傲慢不遜の態度は斷乎として之を排撃せざるべからず、吾人は英國が蔣政權を援助しある間は敵國を以て之を遇するに吝ならず。若し英國が衷心より日本との親善關係を復舊するの希望あれば、不信不義なる蔣政權援助を斷念し、日本と相協力して東亞新秩序の建設に向つて努力する所なかるべからず。吾人は英國民の猛省を促して已まざるなり。(昭和十五、四、十九)

米國の海軍擴張と日米關係

米國海軍作戰部長「スターク」海軍大將が常に豪語する所に依れば、米國海軍は、嘗て華府會議に於て、英米日三國間に協定せられたる海軍力五、五、三の比率を基準として建艦計畫を實行中なるは毫も疑を容るゝの餘地なく、即之を換言すれば、米國海軍は日本海軍を假想敵として建艦計畫を實行中なる裏面の事實を忌憚なく暴露せるものとす。想ふに其目的とする所は、一朝有事の秋に方り、日本海軍を撃破して、太平洋上の制海權を掌握し、以て米本國の國防の安固を期すると同時に、東洋に於ける米國の政治的經濟的地歩を確保せんとするの一大野心を有するものと信ず。吾人は「スターク」大將の暴露せる貴重なる教訓を深く肝に銘じ、米國の故智に倣ひ、其海軍を假想敵として建艦計畫を實行するは理の當然にして、何人も異論を唱ふる者なきは疑を容れず。而も我海軍勢力は米國海軍に對し赫々たる戰勝を博するには、少くも對等以上を確保するを要するは勿論なりとす。

米國海軍大臣「エヂソン」は過般太平洋方面に於て施行せられたる大規模の海軍大演習を視察して、大に感ずる所ありしものゝ如く、歸米勿々日米兩國間に建艦計畫の情報交換を慫慂するの聲明を發表せり。吾人は秘密に附せられたる日本海軍の建艦計畫の内容を知らんとする「エヂソン」大臣に

對し同情を惜まざるも、幸に勞せずして米國議會を介して其海軍の建艦計畫の内容を探知し得るを以て、敢て情報交換の必要なのみならず、我建艦計畫の内容は機密に屬し、之を外國に漏洩するの自由を有せざるを以て、其希望に應じ得ざるを遺憾とす。

米國海軍司令官「タウスマン」海軍少將は、過般上院査問委員會に出席して、堂々と日米戦争の避くべからざる所以を主張せり。吾人は米國の惡化せる對日政策の現状に徴し、同少將の主張は實に意義あり、且正鵠を得たる議論にして、而も其主張は、米國海軍を代表するものと信するを以て此貴重なる教訓を服膺して之が對策を講ぜざるべからず。

從來米國海軍は専ら日本海軍を假想敵として建艦計畫を實施し來りたるは前述の如くなるも、今回の歐洲戦争に於て、米國は其頼みとせる英佛兩國が、連戦連敗の慘憺たる悲劇を演じ、英佛兩國の運命旦夕に迫らんとする躊躇の急展開に恐惶を來し、獨り日本を假想敵として太平洋を防衛するを以て晏然たる能はず、大西洋方面に於ても、歐洲全土を將に席捲せんとする意氣軒昂たる新進氣鋭の獨逸に對し、急に國防を整備するの必要を感じ、大統領は倉皇措く所を知らず、躍起となつて國民の戦争熱を煽り、之に便乗して彌海軍の一大擴張に乗り出さんとし、最近に至り臨時國防費十一億三千万弗有餘の追加豫算を議會に提出せり。此國民愛國心の試金石とも稱すべき國防豫算は、殆んど全會一致を以て可決するに至るべし。果して然らば本年度海軍豫算は、合計十四億七千三百万弗に達し、國防

豫算の總額は驚く勿れ三十二億七千万弗の巨額を算し、平時國防豫算の最高記録を示し、吾人日本國民に實に貴重なる教訓を與へたり。

往年の華府會議に於て、米國は英國と提携し、日本の國力微弱なるに乗じ之を去勢せんと欲して其海軍力に制限を加へ、爾來滿洲事變支那事變に際しても、英國と協力し、國際聯盟を煽動して日本に壓迫を加へんと企圖したる事は世界周知の事實なり。就中支那事變に方つては米國と提携して日本の仇敵たる蔣政權を援助し、日本の擁立せる汪政權を非認して、東亞新秩序の建設に反對を表して毫も憚る所なく、甚しきに至つては多年日米友好關係の紐帶とも稱すべき日米通商條約を何等の豫告をも與ふる事なく一方的に弊履を棄つるが如く廢棄して、吾々日本國民に一大侮辱を與へて傲然たる等米國政府當局の日本壓迫は日本政府當局の軟弱なる態度に平行して益々深刻を加へんとし、吾人は實に憤慨禁じ能はず、政府當局の猛省を促がさんとする實に切なるものありとす。

由來米國大統領は自由主義國家たる英佛に同情を寄せ、過般強硬なる反對を排して中立法を改正し、英佛側に軍需品援助の便宜を計りたるは其片鱗を窺ふに足るものありとす。爾來歐洲の形勢は急轉直下一大變化を來し、遂に獨逸と英佛兩國との正面衝突となり、獨逸は機先を制し、電撃作戰を以て一舉に波、丁及諾三國を征服するや、間髪を容れず電光石火の勢を以て銳鋒を一轉して蘭白兩兩國の中立侵犯を意とせず兩國に進軍し、數日にして蘭國を征服して世界の耳目を聳動し、益々破竹の勢

を以て白國に進撃し白英佛連合軍を撃破しつゝ白國の西南「フランダース」地方の一角に壓迫し、又一方に於ては「マダノ」線を突破したる獨軍大兵團は「ソナム」及「エーヌ」河の線に進出し、其一翼は英本國を指呼の間に歐制する英佛海峡に向つて慕進し、海峡沿岸の各都市を占領しつゝ要衝「カレール」に向つて進撃して、遂に之を共有に歸し、白國進入軍と相呼應して白國內に於ける百萬に垂んとする白英佛聯合軍に對し、包圍殲滅戦を展開して激戦中なり。又他の一翼は巴里を眼前に睥睨しつゝ「ソナム」「エーヌ」河の線に於て首都攻略の隊勢を整へて待機の姿勢にあり、而も各方面共戰勢は獨軍に有利に展開し、歐洲大戰の最後の運命を決せんとする一大會戦は目睫の間に迫り、英佛兩國の運命は危機一髪に瀕し、且夕を測り知るべからざるものあり。之を觀望せる米國は獨逸軍に有利好調に進捗中の歐洲戰の急展開に一大衝撃を感じ、從來の如く日本壓迫を以て満足する能はず、速に聯合軍の頽勢を挽回する爲め歐洲出兵を斷行するの必要を痛感するも、今日迄依違逡巡決斷を鈍りし結果は聯合軍の頽勢挽回には既に其時機を逸したるのみならず、獨逸軍が蘭白兩國と北佛とを蹂躪せる現狀に於ては、米國大兵團の佛國上陸は英佛海峡の東岸に空軍及潜水艦の根據地を有する獨軍の攻撃に暴露し、頗る危険なるを以て、殆んど實行の可能性なしとす。

蓋し米國の適當なる時機に於ける歐洲出兵は聯合軍援助に多大の貢獻を呈すると同時に、本年秋季施行せらるゝ大統領選挙に際し、現大統領の三選に絶好の條件を附與するの利益あるを以て、大統領

が私に參戰の機會を狙ひつゝありしは毫も怪しむに足らざるなり。

歐洲出兵の機會を逸したる米國當局は、已むを得ず出兵を斷念し、大規模の物資援助に其方針を一變するの外なく、而て物質援助は國力を擧げて之を決行するにあらざれば效果乏しきを以て、歐洲戰爭間は他を顧るのみ餘力なきのみならず、英佛聯合軍慘敗後の狀勢をも考慮するときは、目下太平洋に集中中の艦隊を大西洋方面に回航するの時機突發するやも計り難きを以て、多忙多端なる米國は歐洲戰爭間は日本との事端の發生を回避せんとするは想像に難からず。然るに我國民の一部には米國に對する恐怖心に驅られ、日本脅威の目的を以て太平洋方面に集結せりと判斷せらるゝ艦隊を目して日米戰爭の勃發に備ふるものと曲解し、戦々兢兢として薄氷を踏むの思をなして米國の反感を招くが如き行動を回避すべしとの説を唱ふる者あるは、時局判斷の明識を缺ける淺見たるのみならず、一面より觀れば米國の注文通り其術策に陥れるものとす。今や國際狀態は時々刻々變化し且夕を測り知るべからざるの秋に方つて國策を遂行するに際し、米國を憚り逡巡躊躇せば好機を逸し、悔を千歲に貽すの失態を演ずるに至るべし。

吾人は我政府當局が米國を眼中に置くことなく、國策遂行に向つて勇往邁進せんことを切望して已まざるなり。此場合米國との衝突は覺悟せざるべからざるは勿論なりとす。語に曰く、斷じて行へば鬼神も之を避くと、思はざるべからざるなり。

有田外相は東蘭印度の現状維持論者として知られ、去る五月十一日我在外使臣に命じて當該駐在國たる蘭、英、佛、米及獨の五國政府に向つて現状維持主張の日本政府の方針を申し入れたるに、蘭國が日本の申入に喜んで賛意を表したるは素より當然とす。又目下歐洲戰場に於て死闘中の英佛は他を顧みるの餘裕なきを以て、是れ亦日本の申入に賛成せるは毫も怪むに足らざるなり。次で米國は日本の申入に對して、米國政府は四國協定締結の主趣たる太平洋の現状維持の精神に基き、東蘭印度の現状維持は米國政府の政策として希望する旨を聲明せり。最後に、獨逸政府は去る五月二十三日を以て東京駐劄獨逸大使を通じて獨逸は東蘭印度問題に就ては關與せざる旨の含蓄ある回答を與へたるも日本政府の申入れたる現状維持の通告に對し其賛否に就て一言も觸るゝ所なきは其意義頗る深長にして、獨逸政府當局の企圖の真相は實に捕捉し難きものあり。米國電報に依るも米國政府は獨逸の日本に對する回答に就て疑念を抱けるものゝ如し。俄然五月二十五日獨逸政府當局は東蘭印度に於ける獨逸人が蘭印官憲に依つて虐待せられありとの報にして事實なれば、獨逸は之に對し極端なる報復手段を加ふるの用意ありと宣言せり。是れ獨逸の東蘭印度に對する野心の一端を暴露せるものにあらずや。回顧すれば前歐洲大戰に於ける慘敗の結果、獨逸は南洋殖民地の殆んど全部を國際聯盟に依つて剝奪せられ、南洋に於ける海軍の資源基地を喪失せるを以て旭日昇天の勢を以て勃興しつゝある獨逸は世界勢力の一員として新たに南洋に屬領獲得の野心あるは想像に難からず。蘭國を征服せる獨逸が

媾和條件の一として東蘭印度の割讓を要求するも戰勝國に課せられたる當然の權利にして、蘭國は之を拒絶するの資格なきを以て、獨人虐待の報復手段の口實を得たる獨逸は東蘭印の占領に益々有利なる條件を獲得し、其を達成するに好都合なり。而て獨逸の東蘭印の占領に對し英佛及米の三國が極力反對するときは、遂には蘭印は此等諸國の爭奪地と化し、歐洲の戰禍は一躍我勢力範圍たる南洋に波及するに至れば、東洋の安定勢力を以て自ら信する日本は之を默視するを得ず。故に我政府當局は成るべく速に事前に周到なる検討を遂げ、適切なる對策を講じ、萬遺算なからんことを切望するは我八千萬同胞の熱誠なる總意たる事を深く心肝に銘記せんことを望む。(昭和十五、五、廿七)

英佛兩國の慘敗と我外交政策の歸趨

回顧すれば往年の滿洲事變、及今回の支那事變勃發に際し、英米佛の三國は相提携し彼等に追隨是れ事とする歐洲諸小國を驅使して「デューネーブ」及「ブラッセル」に夫々國際聯盟理事會を召集し、我日本を翹上に載せて懲戒の刀を下さんと企圖したるに、我日本國民の牢固不拔の決心と、友邦獨伊兩國の同情とに依り、彼等の横暴なる陰謀も晝餅に歸し、皮肉にも儼然たる滿洲帝國は、其英姿を支那大陸の北邊に現はして西伯利を睥睨し、南方にあつては皇軍は支那大陸を席捲して、日本帝國の興

隆發展を嘯きつゝあり。

英米佛三國の國際聯盟を煽動して、日本に制裁を課せんとする陰謀前述の如く失敗に歸するや、彼等は相一致し滿洲帝國の承認に反對し、加之支那事變に方つては、蔣政權援助に決し、同政權に對し抗戰繼續を奨勵しつゝ、借款或は軍需品供給を公然實行し、以て東亞新秩序の建設に向つて邁進しつゝある我聖戰目的の達成を阻害して、日本に對する敵性を忌憚なく發揮して今日に及べり。吾人は此國際的不信行爲を懲戒する爲め善處方を屢々歴代内閣に向つて勸告する所ありしも、其拱手傍觀して一片の抗議すら提案する事を怠り、反て日本の軍事行動に對する米國の幾百件に亘る反噬的抗議の辯解に汲々たる其附甲斐なき態度は、國民をして悲憤失望のどん底に陥れなり。然るに、最近獨軍の電撃作戰に依り、英佛陣營の一角崩壊するに當て、始めて英佛兩國政府に向つて東印度及佛領印度よりする援蔣軍需品輸送禁止の微温的抗議を提出し、一方蘭印政府當局に向つて邦船の不法射撃事件に對し、消極的申入をなす所ありしが、先方の申譯的遁辭を以て満足し有耶無耶の裡に事件の落着せるは、我忠誠なる國民の積年の期待を裏切り、千歳一遇の好機を逸したるものとして、我八千萬同胞の怨聲は我政府當局に向つて叫ばれつゝある事を忘るべからざるなり。

佛國は既に獨の軍門に降り、辛ふじて其餘命を維持し、宛も屠所の羊の如く戦々兢々として獨軍の隨使に追從するの外なき悲惨なる境遇に陥れると同時に、英軍は歐大陸より掃蕩せられ、先を競ふて

英國の孤島に向つて潰走し、今や獨軍に依つて其最後の運命を翻弄せらるゝに拘らず、今尙英佛救援の時機を逸したる米國を救世主と仰いで、最後の勝利を豪語しある英國の哀れなる姿を観るとき、一時世界の覇權を掌握せる大英帝國の末路の悲哀を感ぜざるを得ざるなり。之を要するに、英國が獨軍の軍門に降るも時日の問題たるを免れず。而て英佛の慘敗は、世界の狀勢に急轉直下の一大變轉を來すは争ふべからざるを以て、吾人は獨伊と舊來の友好關係を益増進し、相提携して世界新秩序の建設に向つて邁進せざるべからず。特に、吾人の勢力範圍たる東西洋、就中馬來半島及蘭領、佛領印度に就ては多大の利害關係を有するを以て、深甚なる検討を遂げ萬遺算なきを期せざるべからざるなり。今や獨逸が蘭國を征服し、佛國亦其軍門に降れる現狀に於ては、獨逸は此等の植民地に對し當然干涉の權利を有するを以て、吾人は獨逸の此權利を認め、其處分に就て獨逸と意見の交換を行ふの必要ありと認む。然るに英國は窮餘の一策として此等植民地に呼びかけ、彼等が獨逸に抵抗を試むるときは、歐洲の戰亂は遂に吾人の勢力範圍たる東南洋に波及するを以て、我政府當局は事前に獨逸政府當局と交渉して善後策を講じ、戰禍の東南洋波及を豫防するは我政府當局の當然の責務なりとす。若し獨逸にして日本の要求と希望とを拒絶する場合には、始めて其是と信する方針に向つて邁進するも未だ遲しとせざるなり。

昨今新聞報に依れば我政府の外交方針として日本は獨伊にも依らず、英米にも偏せず東亞に關する

限りは第三國の干渉を排して自由獨往の外交方針を堅持するに決せりと。千萬人の雖も吾獨り往かんの勇氣は大に稱すべきも、是れ暴虎馮河の勇にして、日本政府には外交なるものなしとの非難を蒙るも敢て辯解の辭なかるべし。

往年の華府會議以來、米國の對日態度は壓迫政策を以て終始し、支那事變に方つては始めより蔣政権援助政策を固執し、且………汪政権に對しては列國の先驅となつて同政權を否認し、日本の聖戰目的たる東亞新秩序の建設に極力反對し、尙且大艦隊を太平洋に派遣して、日本の蘭印政策を脅威する等忌憚なく日本に對して敵性を發揮し日米間の從來の友好關係は今や其影を沒せんとし、米國に於て反省せざれば遂には日米間の正面衝突を觀るに至るやも計り難しとす。又戰爭に對する米國の態度は英佛援助主義一點張りにして、今や軍需品供給に餘念なく、獨伊に對し公然其敵性を暴露しつゝある米國は日獨伊共通の敵と評せらるゝも、敢て辯解の辭なかるべし。故に三國政府は米國を向ふに廻はし、相協力して世新秩序の建設に向つて邁進せざるべからざるなり。

我國民の内には共產主義の露國は交際すべからざる永久の仇敵として取扱んとする部類も尠しとせざるも、吾人より之を觀れば防共と外交政策とを全然混同せる所謂無策外交にして、外交の意義を解せざるものと評せざるを得ざるなり。夫の獨逸は日本とは防共の盟友なるに拘らず、前大戰の失敗に鑑み今は露國と相提携し、共產主義の侵入に對し警戒しつゝ露國と握手し、之を巧に懷柔して赫々たる

る戰勝を博しつゝありて、「ヒットラー」總統の明は實に敬服の外なしとす。而て國力を擧げ死力を盡して蔣政權と奮闘中の我日本は援蔣政策に狂奔中の外國をして其政策を斷念せしむるを必要條件とするを以て、露國をして支那に於ける赤化宣傳と援蔣政策とを放棄せしむるは何人も異存なかるべし。故に我政府當局は從來の行懸を棄て虚心坦懷露國との交渉に着手し、其目的を達成せんことを切望して已まざるなり。(昭和十五、六、廿八)

近衛内閣の外交政策に對する希望

回顧すれば、滿洲及支那事變勃發に際し、東亞に利害關係の密接なる英米佛等の諸國は一致協力して國際聯盟を利用し、躍起となつて皇國の壓迫を企圖せるも、我皇國に好意と同情とを有する獨伊兩國は斷乎として同理事會に出席するを拒絶せる爲め彼等の陰謀は遂に晝餅に歸し、世間の嘲笑を招きたるは今尙吾人の記憶に新なる所なり。然るに第一次近衛内閣以來歴代内閣の此等諸國に對する外交は確乎たる一定の方針なく、友國と非友國とを混同し、閣内に於ても、或は英米依存を唱へ、或は獨伊協調を叫びて各其主張を固執して相譲らず、甚しきに至つては、平沼内閣時代には外交方針決定の爲め、五相會談を反覆すること驚く勿れ實に六十有餘回に達したるも、何等一定の結論に到達する能

はずして遂に同内閣は崩壊の運命に陥るに至れり。我國民の有力者階級にも亦政府の外交方針に追隨する者ありて皇國の姿は宛も醉客の右往左往するに彷彿するの醜態を演じつゝ、遂に歐洲戦争を迎へたり。然るに同戦争は佛軍の惨敗に依り英佛陣營の一角は脆くも崩壊し、戦争の前途は歴然として獨伊陣營に有利に展開するに至つても政府及國民一部の迷夢は未だ醒めず、偶々政府の八方美人主義の外交に飽き果てたる國民の大部は聲を大にして、外交の一大轉換を絶叫するの秋に方り、第二次近衛内閣は出現せるを以て、狂氣して之を歓迎せる國民は、松岡外相の就任匆々の外交方針に關する第一報は、獨伊樞軸への親好轉換への示唆なるを聞くに及んで大に満足の意を表する所ありしも、滿洲事變以來、皇國に對し絶へず敵意を表し來れる英特に米國に對する外相の外交方針が、旗幟頗る不鮮明にして、依然として、日米外交の摩擦を避けんとする從來の媚態外交の範圍を脱せざるの傾向濃厚なるは、外交旗幟の鮮明を要する戰時内閣の外交としては如何にも英斷果決の軒昂たる氣魄に乏しく、餘りにも退嬰消極的にして全然國民の期待を裏切り、失望落膽の念を生ぜしめたるは實に遺憾に堪へざる所なり。觀すや米國は名を大演習に借りて其大艦隊を太平洋上に集結し、公然皇國脅威牽制の態勢を整へ、皇國外交の動靜を睥睨監視しつゝあるを以て、若し皇國にして無爲無策何等爲す所なくして終らば已む。否な乾坤一擲の一大活劇を演ぜんと欲せば、必ずや米國は皇國に向つて難題苦情を訴へ、皇國の活動を抑制せんとするは之を豫想するに難らざるを以て、皇國は斷乎として之を排撃し米

國にして挑戦し來らば之と一戦を交ゆるの決心あるにあらざれば國策特に對南洋策の遂行は不可能なりとす。吾人の松岡外相に訊ねんと欲する所は外相に果して此一大決心あるや又陸海兩相が外相を支持するの決意あるや否やにあり。若し外相及陸海兩相にして牢固不拔の決心なければ、外相の所謂日滿支及南洋諸領を含む共榮圈の建設の如きは單なる空想に過ぎずして、實行の不可能なるは火を踏るより明なりとす。

從來東亞に於ける一大勢力たる英國勢力を、東亞より一掃するにあらざれば近衛首相の、所謂東亞新秩序の建設は單なる空想に過ぎざるを以て、英國が孤城落日の境遇に呻吟しつゝある今日の機會を捕へて、少くも英國勢力を馬來半島以西に驅逐するの策を講ずるを要す。

余は首相及外相に對し、一大決心を促がす所あらんとす。

松岡外相の主張する共榮圈の建設に就ては、吾人は滿腔の賛意を表するも、此事たる言ひ易く行ひ難きものありとす。今や蘭領及佛領印度の本國たる蘭佛の兩國は、獨逸に征服せられしに拘らず、兩植民地政府は本國政府の命に服従せず、獨逸反抗の氣勢を示し、各自由行動を主張し、領民は戦々競々として宛も薄氷を踏むの想をなして民心の安定を缺き、形勢頗る混沌たるのみならず英國政府亦植民地を鼓舞して、反獨氣勢を煽りつゝあるを以て、外相の所謂共榮圈の建設に着手せんと欲せば、皇國は斷乎たる決心を以て兩植民地政府に對處し、彼等が反對の態度を示すに方つては、武力を以て其

目的を貫徹するの覺悟なかるべからざるなり。雖然兩植民地は今や獨逸の征服する所となれるを以て、若し皇國が將來獨伊樞軸と握手提携し、日獨伊三國共通の敵たる米國を對手として、世界新秩序の建設に向つて邁進せんと欲せば、兩植民地の處分に就ては、皇國政府は獨國政府と交渉を開始し、皇國の對策を獨逸政府に通告し、其諒解を得る爲め最善の努力を拂はんことを切望して已まざるなり。

日露間の國交は永年疎隔し、特に共產主義を疾視する我國民は露國を蛇蝎視して同國との接近を回避し來りたる爲め、兩國間の國交は知らず識らずの間に亀裂を生じ、就中露滿國境に於ける數次に亘る露國の越境事件は遂に張鼓峯及「ノモンハン」事件を惹起し遂に國交の破裂を觀んとするに至れるも、兩國の互讓妥協に依り事件は辛ふじて落着し、所謂雨降つて地固まるの譬に洩れず爾來幾多の迂餘曲折を経つゝ最近に至り、兩國間を掩へる低迷せる暗雲は漸く影を没するに至れり。特に露國の生命とも稱すべき惡むべき共產主義は年月の経過と共に漸次緩和せられて、社會主義的傾向を生じ來れりと傳へらるゝを以て、此際我内閣の更迭を機會に政府當局は、從來の紛糾せる對立状態を一掃し、相互に胸襟を開いて交渉を開始し、腹藏なき意見の交換をなし國交の調整を計るを要す。就中露國をして援蔭政策と支那に於ける赤化宣傳を斷念せしむるを得ば我聖戰の目的貫徹上有利とするを以て之が爲め最善の努力を拂ふを要す。(昭和十五、八、二十三)

米國海軍の新嘉坡軍港占據は皇國に對する宣戰布告と解す

最近の華府來電に依れば、英米兩國政府當局は、米海軍の新嘉坡軍港使用に就て秘密裡に審議中に於て、「ハル」國務長官は十月廿日新聞記者團との會見席上英國大使「ロシアン」濠洲大使「ケーシ」との會談は米海軍の新嘉坡軍港使用にも觸れたる事を洩せり。且米國通信は報じて曰く、千九百三十八年英國政府は米國政府に對し米國海軍の新嘉坡自由使用を提案したる事あるも、米國政府は英國政府の提案は英米軍事同盟の基礎條件となる事を慮り、其當時之を拒絶せるの事實あるも、元來英防兩國の太平洋政策は共通にして、太平洋の危機切迫せる今日にあつては、兩國の共同政策は益々必要となり、米國海軍の新嘉坡使用は時日の問題にして早晚實現するに至るべしと。

抑も世界制覇に成功して、四方を睥睨し來れる傲然たる英國も、一葉落ちて天下の秋を知るの時に直面し、佛國崩壞後は大陸より驅逐せられ、周章狼狽して孤島に逃走し、毎日有力なる空軍を以て、猛攻し來る獨軍の銳鋒を死守するに餘念なきを以て、東洋無比の戰略要點として英國國民の誇りとせる新嘉坡の堅塞も、自力を以て之を防衛するの餘力なく、其使用を米國に提供せりとの華府來電は、早

晩事實となつて實現するの時機到來するを覺悟せざるべからず。況や英國は曩に窮餘の一策として、大西洋の米國東海岸に沿ふ大西洋諸島を米國の使用に提供し、尙且英國首相は議會に於ける演說中に、英國國民の誇りとする傳統的自尊心を傷る英米兩國の聯合に關する重大問題に關し、検討の用意ある旨を聲明して、英國の絶體絶命の窮境を暴露せる事實に想到するに於てをや。

爾て米國海軍の太平洋方面に於ける動向を觀察するに、皇國との善隣關係を無視し、非禮にも名を大演習に藉りて大艦隊を布哇群島に集中し、牽制脅威の態勢を整へて皇國の行動を睥睨監視（艦隊は兵員の休養及艦船修理の爲め米太平洋岸に歸航中なるも再び布哇へ來航すとの説あり）しあるのみならず、益々布哇軍港の強化を始めとし、一時反對派の強硬なる反對を受けたる「ミッドウェイ」及「グアム」兩島の防備の建設計畫に成功し、皇國の勢力範圍たる南太平洋方面に着々として其進路を開拓しつゝあるの秋に方り、英國の新嘉坡軍港の米國への獻納は、其納品の餘りに珍重なる丈に如何に米人の歡迎する所となれるかは想像に餘りありとす。

米國海軍部内に於て排日派を以て其名を知られたる現海軍作戰部長「スターク」大將及前亞細亞艦隊司令長官「ヤーネル」大將並前揚子江艦隊司令官「スターリング」少將は、米國海軍に對する新嘉坡軍港の重要性を力説し、其使用を主張しあるを以て、其新嘉坡使用は全海軍の總意と解して可なりと信ず。若し米國海軍が無法にも我勢力範圍を侵犯して新嘉坡軍港使用の事實實現するに至れば、目

下皇國が死力を盡して奮闘中の聖戰の目的たる東亞新秩序建設の前途に一大暗影を投じ、尙且我國防圈を蹂躪して國防線に一大亀裂を生ずることとなり、米國の皇國に對する宣戰布告と何等異ならざるを以て、我政府當局は兵力に訴へても其實現を妨害するの覺悟なかるべからず。否らざれば國民の義憤は爆發して遂に收拾すべからざるに至るべし。此場合に於て平和攪亂の重大責務は素より米國の負ふべきは論を待たざるなり。

現大統領「ルーズヴェルト」氏は排日派の巨頭を以て其名を知られ、惡辣なる手段を弄して日本に壓迫を加へ、甚しきに至つては、日米兩國親善の紐帶とも稱すべき通商條約を一片の豫告だも與ふる事なくして一方的に破棄して毫も憚る所なきのみならず、日本に對する軍需品の輸出を禁止して經濟封鎖の重壓を加へ、一方蔣政權を極力援助する等皇國に對する敵性を忌憚なく發揮して今日に及びり。又次期共和黨の大統領候補「ウイルキー」氏も其選舉說に於て、援蔣政策の強化及太平洋上の海軍基地の建設を主張し、現大統領の對日政策を裏書せり。此形勢を以て推移せば早晚日米の正面衝突は到底免れ難き運命にある事を覺悟せざるべからず。若し衝突の運命避け難ければ皇國の爲めには其時期の早きを有利とするを以て、米海軍が新嘉坡占據の暴舉を敢てする機會を捕へて乾坤一擲の一大活劇を演じて雌雄を決するも亦已むを得ざるべし。吾人は我政府當局が國民の一大聲援下に一大決意を以て新嘉坡問題の解決に向つて邁進せんことを切望して已まざるなり。（昭和十五、九、二十五）

日獨伊三國軍事同盟に對する觀察

回顧すれば第一次歐洲大戰後の「ヴェルサイユ」會議は、慘敗せる獨國に對し、再興防邊の目的を以て、陸海軍備の徹底的制限及過重なる賠償金の賦課等前例未聞の苛酷極まる媾和條件を課して致命的打撃を加へたり。又戰勝側たる聯合國の一員たりし伊國も同會議の冷遇する所となり、其主張たる「ヒューム」問題は葬り去られて顧みられざりし爲め、全權は憤慨の餘り同會議を脱退するの悲劇を演じ伊國の體面は地に墜つるに至れり。是に於て烈々たる復讐心に燃ゆる獨逸國民は、稀代の英傑「ヒトラー」總統に率ひられ、全力を祖國復興に傾注し、敢然駭起して「ヴェルサイユ」條約を蹂躪し、敗戦の結果剝奪せられたる領土の回復に向つて邁進し、着々として成功を告げ、又「ヴェルサイユ」會議に於て冷遇せられたる伊國も、其餘憤を漏さんが爲め、稀世の偉人「ムッソリーニ」首相統率の下に名譽回復の爲め奮起し、國際聯盟の強硬なる反對を斥けて、「エチオピア」の征服に奏功せり。爾來利害共通の獨伊兩國は意氣相投合して、英佛兩國に對して軍事同盟を締結し、遂に形勢は進展して獨伊對英佛戰爭の幕は開かれ、歐洲は戰亂の巷と化するに至れり。

又東洋方面に於ては、第一次歐洲大戰に於て聯合軍の戰勝に大に貢獻せる日本の國力發展を快しと

せざる英米佛の三國は、日本を壓迫する目的を以て華府會議を召集し、日本に課するに屈辱的海軍力の制限、日本の支那大陸に於ける活動を阻止する爲の九ヶ國條約の強要及青島の無條件還附等を以てし、爲に國威國權を喪失したる日本は、世界特に支那國民の輕侮を招き、抗日侮日の宣傳は支那大陸を風靡し、到る處に日本人驅逐運動を展開し、其結果は滿洲事變相次で支那事變を惹起し、今や日本は蔣政權打倒の爲め奮闘中なり。

以上の事實を仔細に検討すれば、第二次歐洲戰は「ヴェルサイユ」會議に其端を發し、又支那事變は華府會議に動機を發し、其の指導者たりし英米佛の三國は世界平和の攪亂者として、人類に及ぼせる禍害の責任は之を免るゝを得ざるなり。

翻て米國の獨伊乃至日本に對する最近の態度を觀察するに、曩に佛國崩壊して英佛陣營の一角に亀裂を生ずるや、米國は周章狼狽して中立國たるの國際的義務を全く忘れ、躍起となつて英國援助に乗り出し、全力を傾注して飛行機戰車其他の軍需品の供給に餘念なく、甚しきに至つては五十隻の多數に上ざる驅逐艦を英國に讓與すると同時に、大西洋上米國沿岸の諸島嶼を英國より租借して海空軍の基地を建設し、或は南米諸國を説き、或は加奈多を誘ふて防禦同盟を締結し、凡ゆる手段を講じ、獨伊に對し忌憚なく敵性を暴露して餘す所なしとす。又一方東洋方面に於ても米國は中立國たるの義務を高閣に束ね、日米通商條約を一方的に廢棄し、且軍需品の日本向け輸出を禁止して經濟封鎖に異な

らざる壓迫を加へ、加之大艦隊を布哇群島に集中して日本に對し牽制威嚇の姿勢を整へ、且布哇軍港「グアム」「ミッドウェイ」島の防備強化に熱中し、剩へ濠洲新蘭土と接近を圖り、尙進んで吾人の實力範圍たる大東亞圈内に進入して、新嘉坡軍港占據の野心さへ暴露し、最近に至り英國を強迫して援蔣の爲め緬甸路を再開せしむる等宛も日本を敵國視するの態度を示しつつあり。偶々此世界危機に際し、霹靂一聲日獨伊三國軍事同盟締結せられたるは常軌を逸したる横暴なる米國に對する三國の大警告として米國の參戰を阻止するに大なる効果あるものと認む。若し米國が此三國軍事同盟を米國に對する挑戰行爲と曲解し、此人道的警告を無視して、歐洲戰に参加し、或は吾人の勢力圏内を蹂躪し、新嘉坡軍港占據を敢てするが如き事態發生するに至れば世界は動亂の巷と化し、人類に一大災害を齎らすに至るべし。此事たる米國の責任に於てのみ爲さるべきものにして、吾人の興り知る所にあらざるなり。

過般多年の懸案たりし日獨伊三國軍事同盟條約發表せられ、獨伊兩國が日本を中心とする大東亞圏の建設を認容尊重する事を明白にせるは所謂八紘一字の皇謨の精神を具體化するに大に貢獻するものにして、吾人多年の宿望たる大東亞新秩序建設に向つて益拍車を加ふるものとす。吾人は須らく同條約を死文化する事なく之を有効に活用して其具體化を圖らざるべからず。之が爲には曩に獨逸の爲め其本國を征服せられて歸趨に迷ひ、人心動搖し、國內混沌たる蘭領及佛領印度を俎上に載せ、一刀兩

斷の斷乎たる處置を講ずるを要す。否らざれば兩印度に於ける憂鬱なる國情と不安なる民心とは遂に内亂勃發の憂あるのみならず、或は野心ある第三國の干渉する所となり、之を自然に放置するときは遂に兩印度は禍亂の巷と化して東洋の平和は攪亂せらるやも計り難しとす。

最近に於ける蘭印情報に依れば同地に於ては英米派の勢力優勢にして、數日前印度に開かれたる英國東洋屬領會議には蘭印は連絡者を派遣したるのみならず、我小林特派使節と蘭印當局との會商中、蘭印政府は密に英米政府に對し會商經過を内通せるの事實が、英國外務次官の議會に於ける説明に依りて暴露せられたるは抑も何を物語るものなりや。是れ蘭印政府當局が日本に好意を有せざるを雄辯に物話つて餘りありとす。

又佛領印度に於ても政府當局は表面親日態度を裝ふも、其裏面には佛人の反日派も尠からずして國內は暗雲裡に閉されあるのみならず、多年佛人の桎梏に苦める土民は、佛人に對し反感を有するを以て、内亂勃發の危険なしとせず。

日本は日獨伊三國軍事同盟の目的を達成せんが爲めに此際先づ蘭印及佛印を大東亞の建設圏内に包擁する方針の下に蘭印及佛印の國家組織を根柢より革新するを要す。之が爲めには兩印度の行政外交及國防の三權を日本の掌中に收め且永年歐洲人の桎梏に苦める住民を解放する條件を以て之が實行に着手せざるべからず。而して兩印度政府にして日本の對策に反抗するが如き事態が發生し、若くは第

三國の干渉に備ふる場合を念頭に置き、要すれば武力を以て其目的を貫徹するの決心と準備とを必要とするは勿論なりとす。(昭和十五、十、廿七)

明倫雜誌廢刊に就て所感を述ぶ

我が明倫會は昭和七年五月始めて呱呱の聲を揚ぐるや、其機關紙として明倫彙報を發刊し、翌八年三月に至つて之を明倫と改稱し、其第一號を發刊して以來、昭和十五年十二月第九十三號を最終篇として廢刊するに至る迄月を閲する九十四ヶ月、號を重ねる九十三號を算へたり。此間會員諸君より懽呼の聲を以て迎へられ、大に面目を施す所ありしが、今や曠古の非常時局に直面せる吾人國民は、國內物資の缺乏と共に雜誌に要する紙料節約の必要を痛感するに至れるを以て、政府の希望を斟酌し、雜誌の負擔せる重大使命は之を明倫新報に譲り、萬斛の涙を吞みて會員諸君に訣別するの已むを得ざるに至れるは實に千秋の恨事なるも、諸君は其内情を諒とせらるべきは余の信じて疑はざる所なり。

回顧すれば我明倫會創設の前後は、其聲明書に絶叫せる如く、我國民の大部は大和民族の優越性と無比なる國體の尊嚴とを失念して、外國崇拜の思想に捕はれ、甚しきに至つては、萬世一系天壤無窮なる萬邦無比の我國體を呪咀するの赤化思想に感染し、或は天皇機關説を主張し、或は議會中心主

義を絶叫し、或は憲政常道論を稱道する等の邪説國內を風靡せるのみならず、既成政黨は腐敗墮落の極に陥り、眼中政黨あつて國家なく、只管黨利黨略に耽り政權爭奪を事とし、政變に次ぐに政變を以てし、苟も國發大臣の優遇を辱ふる者にして收賄行爲を敢てして縲紲の辱めを受くるものあり。或は神聖なる勳章を弄んで忌むべき勳章疑獄を惹起する者あり。加之外交は萎靡不振の極に達し、國際協定に依て我海軍の國防力に屈辱的制限を受け、或は帝國の支那大陸活躍を阻止する九ヶ國條約を強要せらるゝ等、世界特に支那民族の輕侮を招いて遂に滿洲事變を惹起し我全權は國際聯盟に呼び出されて聯盟諸國の壓迫を蒙り、遂に聯盟脫退を餘儀なくせらるゝ等、所謂内憂外患相次で起り、國家は果卵の危きに瀕するに至れり。是に於て吾人憂國の士は國家の直面せる此危急を座視傍觀するに忍びず、相結束して奮然蹶起、以て明倫會を組織するに至れり。

爾來吾人は明倫主義を標榜して苦戰奮闘を繼續して今日に至れり。此間明倫會の機關紙たる明倫雜誌は本會の主義綱領貫徹の爲め會員の侃々諤々の主張宣傳に従事し、其成績は大に觀るべきものありて、國體の明徴、腐敗政黨の解消並に國際的海軍力制限の復舊を始めとし、帝國の支那活動を制肘せる九ヶ國條約は有名無實の空文と化し、英米依存の軟弱外交は影を没し、之に代はりて日獨伊の三國軍事同盟締結せられ、我聖戰の大目的たる大東亞共存圈建設の大なる曙光を認むるに至れる等、我明倫會の使命が略ぼ達成せられたるは明倫雜誌の多年に亘る奮闘大に與つて力ありしこと明白にして、

其功績は永久に没すべからざるを信じて疑はざるなり。明倫雜誌以て瞑すべき哉。

六九六

(昭和一五、一一、二九)

千葉胤明氏謹著

「明治天皇御製謹話」拜讀所感

左篇は「明治天皇御製謹話」の著者、御歌所寄人千葉胤明氏より田中總裁の所感を請はれたるに對し總裁より同氏に送られたる回答にて時節柄國民の精神修養上資する所鮮少ならずと信じ其回答の全文を掲ぐることにせり。

拜啓 陽春之候益御清勝之段奉慶賀候。陳者御近著「明治天皇御製謹話」を謹而反覆拜讀仕候處始めて今日迄世上に匿れたる 陛下の御日常の御務向を數々拜承することを得餘りにも叡慮の程の難有さ勿體なきに只管感激罷在候。抑も 陛下が不出世の英主に涉らせられ、且天稟の歌聖にあらせられし次第は餘りにも世上に顯著なる事實に候處畏くも 陛下が天地の公道、人倫の常經を御詠み込み遊ばされたる又と得難き貴重なる御製に就て詳細御説明を加へたる資料從來殆んど悉無なりしを平素頗る遺憾に存宛も大早の雲霓の心持にて待望候處今回圖らずも御製に就き微に入り細に亘り、一々引例して御説明を加へられたる此有益なる著書が時恰も國家の非常時局に直面する秋に方り上梓せられた

六九七

るは、國家國民に對し貴重なる教訓を齎らすものとして實に欣快の念禁じ難きものは豈に獨り老生のみならずと存洵に御同慶に存すると同時に、事茲に至る迄の先生の御苦心の程も御謹話の内に伺はれ、御推察に餘りある次第に御座候。特に老生は、畏れ多くも明治二十三年始めて身を陸軍に投じて以來、同四十五年御崩御に至る二十三年の久しき間數々拜謁、供奉及御下賜品等拜受の光榮に浴したる淺からぬ御因縁を辱ふ致せし爲め一層の感興と難有味とを以て貴著を拜讀仕り、往事を追憶して轉た感慨無量なるもの有之候間左に老生の經歷中御謹話に關係ありと認むる一端を御紹介致候

老生は

一、明治二十三年士官候補生として近衛騎兵聯隊（當時大隊）に入隊致候處、當時騎兵營は目黒驛場に在りし爲め翌年の露國皇太子遭難事件に際し畏くも、陛下が御旅裝を御整へ遊ばす御邊もなく早曉帝都御發轍に方り供奉騎兵は御發轍の間に合はざりし爲め、聯隊は其後急遽丸の内に移轉する事に相成りたるは忘るゝこと能はざる突發事件にして、貴著の天津事件行幸の御謹話を拜讀して誠に今昔の感に堪へざる次第にて、星移り物換はり今は此最も記念すべき歴史的事跡をさへ承知する同僚も漸次其影を没し、誠に心細き次第に御座候。

一、明治二十七年青山練兵場に於て御舉行相成りたる、兩陛下銀婚式御記念觀兵式御舉行の際、一少尉として騎兵一小隊を指揮して、兩陛下の供奉仕り記念品さへ拜受したる光榮に浴し候。

一、明治二十八年近衛師團が滿洲に出征するに方り、廣島大本營に於て拜謁を給はりたる光榮を有し候處、貴著の大本營に關する御謹話を拜讀して、四十有餘年の遠き古を追憶して實に感慨無量に御座候。

一、明治三十三年大學校卒業に方り、陛下御臨幸の下に軍刀一振を拜受したるは實に無上の光榮として今尙記憶に新たなる所に御座候。

一、明治三十七八年戰役に方り滿洲軍總司令部出征に方り職員一同に御陪食仰付けられたる際老生も其光榮に浴し、陛下が陪席の元勳を御相手に御對談遊ばされたる朗々たる御玉音は、今尙老生の耳に深く刻まれ思ひ出での種子に御座候。

一、明治三十九年米國大使館付武官として出發及同四十四年米國より歸朝の際拜謁被仰付。

一、明治四十四年「シヤム」皇帝、戴冠式御參列の爲御名代として伏見宮博恭王殿下を御差遣の折隨行を命ぜられ出發に際して、兩陛下に拜謁被仰付且御下賜品拜受仕候處是が最終の拜謁と相成り、轉た人生の無情なるを痛感すると同時に、實に御追慕の念禁じ難きもの有之候。

一、大正二年、明治天皇の御大葬の折、米國大統領の特派大使「ノックス」國務卿來朝に際し、接伴係の一員として御大葬に參列したるは實に思ひ出で深き悲しき紀念に御座候。今や「ノックス」氏も此世の人にあらず又當時「ノックス」氏の隨員の一人として旅團少將の階級を以て參列し歐洲大

戦に方り米國遠征軍總司令官として三軍を指揮し其驍名を世界に謳はれたる夫の有名なる「パーシ
ング」大將も今や病篤しとの報傳り、且夕を計られざる人生の無情を痛感罷在候。

一、大正三年より同五年に至る間侍從武官として 大正天皇の側近に奉仕せし折 陛下より 明治天
皇御製集を親しく御授けに相成り之を「羅馬字」に綴れとの有り難き御沙汰を拜したる當時を追懷
しながら御謹話を拜讀して 大正天皇の御深き御孝心の程も思ひ出され感泣罷在候。

偕て、御著書の内容に就て割切なる所感を申述ぶるは到底老生の任にあらざるも 畏れ多き事なが
ら僭越を顧みず右の御縁故を頼りに、謹んで聊か所感の一端を披瀝仕候。

一、陛下と高崎翁との御間柄及明治十九年御歌所御設置迄の経緯に關する詳細なる御謹話に依て
畏れ多くも 陛下の御幼少時代にをわします御歌の御趣向及歌人にして且國家の功臣たる高崎翁御
登用の経緯並御歌所を御創設遊ばされ歌道を萬古不朽に御普及御奨勵遊ばされたる顛末を始めて拜
承することを得、如何に

陛下の高崎翁に對し御信頼の厚つかりしか又如何に翁が精忠一貫以て奉仕せられしか所謂君臣水魚
の御交り振には只管感激の外無之候。

二、御製の御發表に關する詳細なる経緯に就ての御謹話に依つて 陛下が如何に御謙讓の御美德に富
ませられたかの一端が紙面に溢ると同時に、高崎翁並先生の御苦心の尋常一様ならざりし次第は

御推察申上るに餘りある次第に御座候。特に高崎翁が其職を賭して有力者の反對意見を押し切り、
斷乎として其決心を敢行せられたる其勇氣の程は職責觀念の稀薄なる現代の世相に於ては實に觀る
事を得ざる美談にして、範を後世に垂れられたる其功績は没すべからざるものありとし翁の御人格
追慕の念に不堪候。

三、陛下が皇祖皇宗の御祭祀を御大切に遊ばされて祭祀は皇國政治の大本であるとの深き御信念を
御持ち遊ばされたる事を詳細に御謹話の上我國體が建國の古より明徴して居る次第を短刀直入的に
御説破相成りたる其御卓見は實に御同感にして痛快禁じ難きもの有之候。

四、陛下の御孝道に關し一々御實例を擧げて御謹話相成り之に依て歐米崇拜の思想我社會を風靡し
輕佻浮薄の氣風に驅られつゝある我國民に對し、忠孝は我國民道德の根源たる所以を自覺せしむる
上に於て實に貴重なる教訓を與へるものと確信罷在候。

五、萬古不易の五ヶ條の御誓文の奉讀式の御次第に關する御謹話中に皇國の政治は天皇中心主義なる
ことを忌憚なく御力説相成り爲めに世の機關説信奉者をして顔色なからしめられたるは實に近來の
快事に御座候。

六、陛下と維新の元勳西郷南洲翁との御間柄に就ては豫々拜承致居候處御謹話中翁が萬斛の怨を吞
んで骸骨を乞ひ奉り闕下を拜辭するに臨み拜謁被仰付且御親影さへ下賜相成り翁に對し御訣別を

御惜み遊ばされたる實に難有次第を拜讀するに及んで畏くも 陛下の御心底を拜察申上ぐると同時に南洲翁の心中如何なりしか之を追想しては感泣罷在候。況んや老生如き無條件南洲崇拜者に於てをやに御座候。

七、陛下の廣大無邊なる御仁徳が 畏くも禽獸草木に迄普及したる事實が御近著に依つて普く世間に發表せられたるは人情の移薄なる現代の世に於て實に貴重なる教訓と存候。

八、陛下が露國皇太子殿下御遭難に際し、痛く宸襟を御惱まし遊ばされたる次第は御謹話に依て詳審拜承仕り實に難有叡慮の程恐懼措く能はざる次第に御座候。幸に兩國の國交に何等の破綻を來さざりしは全く御稜威に依るものにて感激の外なく特に

陛下が諸種の流言蜚語を大御心に掛けさせ給はず斷乎として露國軍艦を御訪問遊ばされたるの一事は只管感激の外無之候。

九、陛下の廣島大本營に於かせられし御起居が如何に御窮屈なりしかは拜察申上ぐるに恐懼の極みにて毫も艱苦缺乏を大御心に掛けさせられず宵衣旰食以て御精勵遊ばされたる次第は唯々感激の外無之就中小松宮及北白川宮兩妃殿下並大山、西郷及鍋島三夫人へ特志看護婦の資格を以て拜謁を給ひたる次第は 大元帥としての 陛下の御目影躍如たるもの有之候。

十、陛下が侍從補の直諫を御嘉納遊ばされたる御謹話に依り 陛下の御胸襟の御寛大なりし其の一

端が伺はれると同時に侍從補が面折庭争以て能く其重責を完ふせられたる美談は側近奉仕者の龜鑑として後世に其範を垂るるものと確信罷在候。

十一、陛下が御質素に渡らせられたるは餘りに世に顯著なる事實に候得共、御謹話に依て其詳報を拜承し實に恐懼罷在候。華奢の風流行し質實剛健の氣風地を掃ひつゝある現代の世相に於ては實に貴重なる教訓を國民に與るものと確信罷在候。

十二、陛下が日露戦役に際し二ヶ年間如何に宸襟を御惱まし遊ばされしかは御謹話中の二首の御製に依て伺はれ恐懼の極みに御座候而も 陛下の不治の御惱が既に其當時に御萌し遊ばされたる事實を拜承し勿體なくも一天萬乗の貴き御身を物とも遊ばされず日夜國務に御盡瘁遊ばされたる爲に不治の御難症に御罹り遊ばされたるかを拜察し奉る時何人が涙なくして此二種の御製を拜讀するに事の叶ふべきや、就中最後の御製を拜讀するに至つては儒夫をして起たしむべく更に無爲徒食の輩は寧ろ愧死すべく老生如き浪人は實に慚愧措く所を知らざる次第に御座候。

結 論

謹而按ずるに御製は森羅萬象に對せらるる 陛下の御信念の程を時に臨み折に觸れ御詠み遊ばされたるものにして其御信念の進る所は或は軍人勅諭或は憲法或は教育勅語の如き萬古不易の御成文となつて發露したるものと奉恐察候。依て苟も皇國臣民たる者は貴著を拜讀するに方ては、之を國民教科書

と心得、其趣旨の存する所を厚く奉體して滅私奉公 聖恩の萬分一に酬ひ奉るの覺悟を必要と信じ、明倫雜誌及同新報を通じて會員全般に購入拜讀方勸奨の手續可致候間申添候。

野入禮に倣はざるの例に漏れず本文中往々敬語を失し不敬に互る様な節も有之やも難計候處何卒老生の微衷の存する所を御酌み取りの上御寛容被下候へ者幸甚に存候 敬具

昭和十三年三月九日

兒玉將軍を憶ふ

高崎山穴ぐら内秘史(拓殖新報第一〇八號より轉載田中大將談)

兒玉大將逝いて三十三年、はやいものだ。先日三十三年祭が行はれた。日露戦役の當時大將の許で寢食を共にした佐藤參謀で今日生き残つては尾野實信大將と僕とばかりになつた。寂寞の感に堪えない。今回君の所で偉人追仰——高德高揚、精神作興の趣旨を以て兒玉神社歌詞献詠の儀を思ひ立つたそうだが大に賛成するよ、日露戦役の大立物、兒玉大將の旅順に於ける隠れたる軍事偉動の一節を話して聞かそう。是は我輩が陸軍大學の講話席上にも言はなかつたことだ「兒玉大將に隨行し旅順高崎山の穴居を偲びまつりて」と云ふ題の歌を今推敲中である。(上記君の所とあるは拓殖新報社を指す。本誌編輯部)

大本營は並ならぬ心配

第三軍が旅順の二〇三高地の攻撃奪取戦に手間日間費やす中にバルチック艦隊は段々と東洋に近づくと東郷艦隊は形から見れば劣勢だ。一面に滿洲に於いて露國の陸軍は壓倒的兵力を以て南下しつゝある。當時中央の大本營にては並大抵の心配ではない。是に於いて大本營は大山滿洲軍總司令官に「如何なる犠牲を出しても已むを得ないから滿洲軍は速に二〇三高地を攻略せよ」との電命を發するに至つた。然るに旅順の我軍には砲彈が十分でない既に缺乏を告げて來た。實は砲彈を撃ち盡したのだ。そこで第三軍の方は「砲彈を送らねば云々」と大山總司令官に言ひ返して來る。大山さんは亦大本營の命によると頑張る。流石の乃木さんもせつば詰つた。

兒玉總參謀長單身旅順に

是に於いて、もはや猶豫もならぬから大山さんは非常の決意を以て兒玉總參謀長を急遽旅順に派遣することになつた。是は當時大の特秘であつて重大な訓令を懷にして兒玉さんは出發せられたのだ。およそ一生懸命百方策を講じ攻撃を盡しても成功せないと軍の統制に影響し軍司令部の威信も動くは自然の勢ひである。遂に兒玉大將の出馬を必要としたのだ。發するに臨んで將軍は嗣子兒玉秀雄氏宛

の遺書を秘書官關屋貞三郎氏に手渡しされた悲壯な事實がある。

祝電は夢

當時第七師團が新銳勢力として煙臺に着いたばかりである。此の煙臺から機關車一臺をひく貨車に藁蒲團を敷いて兒玉大將と私と二人が乗り停車場毎に戦況を聞きつつ十二月一日午前三時に金州に着いた。此處で大山司令官よりの暗號電報を受取つた「第三軍は二〇三高地を確實に占領した。大山巖」とある。直ちに祝電を兒玉大將から大山乃木兩氏に發した。そして大將とブドー酒を抜いて二人で祝杯を舉げた。午前三時過ぎ金州には兵站部も鐵道經理部もあつた。此處で旅順に電話をし、參謀副長大庭中佐が電話口に出た「お目出度」と言ふと先方は「イヤお目出度ない」と答へる。又逆襲されて取還へされたのだ。今は山の頂上で双方睨み合ひだとのこと、之を聞かれた兒玉大將は折角食皿一バイならべた卓子に向つて居られたが、「朝食から洋食が喰えるかい」と大の不機嫌になられた。

二〇三高地の占領確保

高崎山は暗黒屋敷だ。一刻も早く来てくれと催促された。やがて第三軍軍司令部に到着した。たまたま乃木氏は外出中で夕方に歸つて來られた。大迫中將はこれだけの部下を犠牲にしても二〇三高地

占領の出来ぬは残念である由を懇々述べたが、將軍は黙して一言も發しない。大迫氏は取りつく島もなくすごくと歸つた。乃木兒玉兩雄の會見後俄に局面一轉して兒玉大將は隼の如く動き出した。第三師團は再び攻撃を開始した。今度は現在までの計畫によらず特殊の陣地を布いたのである。果して十二月五日二〇三高地の一角を次で全部を占領した。福島安正氏の部下國司大尉（山口縣人）に命じて二〇三の頂上から旅順港内の軍艦が「見ゆる」か否かを試着せしめた「見える」との答へを得たので兒玉大將は即時に敵軍艦を撃滅せよとの命を下した。

旅順港内の敵艦撃滅

二〇三高地から旅順港内軍艦の所在を認めはしたが、之を砲撃するには先づ觀測所の必要がある。此所へ大きな砲を撃ち込まれると觀測將校は吹き飛ばされる。幾人居ても死んでしまうから猶豫を願ひ出でたが大將は斷乎として許さない。觀測効を奏し港内潜伏の九隻の軍艦に我が砲弾が命中するに至つた。十二月六日を手始めに將棋倒しに敵艦を撃沈した。僅かに一隻が港外に遁れたばかりだ。是は今猶心ある人の記憶に新なる處であらう。

十二月八日の晚十時頃軍司令部に會合があつた。志賀重昂氏が來てゐて乃木兒玉三氏の間で詩作が催され次韻もあつた。當時兒玉將軍は自分の詩を塵紙にもせられた其れが四首もある東京朝日新聞

社の座談會で我輩が死生の間に於ける三人の詩の書きつけは今日から見ると一種の國寶だ今は何處に
 仕まひ込まれてあるやと述懐したところ三井信託の倉庫の中に預けてある由が木村毅君（同君は雜誌
 富士で兒玉大將軍のことを面目躍動的に書き連載してゐる）の一投書で分明了。二〇三高地攻撃か
 ら乃木兒玉の兩將軍が山を下り陣中詩會をされたなどは不朽の逸話だ。尋常人の企て及ぶ所ではない
 兒玉さんは死を決し、乃木さんは大に惱まされた時の作であるから旅順開城史を飾る心血の國寶であ
 る。

露國の金城湯地とたのみし旅順要塞は自國の東洋艦隊を援護するためである。港内軍艦が悉く撃滅
 されて援護すべき目的物が無くなつたあかつき、敵將ステッセルの降参と開城とは當時の結果だ。即
 ち二〇三高地の完全な占領は直に港内艦隊の全滅となり旅順の開城を促進した。更にはるる日本海
 目指し來りしバルチック艦隊全滅の機會を東郷艦隊にあたへたのである。而して旅順要塞の陥落に
 より意氣衝天の第三軍は南から北へと踵をめぐらしてにはかに奉天大會戰に参加する新銳勢力となつ
 た。此第三軍が奉天における迂回策戰により強敵を制壓し大快勝を博したのである。斯くて二〇三高
 地の急速確實なる占領は日本陸海軍の對露戰役大勝利と不可分的先驅原因を有すると論斷せねばなら
 ぬ。

満月荒涼秋風醒く第三軍の惱み抜いてなか／＼陥落しない二〇三高地を確實に占領して了つたこと

は兒玉將軍が單身決死的に高崎山に乗り込み、僅か二疊敷位の穴居で乃木兒玉兩將軍對座の間に重大
 なる意見の交換行はれ、至誠純忠なる大乘的觀念の前には區々たる權限問題など起りやうはなく、二
 〇三高地の占領旅順攻略の大策戰が兩偉人談笑の間に即決せられたからである。但し兩將軍の交りが
 平常兄弟の如くであつたならばこそと謂へる。兩雄苦心慘憺の程大に察すべきであらう。斯くて天下
 興亡の機を決し新興日本の大陸進出の第一線を畫した兩雄は眞に名將の鑑であり、軍神の双壁と仰ぎ
 奉るべきである。

本稿を以て故田中大將の既筆を一應終えることとする。一應と云ふたのは此處に再掲した以外に或は本誌の座
 談會に、或は他新聞紙、雜誌等に執筆、談話等數々の發表を蒐録すれば蓋し老大な頁數となり、到底本史の頁數
 を以てしては堪え得ざる憾みを持つからである。

特に故大將が存命中に、新に書き下しの玉稿を以て光彩を添えるべき編輯部との約も、今はうたゝ無量の追憶
 を餘すのみとなつたことを餘白を割き附言する次第である。（編者識）

明倫會規約

第一章 總 則

第壹條 本會ヲ明倫會ト稱シ本部ヲ帝都ニ置ク

支部ハ全國所要ノ都市ニ置キ之ヲ明倫會某地支部ト稱ス

本部ハ全國各支部ヲ統制ス

第貳條 本會ノ目的ハ主義綱領ノ實施貫徹ヲ期スルニアリ

第二章 業 務

第參條 本會ハ其ノ目的達成ノ爲メ大會及役員會ノ決定セ

ル事項ノ外左ノ業務ヲ行フ

一、各種ノ政務調査 二、機關新聞雜誌並文書ノ發行 三、

講演演說會ノ開催 四、青年ノ政治訓練

第三章 役 員

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、總裁壹名 二、副總裁壹名 三、顧問若干名 四、相談

役若干名 五、理事若干名 六、評議員若干名

理事及評議員ノ任期ハ壹ケ年トシ重任ヲ妨ケス

第五條 總裁、副總裁ハ大會ニ於テ推戴ス

第六條 總裁ハ本會ヲ統轄シ且之ヲ代表ス

第七條 副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ總裁事故アルトキ之ヲ代理

ス

第八條 顧問及相談役ハ總裁之ヲ委囑ス

第九條 理事ハ評議員中ヨリ總裁之ヲ指名ス

第十條 理事中若干名ヲ常務トシ總裁之ヲ指名ス

常務理事ハ第十五條ニ掲クル擔任部門ノ職務ヲ掌ル

第十壹條 評議員ハ會員中ヨリ理事會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ

指名ス

第四章 大會及役員會

第十貳條 大會ハ通常毎年一回總裁之ヲ召集ス

第十參條 評議員會ハ總裁、副總裁、顧問、相談役、理事及

評議員ヲ以テ構成ス所要ニ應ジ總裁之ヲ召集シ會務ノ大綱ヲ

議決ス

第十肆條 理事會ハ總裁、副總裁及理事ヲ以テ構成シ通常毎

月一回定會ヲ開キ重要ナル會務ヲ審議決定ス

顧問及相談役ハ隨時理事會ニ出席シ會議ニ參加スルコトヲ得

第五章 本部ノ組織

第十伍條 總裁ノ下ニ左ノ各部ヲ置キ常務理事ヲ以テ構成ス

一、總務部 二、政務部 三、統制部 四、宣傳部

右ノ外必要ニ應ジ臨時調査部ヲ設クルコトヲ得

第十陸條 總務部ハ庶務會計人事及各部ニ屬セサル事項ヲ掌

第十柒條 政務部ハ政策政務ノ調査、研究、立案ヲ掌ル

第十捌條 統制部ハ會ノ組織、擴張、統制ヲ掌ル

第十玖條 宣傳部ハ機關新聞雜誌其他文書ノ發行及宣傳ニ關

スル事項ヲ掌ル

第六章 會 員

第二十條 會員ハ本會ノ主旨目的ニ賛同シ協心戮力之カ進行

ヲ約シタルモノトス

第二拾壹條 本會ニ入會セントスルモノハ規定ノ入會書ニ會員

貳名以上ノ紹介ヲ受ケ本部若クハ支部ニ提出シ總裁ノ承認ヲ

受クルモノトス

第二拾貳條 會員ノ會費ハ當分ノ内之ヲ徵收セス

第二拾參條 會員カ本會ノ主義綱領又ハ規約ニ違反シ本會ノ體

面ヲ汚損スル行爲アリト認ムル時ハ理事會ノ決議ニヨリ戒告

又ハ除名スルコトアルヘシ

受クルモノトス

第二拾肆條 本會ノ會計年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日

迄トス

第二拾伍條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ充當ス

一 會費 二 贖金 三 其他ノ雜收入

第二拾陸條 本會ハ各道府縣々廳所在地ニ一支部ヲ設置シ場合

ニヨリ當該管内主要都市ニ更ニ支部ヲ置クコトアルヘシ

第二拾柒條 一府縣内ニ數個ノ支部アルトキハ之ヲ聯合シテ支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

第二拾捌條 支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

第二拾玖條 支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

支部聯合會ハ聯合セル各支部ヲ統制ス

支部聯合會及支部聯合會長ニ關スル事項ハ本規約中支部及支

部聯合會ヲ設クルコトヲ得

部長ニ關スル條項ヲ適用ス

第貳拾八條 支部ハ所屬會員約百名以上ヲ以テ構成スルヲ例トス

支部ノ規約制定、變更並ニ役員ノ任免等ハ支部毎ニ之ヲ管掌シ總裁ノ認可ヲ受クルモノトス

第貳拾九條 支部長ハ支部ニ於テ推薦シ總裁之ヲ囑託スルモノトス

第參拾條 支部ノ經費ハ原則トシテ各支部ノ自給トス

第參拾壹條 支部ハ管内所要ノ地ニ分會ヲ設ケ之ヲ統制ス

第九章 青年部

第參拾貳條 本會ニ青年部ヲ置キ其部員ニ主トシテ政治的ノ修養訓練ヲ行ヒ並ニ明倫主義ノ普及徹底ニ努メ健實ナル輿論ノ喚起ニ任セシムルモノトス

第參拾參條 本部青年部ハ總裁ノ指名スル部長、副長及東京地方在住ノ青年明倫會員ヲ以テ組織ス

本部青年部ニ要スル經費ハ自給ヲ原則トシ其組織業務等ニ關スル細則ハ總裁ノ承認ヲ受クルモノトス

第參拾四條 地方各支部ハ爲シ得レハ其ノ支部青年部ヲ設ケル

モノトス支部青年部ハ其ノ支部長ノ統制ヲ受クルト共ニ他方本部青年部ニ連絡ス

附 則

第參拾五條 本規約ノ改正ハ評議員ノ議決ヲ要ス

但シ緊急ヲ要スル場合ニハ理事會ノ議決ニ依ツテ之ヲ行フコトヲ得

第參拾六條 本部ノ業務實施ニ關スル細則ハ總裁別ニ之ヲ定ム

本部 青年部

規 定

第壹條 明倫會本部ニ本部青年部(以下單ニ青年部ト稱ス)ヲ置ク

第貳條 青年部ハ總裁ノ指名スル役員及東京地方在住ノ青年明倫會員ヲ以テ組織ス

第參條 青年部ハ其部員ニ國土トシテノ修養訓練ヲ行ヒ且明倫主義ノ普及徹底ニ努メ健實ナル輿論ノ喚起ニ任スルモノトス

第四條 青年部員ノ選拔ハ別ニ之ヲ定ム青年部ノ各種行動ニ際シ之ヲ佩用スルモノトス

又青年部旗ヲ定メ行動ノ標識タラシム

第五條 青年部ニ要スル經費ハ原則トシテ自給トス

第六條 青年部ハ本規定ニ基キ細則ヲ立案シ總裁ノ承認ヲ受クルモノトス

細 則

第一章 總 則

第壹條 本細則ハ明倫會本部青年部規定ニ基キ細部ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
本細則ノ改正ハ評議員會ノ議決會ニ據リ總裁ノ承認ヲ受クルモノトス

第二章 組 織

第貳條 青年部員ハ明倫會ノ主義目的ニ賛同シ其ノ第一線ニ立ち銳意ノ力遂行ニ努力スルコトヲ誓約シタル青年トス

青年部員ノ年齢ハ滿二十歳以上滿三十五歳以下ヲ標準トスルモ青年部長ニ於テ適任ト認ムル者ハ此限りニアラス

第參條 青年部ニ左ノ役員ヲ置ク

部 長 一 副 長 一乃至二
幹 事 若干 顧問 若干
評 議 員 若干

第四條 部長及副長ハ總裁ノ指名ニ據ル
幹事ハ部長之ヲ指名ス但内二名ヲ常務トス

顧問ハ部長之ヲ委嘱ス

評議員ハ幹事會ノ諮詢ヲ經テ部員中ヨリ部長之ヲ指名ス
役員ノ任期ハ一箇年トス但シ重任ヲ妨ケス

第五條 青年部ハ部員ノ數ニ應ジ統制上地區毎ニ隊ヲ置キ要スレハ之ヲ班ニ區分ス

各隊ニハ隊長ヲ置キ部長之ヲ指名ス

第三章 指導方針

第六條 青年部員ノ指導方針ハ日本精神ヲ涵養シ皇國擁護ノ大義ニ徹セシムルニアリ

第七條 前項ノ目的ヲ達スル爲毎月一、二回研究會ヲ開キ青年部若ハ本部役員指導ノ下ニ適當ノ方法ニ依リ日本精神ノ修養訓練ヲ行ヒ且皇國擁護ノ見地ヨリ本會ノ主義綱領ニ基キ政治、外交、軍事、財政、經濟、思想、教育等ニ關スル時事問題ノ討究ヲ行フモノトス

第八條 青年部員ハ團體又ハ個人トシテ銳意實實剛健ナル同志ノ獲得ニ努ムルモノトス

第九條 青年部ハ熱烈ナル意氣ヲ以テ明倫主義ノ宣傳輿論ノ喚起指導ニ任ス

第四章 業務

第十條 大會ハ通常毎年一回總裁ノ認可ヲ受ケテ部長之ヲ召集ス大會ニハ本部役員列席スルヲ例トス

第十一條 評議員會ハ部長以下全役員ヨリ成ル所要ニ應シテ部長之ヲ召集シ會務ノ大綱ヲ議決ス

第十二條 幹事會ハ通常每週一回部長之ヲ召集シ重要ナル會務ヲ審議決定ス

顧問ハ隨時幹事會ニ參加スルヲ得

第十三條 青年部ニ庶務(統制ヲ兼ヌ)遊說、訓練ノ三課ヲ置キ部長ノ指名セル幹事各課ノ業務ヲ分擔ス

第十四條 青年部ノ經費ハ會費及贈金ニ依リ之ヲ支辨スルヲ原則トス

第十五條 重要ナル事項ハ部長ヨリ總裁又ハ本部ニ具申シ其ノ承認ヲ受ケタル後之ヲ實施スルモノトス

第十六條 各種集會及行動ニ際シテハ明倫主義ニ基キ質素ヲ旨トスルモノトス

第十七條 執務上ノ細部ハ部長別ニ之ヲ定ム

第五章 雜則

第十八條 青年部ニ入會セントスルモノハ明倫會規約第廿壹條ノ手續ヲナシタル後部長ニ申出テ宣誓スルモノトス

第十九條 青年部員ニシテ其體面ヲ汚シ若ハ統制ヲ紊ス行爲アルトキハ幹事會ノ決議ニヨリ戒告シ又ハ除名ヲ明倫會本部ニ上申ス要スレハ總裁ノ認定ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第二十條 青年部員ノ標識ハ白布ニ明倫會ノ標識及「明倫會本部青年部」ノ八字ヲ標記シタルモノヲ左腕ニ附ス

青年部旗ハ白布ニ明倫會ノ標識同前ヲ附シタル國旗型トシ旗竿ニ沿フ一側ニ「明倫會本部青年部」ト標記ス

入會申込書

(地名人名ノ傍ニハ振假名ヲツケラレタシ)

氏名	年 月 日生
電住	話所
官職等業	級役等名
現住所	屬團體
同勤先	電所 在 話地
紹介者	印
	印

右貴會ノ趣旨目的ニ賛同シ入會申込候也

右申込者

(氏名印)

昭和 年 月 日

明倫會總裁 田 中國 重殿

明倫會本部役員名簿

(昭和十六年六月現在)

總裁

相談役

海軍中將
(横濱支部長)

東郷吉太郎 元外交官

堀口九萬一

理事

陸軍中將

安藝 晋

海軍大佐

太田 千尋

陸軍少將

蘆澤 敬策

陸軍少將

加藤 惣次郎

海軍少將

陸軍中將
(川崎支部長)

伊丹 松雄

經濟學博士

木村 増太郎

陸軍少將

實業家

石原 廣一郎

五聖閣主

熊崎 健翁

陸軍中將
(石川支部長)

陸軍少將

今井 信夫

陸軍少將

島内 國彦

陸軍少將

衆議院議員

今井 新造

海軍軍醫少將

砂堀 雅人

陸軍少將

中頭 新左衛門

中村 四郎太

高田 豊樹

園田 成憲

匝 瑳胤次

重松 清行

陸軍少將
陸軍少將
陸軍少將
(常務、總務、青年)
衆議院議員
陸軍少將

中川 金藏
長山 正毅
中山 健
中原 謹司
二宮 久二

陸軍軍醫少將
(海軍大佐
仙臺支部長)
海軍大佐
陸軍少將
陸軍大佐

橋本 盛十郎
橋本 才輔
原 道太
林 幸司
馬場 鉞江

陸軍中將
實業家
陸軍少將
陸軍少將
陸軍中將
常務、政務、統制

二子石 官太郎
松尾 忠二郎
山田 軍太郎
吉 弘 庚
渡邊 良三

評議員

陸軍少將
陸軍少將
陸軍大佐
海軍大佐
實業家
陸軍中將
陸軍軍醫中將
醫師

蘆川 良治
青柳 和夫
相賀 寅甫
藍 孝鏡
有馬 彦吉
稻垣 清
岩崎 小四郎
伊藤 祐次

實業家
辯護士
陸軍大佐
醫學博士
陸軍中尉
實業家
陸軍中佐
陸軍大佐

石井 保
井手 諦一郎
稻留 國彦
石井 正
石井 貞次郎
伊藤 達三
榎林 馨
梅澤 銀造

辯護士
實業家
醫學博士
陸軍少將
陸軍少將
陸軍少將
海軍少將
陸軍主計少將

上田 厚吉
上田 保
遠藤 順和
大關 鈔
岡 千賀松
小野 茂幸
大寺 量吉
大津 留重

實業家	岡本健治郎	陸軍大佐	小林順一郎	陸軍少將	鈴木文次郎
日本大學教授	岡本隆治	陸軍大佐	後藤久次郎	青山會館理事	關野正之
高女校長	荻野素助	實業家	小山卓次郎	醫專教授	瀨尾義秀
海軍少將	小栗信一	實業家	河野九峰	日印協會理事	副島八十六
實業家	大山綱國	區會議員	小林兵庫	陸軍大佐	竹內東一郎
陸軍少將	唐原與次	陸軍少將	佐藤榮樹	陸軍主計少將	高橋倉松
陸軍少將	河上清吉	實業家	齋藤巖	日露協會幹事	田中精次郎
陸軍少將	河村圭三	大學教授	坂戶智海	大學教授	高橋龍雄
海軍大佐	蒲田靜三	大學教授	澤田五郎	市會議員	瀧澤龍太郎
海軍少將	城戶忠彦	陸軍大佐	佐田保一郎	陸軍少佐	千葉胤知
實業家	栗林友二	陸軍大佐	齋藤堂々男	陸軍少將	土屋篤
辯護士	黒笹幾雄	醫學博士	佐藤清	實業家	豊住照日出
會計技師	倉矢貫一	陸軍大佐	西條新太郎	社會重役	利根川久衛
陸軍少將	久米猪一	陸軍少將	島田良一	陸軍少將	長渡忠被
陸軍中佐	藏重梅槌	海軍少將	篠崎眞介	著述家	夏秋亀一

貴族院議員	中村純九郎	實業家	堀内伊太郎	陸軍少將	山田褒雄
實業家	中西伸次	陸軍主計少將	萬膳源五郎	陸軍少將	山内岳造
陸軍中佐	成田哲夫	陸軍大佐	益田眞一	海軍大佐	山崎正策
海軍少將	中島章	實業家	牧野孝次郎	海軍少將	吉武貞輔
陸軍大佐	西垣新七	實業家	前川平左衛門	陸軍中佐	吉岡常典
陸軍大佐	西尾糾夫	實業家	松永安左衛門	實業家	横出政五郎
辯護士	服部國造	著述家	松尾小三郎	實業家	吉野小一郎
大學教授	花井重次	陸軍大佐	増田正	大學教授	吉田衛
陸軍大佐	蓮岡清次郎	陸軍少將	三原三郎	實業家	渡邊嘉政
陸軍少將	羽入三郎	大學教授	水谷吉藏	實業家	若松慶三郎
陸軍少將	弘中曉	獸醫學博士	武藤喜一郎	辯護士	和田亀太郎
陸軍大佐	平出長太郎	高女校長	村井熊太		
海軍少將	福田一郎	海軍大佐	百田岸郎		
陸軍少將	藤井一彦	陸軍少將	柳井貴一		
陸軍少將	星埜文一郎	辯護士	八木力三		

支部推薦本部評議員

(順不同)

江東支部

石崎仲三郎
星出二藏
草刈包彦
竹村鉦一郎
湯淺巖
千葉叔則
宮村亀一
草住角太郎
井上壽男
根本瑛
山田今朝治
伊藤貴一

淺草支部

三谷四郎
田部井進
虎岩瀨省
津田博通
澤村虎次郎
中村豊吉
野口憲三
大久保二郎
小川明
野村由太郎
竹内健太郎
岡野茂作

板橋支部

鈴木平八
細谷忠房
穴原萬平
飯田省吾
田丸將士
信田巖
岩田宗雄
渡邊金五郎
田中鐘太郎
大出祥
長田盛義
小泉國五郎
八田喜久雄

荻原支部

荻原勝一
大野喜五郎
青野隆一郎
原田彌七
原道行
杉田真一

川崎支部

井手平馬
田中幸太郎
坪田市松
佐野元俊

横濱支部

園田靜夫
安部勤
河野幾造
田中紋之助
有馬弘太郎
宇田川虎吉
田邊晃志
井止庄太郎
工藤萬之輔
深野一道
生出照二
高橋徳太郎
白田猶八郎
中澤朝重

久保太輔

若原松太郎
西谷哲芳
龜澤秀年
中原常吉
廣田宗治
佐々木義次
大川萬作
小林石松
宮内初太郎
落合亥作
大橋壽徳
古川里美

山梨支部

金塚義東
中島爲次郎
中山政
田中富平
須田利甫
飯島豊甫
河西定男
市川五三郎
三井甲之助
八木雄馬
細井篤郎
長野健

志摩支部

山岸正治
村田勝治
名倉秀策
林博
杉田寅之助
伊藤勘次郎

神都支部

藤堂博文
十文字重輝

静岡支部

八木雄馬
細井篤郎
長野健

滋賀支部

守永彌惣治

平木吉治郎

福井縣支部

國田武俊

吉村久吉

夏目新治郎

小木津

坪川吉十郎

大木健次郎

上田啓二

吉田良男

竹村周吉

大塚義一

松島英二

富山縣魚津支部

和歌山縣支部

速水約藏

近藤忠

米多外男

西本雄次郎

西川文吉

伊藤助右衛門

吉崎欽次郎

大坂支部聯合會

京都支部

石川縣支部

大阪支部聯合會

山村治郎吉

福田榮太郎

森田理作

川上胤三

石原貞次郎

赤倉彌太郎

木村時次郎

出原邦二

深見德次郎

赤倉彌太郎

五十嵐和吉

森田定治良

北尾半兵衛

富山縣氷見支部

奈良支部

選富造

加佐郡支部

萩野一朗

松下正昭

英健也

佐藤俊龍

殿谷源兵衛

村尾樹吉

坂田忠作

本川藤成

奧本德太郎

奧本德太郎

土出英吉

西尾信一

小森常三郎

吳支部

門司支部

角野久造

大關源藏

秦野楠雄

永島敬三郎

井上長一

高松進

丸下紫朗

白井偉文

小林元太郎

上野恕久

梅田生

段野勝太郎

渡邊繁秋

上野恕久

梅田生

綴木正明

田中吾一郎

友澤昇

下關支部

八幡支部

森田德彦

岡山支部

吉田助

八幡支部

小南久太郎

友澤昇

兒島吉三郎

村上菊三郎

吉利暉久

友澤昇

兒島吉三郎

牧野貞勝

三原支部

青木作雄

百武久兵衛

岩井豐夫

小曾戶富吉

福井茂一

廣島支部

隅田昌宏

星村一平

吉田茂明

佐伯寅弑

松本隆次

藤村和夫

佐藤隆義

福井茂一

河西善兵衛

廣島支部

岩山彰利

福井茂一

坂非衛門

牧瀨太郎

河野清三郎

熊本支部

荒川真郷

小島徳貞

西次雄

望月義庵

鹿兒島縣支部

押川公實

谷山國信

本田源三

篠原長千代

都城支部

立野至

曾木重貴

元田龍佐

愛媛縣

金崎彦四郎

野口矯

八原昌照

日野梅三郎

佐伯保

小野唯三郎

香川支部

増田不二男

山本彌平

古川清六郎

宮宇地嘉太郎

徳島支部

池上徳平

辻權作

高崎支部

佐藤賢

木戸又平

關根作三郎

永井作三

栃木縣支部

瀧澤作市

眞島典二

瀧澤靖

佐伯正之進

高橋徳

今市分會

安達繁七

村上正

安達支部

田倉孝雄

仙臺支部

大泉製之助

林壽逸

高橋慶藏

弘前支部

成谷兵輔

横岡省三郎

成田彦一

水口豊太郎

長峯彦作

古田芳美

山形富士雄

佐々木芳夫

新庄支部

伊藤文雄

楠龜雄

信夫周次郎

旭川支部

飯島五郎

多田權平

吉村敦

山崎有信

一關支部

三神禮助

安倍貞

千葉直次郎

青森支部

相馬武一

函館支部

田村與三郎

臺灣支部

足立乙亥千

本部役員中故人となられた方々 (順不同)

總裁

陸軍大將 田中國重

陸軍中將 石光真臣

陸軍少將

加瀬俊武

陸軍中將 高山公通

(以上本部相談役)

陸軍少將 黒坂静一

常陸軍少將

新山福治

常務宣博士 大山卯次郎

陸軍少將

安井義之助

(以上本部理事)

本部理事として曾て本會に關係せられし方々 (順不同)

侯爵 徳川義親

愛國浪曲聯盟會長 齋藤瀏

陸軍中將

勝尾信彦

伯爵 山田英夫

陸軍中將

佐藤清勝

會社重役 井上勝好

外交官

清水精三郎

陸軍少將 瀧原三郎

陸軍少將

工藤豪吉

陸軍少將 繼

貴族院議員

戸田忠庸

陸軍中將 奥平俊藏

法學博士

蟻川新

法學博士 鹿島守之助

外交官

二見甚郷

海軍少將 増田乙三郎

(昭和十二年七月七日北支事變勃發に際し宣傳部は事變の重大性を指摘し、爾後左の標語を掲げ)
全會員に實調を強張し來れり。

七二八

！れ守を後銃致一國舉

- 一 質實剛健の精神を養へ
堅忍持久の力も元はこの精神
- 一 銃後の護りは先づ戦費の負擔から
國防費、恤兵費献納、愛國公債買入
- 一 無駄を除き冗費を約け
虚飾を斥け、實質を求めよ
- 一 食物は美食を排し栄養主義に依れ
分量の無駄も亦廢すべし
- 一 輸入品を排して國産品を使用せよ
衣服、裝身具、日用品等國産品使用
- 一 ガソリンを極度に節約し自動車の使用を縮減せよ
自動車遊覽絶對廢止
- 一 軍用品の節約不用品の献納
羊毛、綿製品、襪、ゴム、紙、ニッケル、錫等

吾等の決意

以上の外支部、分會等の準備會の名による活動が續けられたが之を地方別に列擧すれば次の如し。

關東地方

西多摩、玉川、腰越、横須賀各支部準備會、秩父、市野谷、柏、水戸、市川、日光、栃木町分會準備會及び群馬縣木瀬村青年分會等、

東北地方

福島縣郡山、同平各支部準備會、宮城縣志田町古川、同鹽釜、同槻木、同白石、同石巻各分會準備會、岩手六原、日詰、黒澤尻各分會準備會、岩手縣宮古、福岡支部準備會、青森八戸支部準備會、山形、米澤支部準備會、秋田支部、同六郷、大曲、毛馬内、秋田、能代港、横手各分會準備會、

中部地方

名古屋支部、山梨縣諏訪分會、長野縣南信支部、岐阜支部、大垣支部、新潟、富山各支部準備會

近畿地方

京都府福知山、大阪府三島、堺、姫路、赤穂、伊丹、相生、滋賀縣神崎各支部準備會、

中國及四國地方

岡山縣津山支部、笠岡分會、福山、糸崎、因島、甲山、北備、鳥取縣倉吉、西伯、松江、山口縣萩、吉敷、香川高知縣渭南各支部準備會、愛媛縣津島分會、

九州地方

若松、二日市、小倉、佐賀、佐世保各支部準備會

支部・分會名と創立年月日一覽

昭和十六年六月現在、本部解散ト同時ニ解散ノ支部二三ヲ出セリ (支部名稱ヲ略ス)

名稱	創立年月日	名稱	創立年月日	名稱	創立年月日
江東(東京)	昭九.五.二二	山梨(山梨)	昭八.五.二一	三原(廣島)	昭九.六.二〇
板橋(東京)	同九.七.八	嶽澤分會(山梨)	同九.七.八	下關(山口)	同九.一.二〇
改組	同	津(富山)	同	媛(愛媛)	同
淺草(東京)	同九.七.二二	見(富山)	同	喜多分會(愛媛)	同
川崎(神奈川)	同九.七.二三	川(石川)	同	福岡(福岡)	同
橫濱(神奈川)	同九.七.二四	井(福井)	同	八幡(福岡)	同
外十八分會ニ及ブ	同	加(京都)	同	門司(福岡)	同
栃木(栃木)	同九.一.一四	加(京都)	同	熊本(熊本)	同
今市分會(栃木)	同九.三.四	大阪聯合會(大阪)	同	八代(九.九.一五)人吉(九.一〇.一五)	同
高崎(群馬)	同九.七.二八	外十八支部ニ及ブ	同	宮地(一〇.二.二三)豐川(一〇.二.二三)	同
木瀬村分會(群馬)	同二.二.二八	神戶(兵庫)	同九.一〇.二六	二(賢木村)一〇.五.五)松求麻(一〇.四.五)	同
八生村分會(千葉)	同(後解消?)	神奈(奈良)	同九.四.二五	菊地(一〇.一〇.二三)以上分會	同
安達(福島)	同九.五.一〇	志摩(三重)	同九.〇.二五	都(熊本)	同九.一.二二
仙臺(宮城)	同九.九.四	滋賀(滋賀)	同九.七.四	日吉村分會(熊本)	同
一關(岩手)	同九.二.二五	和歌山(和歌山)	同九.一.二七	鹿兒島(鹿兒島)	同
六原分會(岩手)	同九.九.八	岡(岡山)	同九.五.二〇	加治木分會(鹿兒島)	同
青森(青森)	同八.九.二三	津(岡山)	同	函館(北海道)	同
弘前(青森)	同八.二.二四	宇野分會(岡山)	同	札幌(北海道)	同
新庄(山形)	同九.二.二四	廣島(廣島)	同	旭川(北海道)	同
静岡(静岡)	同九.一.二三	尾道(廣島)	同	臺灣	同

昭和十七年五月一日印刷
昭和十七年五月五日發行

明倫會會史 (非賣品)

編輯人

明倫會々史編纂所

印刷人

代表 中川 金藏
橋本 阿喜良

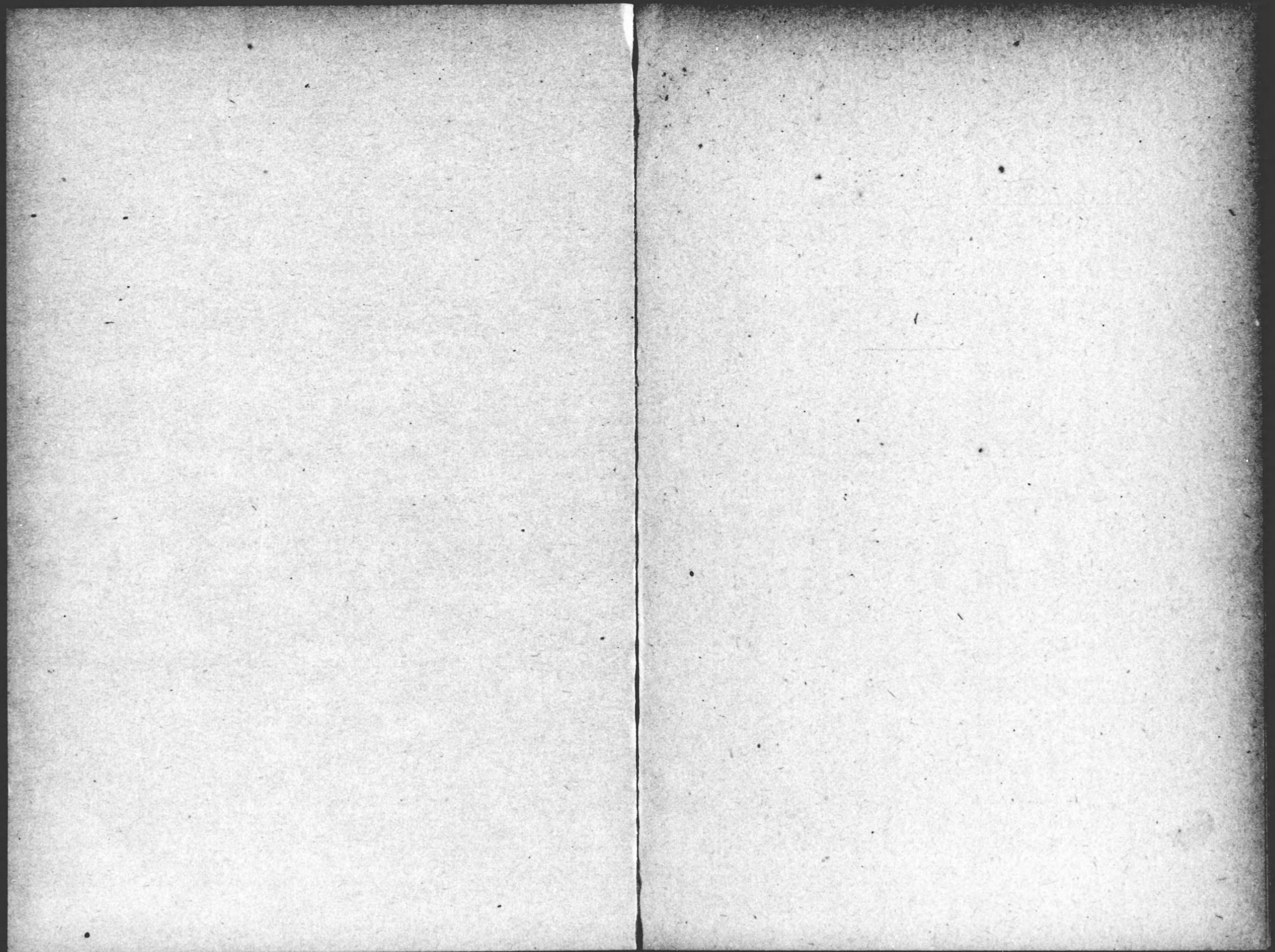
印刷所

東京市淺草區松葉町四六
盛文社印刷所

發行所

明倫會々史編纂所

東京市麹町區丸ノ内一ノ六海上ビル
共榮事務所内



944
20

